

常用漢字練習 Part II

Prof. Dr. TIO SUN-BUN 編
tiosunbun@gmail.com

2010-0801

あ

0001 亜 丘の上に白亜の洋館があり、亜麻色の髪あまいろ かみの少女しょうじょが住んでいる。

沖縄おきなわは亜熱帯気候あねったいきこうなので、ハイビスカスなどの熱帯ねったいの植物しょくぶつもたくさん咲さいています。

まねばかりしていると、亜流ありゅうで終わおってしまうよ。

0002 哀 秋あきは哀調あいちょうをおびた歌うたがよく似合にあう。

哀歓あいかんを共にしてきた親友しんゆうを亡なくし、哀悼あいとうの意いを示しめす。

少女しょうじょは哀愁あいしゅうをたたえたまなざしうみで海みを見つめている。

戦争せんそうで親おやを失うしなった少年しょうねんの悲哀ひあいを描かく。

母ははは子供こどもの命いのちだけは助たすけてくれるように、王おうに哀願あいがんした。

幼おきなくて、親おやに別わかれた子こは哀あわれだ。

0003 握 首相しゅしょうと大統領だいてうりょうは堅かたく握手あくしゅを交かわした。

握力あくりょくが強いお父つよさんが握とうり飯にぎはかちかちに固めしまっていた。

0004 扱 レストランでお父とうさんが、「この店みせの店員てんいんは客きやく扱あつかいがいいな」と言いいました。

新あたしい製品せいひんを購こう入にゅうした時ときには説明書せつめいしょをよく読よんで、取とり扱あつかいには十分じゅうぶん気きをつけましょ
う。

0005 案 道みちをよく知しらなかつたので案あんじていたら、案あんの定道じょうみちに迷まよいました。

□問題もんだいは案外あんがいやさしく、答案とうあんは簡単かんたんに書けました。

い

0006 威 □校長先生こうちょうせんせいは威厳いげんのある顔つきかおをしています。

□威勢いせいのよい掛け声かとともに、祭りまつのみこしが通りとおを練り歩ねいている。

0007 為 □表彰状ひょうしょうじょうはりっぱな行為こういをほめたたえるための賞状しょうじょうです。

□「為政者いせいしやは無為無策むいむさくを棚だなにあげて、税金ぜいきんの無駄遣むだづかいばかりちちしている」と、父ちちはよく、ぼやいている。

0008 尉 □尉官いかんの位くらいは昔むかしは大尉たいい、中尉ちゅうい、少尉しょういと分けられていましたが、いまの日本にほんの自衛隊じえいたいでは一尉いちい、二尉にい、三尉さんいに分けられています。陸上自衛隊りくじょうじえいたいは陸尉りくい、海上自衛隊かいじょうじえいたいは海尉かいい、航空自衛隊こうくうじえいたいは空尉くういと呼ばれています。

0009 異 □急きゅうに起きおる変わった出来事かを異変できごとといいます。

□体からだの異状いじょうで病院びょういんへ行いったが、検査けんさの結果けっか、異常いじょうなしでした。

0010 維 □織物おりものや紙材料かみざいりょうにする繊維せんいには蚕かいこの繭まゆなどの天然繊維てんねんせんいとナイロンなどの化学繊維かがくせんいがある。
また生物せいぶつの体からだを作つくっている細長い筋ほそながも繊維すじと呼ばれる。

□健康けんこうを維持いじするために、繊維質せんいしつの多い野菜おおをたっぷり食やさいべましょう。

□明治維新めいじいしんによって、新あたしい日本にほんが誕生たんじょうしました。

0011 慰 □父ちちの勤めつとている会社かいしゃでは一年一度いちねんいちど、慰安旅行いあんりょこうがあります。

□先日せんじつ、ぼくたち演劇部えんげきぶは老人ホームろうじんほを慰問むして、劇いもんを披露げきしました。

0012 遺 □遠足えんそくで縄文時代じょうもんじだいの遺跡いせきを訪ねたずねました。住居じゅうきょの遺構いこうや石器せっきを見学けんがくしました。

□お父さんとうがおじいさんいこつの遺骨おぼを、叔母さんいえいが遺影だを抱だいています。

ほんばん じつりょく いかん ほっき じゅんび いろろ
□本番で実力を遺憾なく発揮するには準備に遺漏があってはいけない。

0013 緯 □緯線は地球上の位置を現すために、赤道と平行に仮に引いたと考えた線です。南北の位置を現すために緯線で刻んだ目盛りを、緯度といいます。

けいさつ じけん けい い せつめい
□警察がテレビで、事件の経緯を説明しました。

0014 老 □日本銀行が発行する一万円札には「老万円」と大きく書いてある。

ながさきけん げんかい う いきしま わかし いき くに よ
□長崎県の玄界のなだに浮かぶ老岐島は昔「老岐の国」と呼ばれていた。

0015 逸 □みんなで意見を出し合っているうちに、話が最初の議題から逸脱してしまった。

おばあさんから、お父さんの子供時代の逸話を聞きました。

ことし やきゅうぶ しんにゅうぶいん いつざい
□今年の野球部の新入部員は逸材ぞろいだ。

0016 芋 □ジャガイモの種芋を、施肥して、土をかぶせました。

ふせい ゆうしじけん かんけい ようぎしゃ いも しき たいほ
□不正のな融資事件で、関係した容疑者が芋づる式に逮捕された。

0017 姻 □憲法二十四条には「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を…」とある。

お父さんの実家とお母さんの実家は結婚によってできた姻戚だ。

0018 陰 □陰気に見える人が、陰険とは限りません。

れきし 陰惨な出来事や陰謀が渦巻いている。

0019 隠 □友達が隠し芸を披露した。

ぼくの祖父は最近、店を父に任せて隠居した。

0020 韻 □よい詩は韻律が快く、読んだ後に深い余韻を味わわせてくれます。

でんわ でんぱ おな おんいん
□電話と電波は同じ音韻たとされます。

え

0021 詠 □^{おぐらひやくにんいっしゆ ならじだい かまくらじだい えいか なか ふじわらのていか ひやくしゆ えら つく}小倉百人一首は奈良時代から鎌倉時代までの詠歌の中から、藤原定家が百首を選んで作
ったという。

□^{げきじょう かんきやく おべら かしゆ えいしやう えいたん こえ も}劇場の観客たちはオペラ歌手の詠唱に詠嘆の声を漏らした。

□^{ちち たんか えいしやう じやうず}父は短歌を詠唱することが上手だ。

0022 影 □^{しろくろ ふ いる きつえい いんえい と ほくりよく しゃしん}白黒のフィルで撮影すると、陰影に富んだ迫力のある写真になる。

□^{ちい あに かげえ あそ}小さいころ、よく兄と影絵をして遊んだ。

0023 衛 □^{えいせい き せいかつ}衛生に気をつけて、生活しましょう。

□^{たいやう まわ まわ てんたい わくせい わくせい まわ まわ てんたい えいせい}太陽の周りを回っている天体が惑星で、惑星の周りを回っている天体を衛星といいます。

0024 疫 □^{えきびやう ひと むかし だいいりゆうこう}ネズミやノミによってうつるペストは疫病の一つで、昔のヨーロッパで大流行しまし
た。

□^{しゆとう てんねんとう めんえき おこな よぼうせつしゆ}種痘は天然痘への免疫をつくるために行う予防接種です。

0025 益 □^{こうえき じつえき てん りえき お もと ゆうえき}公益のためばかりか、実益の点からも、利益ばかりを追い求めないことが、有益です。

□^{えきちゆう はな みつ あつ つく}ミツバチは益虫で、花の蜜を集めて、はちみつをを作ってくれます。

□^{えきちやう し わた どり}益鳥として知られるツバメは渡り鳥です。

0026 悦 □^{としだま いもうと まんえつ}お年玉いっぱいもらった妹はご満悦のようすだった。

□^{い ぐ じやうず りやうり おとうと えつ}カレーライスに入れる具を上手に料理できたと、弟は悦に入っていた。

0027 謁 □^{えどじだい ぼくふ ちやくせつ けらい しょうぐん えっけん ひと はたもと えっけん ひと}江戸時代、幕府の直接の家来でも将軍に謁見できる人を旗本といい、謁見できない人を
御家人といった。

□^{きゆうでん さんじやう きし こくおう はいえつ}宮殿に参上した騎士は国王に拝謁した。

0028 閱 □図書館で読みたい本を閲覧カードに書いて、係の人に渡しました。

□壇上から王様が兵士を閲兵しています。

0029 沿 □日本は島国なので、沿海に栄えた町が数多くあります。

□私たちの小学校が、創立百周年を迎えました。お祝いの式で、校長先生が話してく
れた学校の沿革は興味深いものでした。

□祖母は私鉄の沿線に住んでいる。そこは川沿いの家なので、風通しがいい。

0030 炎 □浜辺で肌を焼いていたら、炎症を起こした。

□姉は陸上の県大会で優勝して、次は国体だと気炎をあげている。

0031 宴 □お父さんは宴会で、必ず手品の隠し芸をするそうです。

□祝宴は「かんぱい」の音頭で始まりました。

0032 援 □懸命に走る駅伝の選手に、沿道の人々が声援を送っている。

□困っている人にはできる限り援護の手を差し伸べるようにしよう。

0033 猿 □あの二人は犬猿の仲だそうです。

□動物園の類人猿や、猿山の猿は子供たちの人気者です。

0034 鉛 □ぼくは毎晩寝る前に、筆箱の中の鉛筆を全部削るのが習慣になります。

□水平面におもりを付けた糸をたらしただとき、その糸のたれる方向を鉛直または垂直と
いいます。この糸は重力の方向を示し、水平面に対して直角になります。

□亜鉛は青白色のもろい金属で、薬品やトタン板の原料に使われる。

0035 縁 □日当たりのよい縁側で、ネコが昼寝をしています。

えんにち てら けいだい
□縁日には寺の境内がにぎわいます。

お

0036 凹 □自動車じどうしゃの通行つうこうが激はげしく、路面ろめんにいくつもの凹凸おうとつができています。

□グラビア印刷いんさつなど、細こまかく美うつくしい印刷物いんさつぶつを刷するには凹版おうばんを用もちいています。

□反射望遠鏡はんしゃぼうえんきょうに使つかわれる凹面鏡おうめんきょうはとともよく磨みがき込まれていてます。

0037 応 □電話でんわが相手先あいてさきにつながったのに、話はなしかけても応答おうたうがない。

□父ちちに会あうために会社かいしゃを訪たずねたら、受付けうけつの人が丁寧ひと ていねいに対応おうたいしてくれます。

0038 往 □往時おうじは開墾かいこんで大活躍だいかつやくをした老人ろうじんが、田舎いなかの家いえで大往生だいおうじょうをとげた。

□人じんの往来おうらいが激はげしい繁華街はんかがいで、ぼくたちは右往左往うおうさおうした。

0039 殴 □友達ともだちが殴なぐり書きがのメモで、昨日けふの殴り込み事件きゆうきんの経緯けいゐを知らせてくれた。

□反抗はんかう的に口答くちごたえばかりする弟おとうとに我慢がまんできず、思おもわず殴なぐりつけてしまった。

0040 桜 □桜さくらは日本にほんの国花こっかで、春はるにうす紅色べにいろの花はなが咲さく、バラ科かの落葉高木らくようこうぼくです。

□花見はなみの季節きせつになると、公園こうえんは夜桜見物よざくらけんぶつに来きたる会社員かいしゃいんたちで、夕方ゆうがたからにぎやかです。

0041 憶 □憶測おくそくで判断はんだんしてはいけない。

□ぼくは入学にゅうがくした日ひのことを、はっきりと記憶きおくしている。

0042 乙 □お父さんとお母さんが競きそって作つくった料理りょうりはどちらも乙おつな味あじわいで、甲乙こうおつつけがたい。

□昔むかしは田植たうえする乙女おとめのことを「早乙女さおとめ」と呼よんでいたそうです。「さ」は神かみのイネといいう意味いみの接頭語せつとうごです。

0043 卸 □洋服ようふくの卸問屋おろしどんやが立たち並ならんだ通りとおは午前中ごぜんちゆう、たいへんにぎわいます。

しょうてん ひら わ や つき いったい たなおろし
□商店を開いている我が家では月に一回、棚卸をします。

0044 恩 □地球の生物が、みな太陽の恩恵を受けている。

がわ たす おんじん おんぎ かん
□川でおぼれたときに助けてくれた恩人にはいつも恩義を感じている。

0045 穩 □父の意見のおかげで、兄弟げんかは穩便に解決した。

せんせい おんけん かんが がた も ぬし
□わたしたちの先生は穩健な考え方の持ち主だ。

か

0046 仮 □家を建て直すことになり、仮住まいに引っ越した。

じっけん はじ た かせつ ただ しら
□実験をして、始めに立てた仮説が正しかったかどうかを調べた。

0047 佳 □海辺に眺望絶佳の佳景を写生した絵が、佳作に選ばれた。

けっこんひろうえん かきょう はい うた うた
□結婚披露宴が佳境に入って、歌を歌います。

0048 価 □その人の真価を發揮して価値ある人生を送れば、評価や声価は自然に生み出されるものだ。

ていか かかく たか とっか か
□定価では価格が高すぎて、特価でないと買えない。

あんか こうか えき た
□安価のものでも、高価なもより、役に立つものがたくさんあります。

0049 架 □近くの川に新しい橋が架けられることになり、いま、架橋工事が進められている。

としょかん しょか かくう とし ぶたい ものがたり みつ
□図書館の書架で、架空の都市を舞台にした物語を見付けました。

0050 華 □クリスマスを前に、繁華街は豪華な飾りで装います。

あね きれい きもの き かどうきょうしつ で か
□姉は華麗な着物を着て華道教室に出掛けました。

0051 渦 □渦潮は渦を巻いて流れる海水のことで、日本では徳島県の鳴門海峡の渦潮が有名です。

みちか うずま かたち かとりせんこう おも う
□身近にある渦巻きの形をしたものというと、蚊取線香が思い浮かびます。

□兄と弟がけんかをしていたので、止めに入ったら、ぼくまでもがけんかの渦中に巻き込まれてしまった。

0052 嫁 □先生は美しい花嫁姿の教え子に、目を細めた。

□自分の落度を認めずに、人に責任を転嫁するな。

0053 暇 □雨降りの日曜日に暇で退屈していたら、兄に、「余暇は楽しく利用しなければもったいないよ」と言われた。

□今年ぼくは寸暇を惜しんで読書に励んだ。

0054 禍 □わちゃしたちはできる範囲で社会の禍根を絶つよう努力しなければなりません。

□戦禍を被った人々に、ようやく安定した生活が戻ってきた。

0055 寡 □今年はお年玉が少ないと文句を言ったら、お金の多寡ばかりを気にしてはいけないと、母に諭されてしまいました。

□あの人は寡黙で、寡欲という評判です。

□寡婦という言葉があることを、わたしは寡聞にして知りませんでした。

0056 箇 □五箇条御誓文は五つの箇条書きとなっています。

□この文章をよく読むと、段落に分けられる箇所が三か所見つかるはずです。

0057 稼 □ぼくの兄は学費を稼ぐために、新聞配達をしています。

□新聞社は日夜、輪転機を稼働させて、フルスピードで新聞を印刷しています。

0058 蚊 □父にしかられたので、蚊の鳴くような声で返事をした。

□蚊取線香も、蚊帳も昔の夏に欠かせないものだった。

□林の中に蚊柱が立っています。

0059 我 □「自分の田にだけ水を引く」という意味から、自分に都合のよいようにいたり、行動したりすることを、我田引水といいます。

□人間は成長するにつれ、自我に目覚めていく。

□我が物顔に振る舞うなんて、周りの人に失礼だ。少しは人のことも考えて我慢しなければ。

0060 芽 □春になると、山々の草木が、次々と新芽を出し、若草色に染まります。

□理科の授業で、イネの発芽時期について学習した。

□公園で遊んでいると、子ネコが近づいてきて、そばを離れなくなった。最初はうとましかったけれど、あまりにもなついてくるので、愛情が芽生え、家に連れて帰った。

0061 賀 □毎年一月二日に、親戚の家へ、お年賀に行きます。

□水泳部が全国大会で優勝し、祝賀会が開かれました。

0062 雅 □温雅で、典雅な老人にはその上に、大きな雅量があります。

□水墨画に、風雅な雅趣を感じるといいます。

□優雅な雅楽の音が聞こえてきます。

0063 餓 □いまでは世界のある地域では人々が飢きんで餓死している。

□飢餓に苦しむ人々を救うための基金に、お年玉の一部を募金しました。

□ぼくの父は子供のころ、餓鬼大将だったそうだ。

0064 戒 □わたしたち兄弟はいつも両親からいたづらを戒められている。

□地震が起き、気象庁から、海に近い地域の住民は津波に警戒するようとの発表がありました。

□^{きょう}仏教^しで、^{ひと}死んだ人^つに^{なまえ}付ける名前^を、^{かいみょう}戒名^といいます。また、^{かいみょう}戒名^を付けられた^{ひと}人の^い生き
ていた^{なまえ}ときの^{なまえ}名前^を、^{ぞくみょう}俗名^といいます。

0065 怪 □^{しぜん}自然^{はいけい}を^{かいだん}背景^{うま}に^{うま}怪談^が生れた。

□^{ちち}父^{こども}は^{こども}子供の^{ころ}ころ^{かいりき}怪力^しで^{かいどう}知られる^{かいどう}怪童^{でした}。

0066 拐 □^{ちか}近く^{まち}の^{こども}町で^{こども}子供^{ゆうかい}が^{じけん}誘拐^おされる^{ようじん}事件^{しゅうだん}が^{とうげこう}起こり、^{しゅうだん}用心^{のため}のために^{しゅうだん}集団^{とうげこう}で^{とうげこう}登下校^をする^{こと}こと^{にな}な
った。

□^{かいしゃ}会社^{かね}の^{かいたい}金を^{ゆうえ}拐帯^{おとこ}して^{つか}行方^をを^{くら}ま^{して}いた^{おとこ}男^が、^{つか}捕^まった。

□^こ拐子^つに^{さら}連れ^{こども}去^いられた^{こども}子供^{いえ}が、^{とお}家^{ばしょ}から^{ほご}遠^くく^の場所^でで^{ほご}保護^{され}された。

0067 悔 □^{せいせき}テスト^{わる}の^{くや}成績^が悪^くくて、^{くや}悔^{しか}かった。でも、「^{こうかいさき}後悔^た先^にに^たたず」^{です}です。

□^{こくべつしき}告別式^きに^{ひと}来た^{くちぐち}人^くたちは^く口々^{ことば}にお^の悔^やみ^の言葉^をを^{述べ}述^{べて}いま^しました。

0068 塊 □^{じゃがいも}ジャガイモ^{サトイモ}や^{サトイモ}サトイモ^はは^{かいかい}塊茎^だだが、^{サツマイモ}サツマイモ^やや^{ダイコン}ダイコン^はは^{かいかん}塊根^だだ。

□^{ちず}地図^{たよ}を^{やまおく}頼^りに、^{やまおく}山奥^{きんかい}で^ほ金塊^だを^ほ掘^り出^すそう^とした^ののに、^で出^てくる^ののは^{つちくれ}土塊^{ばかり}ばかり^だだ^{った}。

□^{あさまやま}浅間山^のの^{ふもと}ふもと^{には}は^{まだ}まだ^{かいかい}塊^{じょう}状^{ようがん}の^だ溶岩^がが^{むき}むき^{出し}出し^にな^って^いる^にな^って^いる。

0069 壊 □^{かんきょう}環境^{はかい}の^く破壊^をを^く食^い止^めめる^こことが^{たいせつ}大切^{です}です。

□^{おおがたいふう}大型台風^{のため}のために、^{かわ}川^{ていぼう}の^{けっかい}堤防^{ぜんかい}が^い決壊^{した}した。全壊^{した}した^{いえ}家^もも、^{いく}いく^{つか}つか^ああ^{った}。

0070 懐 □^{とても}とても^{よく}よく^懐懐^{いて}いた^{イヌ}イヌ^が、^{しんせき}親戚^{うち}の家^へへ^もも^らら^われ^てい^きま^した。その^{イヌ}イヌ^のの^{しゃしん}写真^みを見る^{こと}こと

と、^{なつ}懐^{かしい}懐^{しい}思^いいで^{おも}胸^{むね}が^いい^{っぱ}い^にな^りま^す。

□^{ふところ}懐^いに入れて^も持^つこと^{から}から、^{さいふ}財布^{ても}や^{かね}手持^ちの^{かね}金^のの^{こと}ことを^{かいちゆう}懐^よ中^をを^呼呼^びま^す。

0071 劾 □^{ふせい}不正^{つみ}や^{つみ}罪^をを^あば^きだ^{して}して、^{せきにん}責任^をを^とら^せる^こことを^{だんがい}弾劾^とい^いま^す。

□^{ふせい}不正^{おこな}を^し行^つたり、^{しよくむ}職務^{ひんい}の^{きずつ}品位^をを^{きず}傷^つけ^{たり}たり^{した}した^{さいばんかん}裁判官^{さば}を^さ裁^くた^めに^{こっかい}国会^{では}では^{だんがいさいばんじょ}弾劾^{さいばんじょ}裁判所^でで

もう
を設けています。

0072 涯 生涯を通じて天涯孤独の人もいます。

不幸な境涯なので、力強く生きている友達を、ぼくは尊敬する。

0073 街 住宅街の街路樹のイチョウの葉が、街灯に照らされて美しい。

繁華街で街頭演説を始めた人がいた。

0074 概 友達はわたしにひどく憤慨しているようですが、理由は話してくれません。

お父さんはぼくをしげしげ見て、「おおきくなったな」と感慨深げに言いました。

0075 該 今回の展覧会に出展せれた作品の中には特選に該当する作品はなかった。

法案が成立する第一段階として、当該官庁での十分な審議を行う必要がある。

0076 概 転校生に、学校の概略を説明しました。

きみが計算に打ち込む気概はすごいけど、概算では答えが一けた違ってきます。

0077 垣 生け垣の間から、愛犬と遊んでいる友人を垣間見ました。

お母さんが垣根越しに、隣の家のおばさんと話しています。

石垣の前に人垣ができていたので見に行ったら、段ボール箱の中で子イヌが眠っていた。

0078 拡 問題を拡大させると、考えが拡散して、まとまりがつかなくなります。

軽自動車の拡声器から、廃品回収の呼びかけが聞える。

0079 核 きみは核心をついた質問をするね。

わたしたちは核実験に反対する人々の集会に参会し、でも行進をしました。

昔はおじいちゃんとおばあちゃんと同じく同居する家庭がたくさんあったが、いまは夫婦だけ

か、^{りょうしん}両親と^{こども}子供だけの^{かくかぞく}核家族の^{かてい}家庭が多い。

0080 殻 □わたしわ、^{うみ}海に^{およ}泳ぎに行ったときに、^{すなはま}砂浜でとてもきれいな^{かいがら}貝殻を見つけた。

□わたしたちは^{りか}理科の^{じゆぎょう}授業で、^{じしん}地震は^{ちかくへんどう}地殻変動によって起こることを^お学習しました。

□ぼくは^{なつやす}夏休みに、^{らんかく}卵殻に^{さいしき}彩色して、^{こま}細かく^{くだ}砕き、^{かみ}紙に^は張り付けて、^つ絵画作品を^{かいがさくひん}作ってみました。

0081 郭 □^え絵をかくときには^{さいしよ}最初に^{えんぴつ}鉛筆で^{りんかく}輪郭をかいてから、^{いろ}色を^ぬ塗っていく。

□^{ひめじじょう}姫路城は^{けんご}堅固に^つ積まれた^{じょうかく}城郭に^{かこ}囲まれ、^{たか}高い^{てんしゆかく}天守閣が^{そび}そびえている。

□^{おぼ}叔母は^{もんぶしやう}文部省の^{がいかくだんたい}外郭団体で、^{ようじきやういく}幼児教育にかかわる^{しごと}仕事をしている。

0082 較 □^{さばく}砂漠では一日の^{ついち}気温の^{きおん}較差が^{かくさ}大きい。

□^{きよねん}去年と^{ことし}今年の^{おんど}温度を^{ひかく}比較すると、^{ことし}今年の^{なつ}夏が^{ひかくてきす}比較的^お過ごしやすいことがよくわかる。

0083 隔 □^{えんかくち}遠隔地に^{たんしんふにん}単身赴任した^{ちち}父は^{かくげつ}隔月でしか^{かえ}帰ってきませんが、^{でんわ}電話は^{かくじつ}隔日に^ききます。

□^{とかい}都会から^{かくげつ}隔絶した^{むら}村に住む^す祖父が^{そふ}久しぶりに^{ひさ}ぼくを見て、^み隔世の^{かん}感に^う打たされる。

□^{ほうていでんせんびやう}法定伝染病の^{せきり}赤痢にかかった^{ひと}人が、^{びやういん}病院に^{かくり}隔離された。

0084 閣 □^{てんしゆかく}天守閣は^{しろ}城の^{ちゆうしん}中心ろなる^{ところ}所に^{たか}高く^{つく}作られた^{ものみ}物見やぐらです。

□^{ないかく}内閣の^{そうりだいじん}総理大臣と^{こくむだいじん}国务大臣によって^{ひら}開かれる^{かいぎ}会議を、^{かくぎ}閣議といいます。

0085 獲 □「^{いちとう}一頭も^{えもの}獲物が^と捕れない^ひ日もある」と^いハンターは言った。

□^{たいこう}クラス対抗リレーで、^おぼくたちの^{しやうり}クラスは^{かくとく}みごと、勝利を^と獲得しました。

0086 穫 □^{えひめけん}愛媛県は^{さいばい}ミカン栽培に^{てき}適した^{どじやう}土壌で、^{おお}多くの^{しゆうかく}ミカンが^と収穫できます。

□^{こんかい}今回の^{かぞくりやう}家族旅行は^{こども}子供たちにとって、^{しゆうかく}収穫の^{おお}多い^{たび}旅でした。

0087 岳 □^{ちち}父は^{にほんいち}日本一の^{ふがく}富岳や^{にい}二位の^{きただけ}北岳を始めとした^{はじ}数々の^{かすかず}山岳を^{さんかく}踏破した^{とうは}岳人です。

□お父さんの岳父がくふはお母さんのお父さんで、わたしにとってはおじいちゃんです。

0088 潟 □海岸付近で、砂州さいしゅうや砂丘さきゅうなどでへだてられてできた湖みずうみや沼ぬまのような地形や、湖みずうみの満ち

干ひによって、海の底うみが隠れたり現あらわれたりするする所ところを潟かたといいます。

□夏休みに、千葉ちばの叔父おじさんの家うちに遊びあそびに行き、引き潮いの干潟ひしおに出ひがたて、潮干狩しおひがりをしました。

□新潟県にいがたけんはロシアとの交流こうりゅうが深く、留学生ふかの受け入れりゅうがくせいなどもしている。

0089 括 □この辞書じしょでは原則げんそくとして、言葉ことばの意味いみを括弧かっこの中で説明せつめいしています。

□先生せんせいが、生徒せいとたちの作文さくぶんを一括いっかつして文集ぶんしゅうを作つくりました。

0090 喝 □いたずらいっかつっこを一喝ろうじんした老人しゅういが、周囲ひとの人の喝かっさいを博はくしました。

□人ひとを脅おどしてお金かねや品物しなものを取とる行為こういは恐喝きょうかつという罪つみになります。

0091 渴 □都会とかいは渴水かつすいなのに、森もりにわき出でた清水しみずで渴かつをいやせるなんて、何なんて幸しあわせなことだろう。

□世界せかい中のだれじゅうもか、平和へいわを渴望かつぼうしている。

0092 滑 □クラスの話はなし合あいは円滑えんかつに進すすんだ。

□冬ふゆ、雪ゆきの多おおい土地とちで暮くらすわたしたちはそりで雪ゆきの上うへを滑走かつそうして遊あそびます。

0093 轄 □私わたしたちが受うけている学校教育がっこうきょういくは文部省もんぶしょうが統轄とうかつしています。

□銀座ぎんざに本店ほんてんがある店みせの直轄ちよっかつみせ店みせが、今度こんど駅前えきまえに開店かいてんします。

0094 株 □ぼくたちは山歩やまあるきの途とちゅう中で、林はやしの中なかにあった木きの切り株きに腰かぶを下こしろし、休お憩きゅうけいした。

□ぼくの父ちちは会社かいしゃの株主かぶぬしです。

0095 刈 □芝刈しばかり機きを使つかって、わたしは毎日まいにち曜日ようびに庭にわの芝しばを刈かり込こみます。

□米こめはコンバインかで刈とるので、刈かり入れ時いにかまどきで刈かる姿すがたはほとんど見みられません。

かていさいえん は ざっそう くさか あつ なつ ひ とく たいへん
□家庭菜園に生えた雑草の草刈りは暑い夏の日だと特に大変です。

0096 肝 □肝臓は内臓の一つで、腹の右上にあり、消化を助ける胆汁を出したり、養分を蓄えたりする働きをしている。

なにごと じょうたつ じかん かんじん どりょく つづ
□何事も上達するまでには時間がかかる。肝心なのは努力を続けることだ。

0097 冠 □漢字の部首の一つに冠があり、草冠、竹冠、雨冠がよく使われる。

かんこんそうさい し べんり
□冠婚葬祭のしきたりを知っていると便利だ。

0098 看 □看護婦さんは入院患者の小さな変化も看過しない。

かんしゅ しゅうじん だっそうけいかく かんぼ
□看守は囚人たちの脱走計画を看破した。

ちか みせ かんぼん あたら
□近くの店の看板が新しくなった。

0099 陥 □城の一部を陥れそこを足がかりに攻め込み、城を陥落することに成功しました。

ほん よ おも さ え み
□本を読んでいて、思わず挿し絵に見とれてしまった。

0100 勘 □テストの直前に山勘で復習をした。でも、勘はずれた。

ほんとうに ころ い か かんべん
□ほんとうに心を入れ替えるというのなら、勘弁してあげよう。

0101 貫 □生徒会の席で、兄は最初から最後まで、制服の自由化に賛成する態度を貫き通したそうです。

ほっかいどう ほんしゅう むす つ せいかん かんつう ぜんこく ひとびと
□北海道と本州を結び付ける青函トンネルが貫通したときは全国の人々が喜びました。

えきまえ けんせつ とっかんこうじ おこな せんしゅう かんせい
□駅前ビルの建設は突貫工事を行い、先週、完成しました。

0102 喚 □野球場は大きな喚声に包まれて、大混雑だ。そのため、妹にはぐれないよう、注意を喚起した。

さいばんしょ ちち かんもんじょう おく ちち しょうかん
□裁判所から父あてに喚問状が送られ、父は召喚されるそうだ。

□^{いったい あびきょうかん か}一帯は阿鼻叫喚のちまたと化している。

0103 堪 □^{はる ふゆ さむ た しょくぶつ いっせい め ふ はじ あた い い みどり}春になると、冬の寒さに耐えた植物が一斉に芽を吹き始めて、辺りは生き生きとした緑
に^{つつ}包まれる。

□^{なんど やくそく やぶ かんになぶぐる ちょ き}何度も約束を破られ、堪忍袋の緒が切れた。

0104 敢 □^{やきゅうたいかい ひ こさめ ふ さむ しあい かんこう}野球大会の日は小雨が降って寒かったが、試合は敢行された。

□^{ひとびと かれ ゆうかん こうどう}人々は彼の勇敢な行動をほめたたえた。

0105 棺 □^{おだ ひょうじょう のうかん そぼ しゅつかん はは ごうきゅう}穏やかな表情で納棺されていた祖母の出棺のときになって、母たちは号泣した。

□^{こふんじだい にほん せきかん もち}古墳時代、日本でも石棺が用いられました。

0106 款 □^{かいしゃ ていかん たいせつ か}会社の定款には大切なことが書かれています。

□^{にほん ちょうき しゃっかんけいやく むす}日本とメキシコが長期の借款契約を結びました。

0107 閑 □^{かんせい じゅうたくがい さんぼ じどうこうえん みつ かんさん}閑静な住宅街を散歩して児童公園を見つけたが、閑散としていた。

□^{ちち ふゆ のうかんき とかい でかせ い}父は冬の農閑期になると都会に出稼ぎに行く。

0108 勸 □^{にゅうがくしき ひ かんゆう てにすぶ にゅうぶu けっせき おお たいぶかんこく う}入学式の日、勧誘されて、テニス部に入部したが、欠席が多すぎると大部勧告を受け
てしまった。

0109 寛 □^{おとうと まど わ いえ ひと}ぼくは弟とキャッチボールをしていて、隣の窓ガラスを割ってしまったが、その家の人
の^{かんだい しょうち はは}寛大な処置で、母にしかられずにすんだ。

□^{てら けいだい こども じゅうしょく かんよう せいしん せつめい}寺の境内でけんかをしている子供たちに、住職は寛容の精神について、説明してやり
ました。

□^{あに かんこう ひとがら じよせい けっこん}兄は寛厚な人柄の女性と結婚した。

0110 幹 □^{ちか かんせんどうろ とお ちち べんり よろこ}近くに幹線道路が通ることになり、父は便利になると喜びました。

□父は今度、高校のクラス会の幹事を務めるそうだ。

0111 歓 □中国の人気俳優が来日し、ファンの歓声がわき起った。パーティー会場に到着した彼は人々の歓待を受け、食事をしながら、歓談した。

0112 監 □物語の主人公が悪者に監禁されてしまった。監視されているので、なかなか逃げられない。ぼくははらはらしながら本を読んでいた。

0113 緩 □通学、通勤の電車の混雑を緩和してほしい。

□わたしはよく、動作が緩慢だといわれる。

0114 憾 □計画が失敗し、非常に遺憾に思っている。

□ぼくたちの野球チームは地区大会で実力を遺憾なく発揮した。

0115 還 □ヨットレース中に遭難したが、奇跡の生還を果し、最寄りの港から日本に送還してもらった。

□祖母の還暦の贈り物を、孫たちがお金を出し合って買った。

0116 環 □環状道路ができると便利にはなるが、自然環境は悪くなってしまう。

□環礁の海は熱帯魚の宝庫だ。

0117 艦 □潜水艦の乗組員たちは艦長の命令に従った。

□港に、艦艇が集結した。

0118 鑑 □モーツァルトの作品を鑑賞した。

□家にある掛け軸を、鑑定してもらった。

0119 眼 □目が痛いので眼科に行ったら、眼球に傷がついていると言われた。

□佐藤さんはとても読解力がある。まさに眼光紙背に徹すだ。

□兄は社長の眼鏡にかなって重要な仕事を任されたそうです。

0120 頑 □頑固一徹の父は頑固な水虫に悩まされている。

□兄は頑健な体つきだ。

き

0121 企 □学年で親ぼく会を開く企画が実現することになりました。

□不景気が続くと、多くの企業で、節約や合理化が行われるようになる。

0122 岐 □山歩きするときは道の分岐点に注意しよう。

□兄は大学卒業後、家業を継ぐか、大学院に進んで、研究を続けるか、人生の岐路に立ち、悩んでいます。

0123 忌 □祖父が死んだので、学校を一日だけ、忌引きした。

□どんなことも忌避しないで、忌たんのない意見を述べてください。

0124 汽 □汽船は大きな汽笛を鳴らしながら、出港していった。

□近くにある公園の住みに、昔大活躍した汽車の実物が展示されています。

□大きなビルでは汽缶を取扱うために、ボイラー技師が働きます。

0125 奇 □ダブルスチールという奇策によって、奇跡の逆転勝利を勝ち取った。

□奇談には奇人が出てきます。

0126 紀 □中国には紀元前の遺跡が数多くあります。

□十九世紀の世紀末には風紀が乱れたそうです。

0127 軌 □地球や太陽、月などの天体が宇宙空間を動いていく決まった道筋を、軌道と呼びます。

えん いちてん おな きより たも きせき
□円はある一点から同じ距離を保つの軌跡です。

0128 既 □既定の方針にしたがって、既成の事実として積み上げた既得権は守り抜こう。

しぜんかんさつかい きほう きじゆつ うてん けっこう
□自然観察会は既報で既述したとおり、雨天でも決行する。

けんこうしんだん きおうしょう き
□健康診断で既往症について聞かれた。

0129 飢 □世界のどこかでは今も飢餓に苦しみ、飢え死にする人が多くいる。

えいぞう きかつ なんみん う さむ た すがた か
□テレビの映像で、飢渴にあえぐ難民たちが、飢えと寒さに耐えている姿が描かれていた。

えどじだい とうほくちほう ききんもつが とれず た もの た り なく て 苦し が 繰 り 返 し 起 こ っ た。
□江戸時代、東北地方では飢きんもつが取れず食べ物が足りなくて苦しがり繰り返し起こった。

0130 鬼 □奇才が鬼気迫る形相で、鬼神を描いています。

そ ふ きせき はい ひ いえ そと おにび で はは はな
□祖父が鬼籍に入った日、家の外に鬼火が出たと、母は話しました。

いもうと おに くび と しっぱい よろこ
□妹はまるで鬼の首を取ったように、お母さんの失敗を喜んでいました。

0131 基 □これは基礎的問題だからきちんと解けるようにしよう。

ひさいみん すく ききん えんじょ
□被災民を救うための基金に、できるだけ援助しましょう。

せいかつ きほん み きばん べんがく
□生活の基本を身につけ、それを基盤に勉学にいそしみましょう。

0132 揮 □友人は合唱団の指揮で、音楽の実力を発揮している。

き はつ
□アルコールは揮発しやすい。

0133 貴 □貴賓席に、高貴そうな雰囲気醸した貴婦人が着席した。

きぞくしゆっしん きこうし つと かいしゃ こんどにゆうしゃ
□イギリスの貴族出身の貴公子が、お父さんの勤めている会社に、今度入社するそうです。

かい もんだい はなしあ きちよう いけん ぞくしゆつ
□クラス会でいじめ問題について話合ったら、貴重な意見が続出した。

0134 棄 □産業廃棄物が不法に投棄されている。

選挙で投票を棄権することは国民の権利を放棄することだ。

0135 旗 国旗を掲げた旗手を先頭に、選手団が入場してきました。

ぼくが旗頭になって子供会の新チームを旗揚げした。

0136 輝 兄の通っている学校は輝かしい伝統と光輝あふれる栄光に包まれた素晴らしい学校です。

陸上競技史上に残るような、輝かしい記録が、次々に生れた。

0137 騎 白馬に騎乗する騎士の美しい姿は中世ヨーロッパへのあこがれを呼ぶ。

運動会の騎馬戦で、ぼくらのチームは三人の鉢巻きを奪った。

0138 宜 叔父さんは仕事の便宜上、自動車を買った。

時宜にかなった処置を、適宜行っていけば、作物は育ちます。

0139 偽 無罪を主張する被告人はうそ偽りのない事実が認められる日を待ち望んでいる。

犯人は偽装工作をして、逃走した。

0140 欺 欺まんに満ちた答弁で、人を欺こうとしている。

世の中には詐欺まがいの商法が、横行しているので、甘い話には注意しよう。

0141 義 国民の義務として子供に受けさせなければならない教育が義務教育です。

母はきょう、歯科医院で義歯を入れてもらったそうです。

0142 儀 ふだんはおてんばな姉も、人と会うときは行儀がよい。

地球儀で、五大州と日本との位置関係を調べました。

0143 戯 幼稚園時代、わたしは遊戯が好きでしたが、今は球戯に夢中です。

クラスで劇を上演することになり、たくさんの戯曲の中から面白そうな作品を選んだ。

0144 擬 □塾の模擬テストで、擬声語と擬態語の問題がいっぱい出た。

0145 犠 □友達は自分の時間を犠牲にして、ぼくに勉強を教えてくださいました。

□先日、土砂崩れが起き、十名の犠牲者が出た。

0146 菊 □おばあちゃんは毎年、秋になると、菊人形を見に出掛けます。

□ぼくはすき焼きが大好きです。でも、春菊だけは苦手です。

0147 吉 □八幡宮に行っておみくじを引いたら、友達は大吉だったのに、わたしは小吉だった。

□易者に吉凶を占ってもらった母は吉兆が出たと、喜んでいた。

□大安吉日に、婚礼の吉事を執り行うという吉報が届いた。

0148 却 □訴えでも、裁判所に却下されるか、棄却されるか、どちらかでしょう。

□用事を閑却していたら、そのまま忘却してしまった。

□友達から借りた本を返却しないで、焼却してしまいました。

0149 脚 □マラソン大会で、脚力に物を言わせた健脚で、脚光を浴びた。

□「銀河鉄道」を脚色して、文化祭の劇の脚本を作りました。

□叔父はカメラと三脚を担いで、世界各地を行脚しています。

0150 虐 □飼いネコを捨てるのは生き物の虐待だ。

□戦争のさなかには敵の虐殺など、残虐なことが行われがちだ。

0151 及 □参加者は申し込み用紙の枠の中に住所及び氏名を記入してください。

□テレビが普及したことで、人々は世界の情報を得られるようになった。

0152 弓 □大相撲では結びの取り組みの後に、弓を持った力士が、土俵で行う儀式を、弓取り式と

いいます。

□弓道場では胴着を着てはかまを吐き足袋を履いて、正しい作法に従って^{ただ}的に向か^{したが}って^{まと}む^むやを放^{はな}つ。

□日本列島は北海道から沖縄まで弓状に伸びた形をしている。

0153 丘 □昼食の後、丘陵を下って河原に下りようとしたら、河原が段丘になっていました。

□鳥取砂丘に行って、砂の丘を上ったり、さんざん歩き回りました。

□中国の孔子は頭の形が周囲が高く、真ん中がくぼんだ形をしていたことから、「丘」と名づけられた。

0154 朽 □家が老朽化し、土台の木も朽ち木のようにぼろぼろで、今にも朽ち果てそうだ。

□いろいろな本の中には不朽の名作もありますが、すぐに腐朽してしまうような作品もあります。

□冬の雑木林を、朽ち葉の柔らかな感触を足に感じながら歩きました。

0155 糾 □市長を糾弾していた人たちの間で、糾弾方法をめぐって紛糾しました。

□いじめ問題で学校の責任を究明する動きが、PTAの中で起こっています。

□同士を糾合して、探検隊を結成しよう。

0156 宮 □王宮の中の宮殿には宮廷に使える人たちがたくさん住んでいます。

□妹に宮参りで、父と母は神宮にまで参宮しに行きました。

□宮司殺人事件は迷宮入りした。

0157 窮 □お父さんが失業すると、窮乏生活を強いられることになる。

□大きなイヌが、小さな犬小屋で窮屈そうに寝ています。

0158 拒 清廉な公務員は差し出された贈り物をしゅん拒し、拒絶しました。

自治体は条例を作って、住民投票を実施した結果、施設の建設を拒否することになりました。

妹が生意気なので、「本を貸して」と言ってきたとき、わたしははっきりと拒みました。

0159 拠 根拠のない話を、やすやすと信じるな。

そのスーパーマーケットは東京を拠点にして、日本全国に店を出しています。

0160 挙 挙手で賛成と反対の人数を調べ、クラスのみんなの意見をまとめました。

サクラが満開になった校庭で、入学式が挙行されました。

家の近所で、挙動の怪しい人物が、検挙されたそうだ。

0161 虚 ふと虚無感におそわれて、虚空を見つめた。

虚栄心の強い人はよく虚実と取り混ぜた話をするので、どこまで信じていいのかわからなくなってしまう。

生徒たちは先生の言葉に、虚心に耳を傾けた。

0162 距 お父さんは家から駅までの二キロの距離を往復とも健康のため徒歩で通っています。

三角測量では一人の人が棒を持ってたち、もう一人の人が測距儀をのぞいて、距離を測定します。

市民体育祭の短距離競走に、お父さんが参加します。

0163 凶 凶悪な犯人が凶行に用いた凶器を、裏山から発見した。

夏の天候が不順な今年は凶作になる。

日米で初めての衛星中継が、ケネディー大統領が凶弾に倒れたという凶報を伝えた。

0164 狂 大きな犬が狂暴な顔をして道にいたので、ぼくは別の道に行くことにした。

ねつきょうてき せんしゆ きょうそう わか
□熱狂的なファンが、選手たちのパレードを狂騒のうちに迎えた。

0165 享 □大好きだったおじいちゃんが、享年八十で亡くなった。退職してからは自由を享受し、
やきゅう つ おし
野球や釣りをぼくに教えてくれた。

あたた きこう とち ひと じんせい きょうらく らくてん おお
□暖かい気候の土地の人は人生を享樂する楽天なタイプが多い。

じゆう おも ぞんぶん きょうゆう おお
□自由を思う存分に共有しながら大きくなりたい。

0166 峽 □峡谷の峽間にはダムでできた湖が広がっている。

しろ ふね かんもんかいきょう つうか にっぽんかい はい
□白い船が関門海峡を通過して、日本海に入ってしまった。

0167 恭 □近所のおばさんは道で会うといつも、恭しくお辞儀をしてあいさつしてくれる。

けらい しゅじん きょうじゆん い あらわ
□家来は主人に恭順の意を表した。

0168 脅 □戦争の脅威にさらされている戦地の子供を救おう。

きょうはくじょう ひつせき しょうこ ゆうかいほんにん つか
□脅迫状の筆跡が証拠となって、誘拐犯人が捕まった。

0169 郷 □沖縄でもいままで郷土芸能が盛んで、若者が琉球舞踊や民謡を習っている。

ざつどう なか き きょうしゅう かん
□雑踏の中で聞くなまりに郷愁を感じる。

がわ くだ きやく がんきょうぼし した ぬ
□川を下るカヌーが橋脚にぶつかりそうになりながら、眼鏡橋の下を抜けていった。

0170 矯 □彼は悪い人ではないが、奇矯な振る舞いをすることがある。

し かい しれつきょうせい
□歯科医に、歯列矯正をしてもらいにいった。

0171 鏡 □一月十一日は鏡開きで、この日に、鏡もちを割って食べるのが習わしです。

り か じかん けんびきょう しょくぶつ さいぼう み
□理科の時間に、顕微鏡で植物の細胞を見ました。

0172 響 □先生に影響され、ジョギングが流行している。

□ P T A のバザーはすごい反響^{はんきやう}で、たくさんの品物^{しなもの}が集まった^{あつ}。

0173 驚 □ ぼくは妹^{いもうと}を驚か^{おどろ}そうと、へびのおもちゃ^なを投げつけた。すると妹^{いもうと}は驚き^{おどろ}のあまり失神^{しっしん}してしまった。

□ 苦手^{にがて}な数学^{すうがく}のテストで百点^{ひゃくてん}を取り、驚喜^{きやうき}していたら、父^{ちち}は「それは驚異^{きやうい}的な出来事^{できごと}だね」と言^いってほほへた。

□ 母^{はは}は祖母^{そぼ}の急死^{きゅうし}の知らせ^しに驚^{きやう}がくし、泣き崩^なれてしまった^{くず}。

0174 仰 □ 空^{そら}を仰ぎ見^{あお}ると、パラシュート^みの人がぼく^{じん}をめぐ^おりてきていた。仰天^{ぎやうてん}したな。

□ 鎮守^{ちんじゆ}さまを祭^{まつ}った神社^{じんじや}に、信仰^{しんこう}のあつ^{ひと}い人^{ごこくほうじやう}たちが五穀豊穰^いを祈^{いの}っていた。

0175 暁 □ まだ暁星^{さとのほし}の美^{うつく}しい早暁^{そうぎやう}に目^めが覚^さめ、外^{そと}に出^でて払暁^{ふつぎやう}の空^{そら}を仰ぎ^{あお}いました。

□ 暁雲^{さとのくも}に暁光^{さとのひかり}が差^さし込^こんだ。

0176 凝 □ 姉^{あね}は山登^{やまのぼ}りに凝^こっています。母^{はは}は肩^{かた}が凝^こったとよくこぼ^{いもうと}します。妹^{みみ}は耳^こを凝^こらして歌^{うた}を聞^ききます。父^{ちち}は凝^こり性^{しやう}で、野菜作^{しやう}りに励^{しん}んでいます。

□ 気体^{きたい}が液体^{えきたい}になることを凝縮^{ぎやうしゆく}といい、液体^{えきたい}が固体^{こたい}になることを凝固^{ぎやうこ}という。水^{みず}の凝固点^{ぎやうこてん}はセ氏^{せし}0度^どだ。

□ 投手^{とうしゆ}の投球^{とうきゆう}を観客^{かんきやく}は息^{いき}を凝^こらして凝視^{ぎやうし}している。

0177 斤 □ お使^{つか}いを頼^{たの}まれ、近^{ちか}くの商店街^{しょうてんがい}まで食パン^{しよくぱん}を買い^かに行^いった。

□ 明治^{めいじ}の初^{はじ}め、食パン^{しよく}一斤^{やくよんひやくごじゆうよん}は一ポンド^{げんそく}で、約四百五十四^{やくよんひやくごじゆうよん}グラムあるのが原則^{げんそく}でした。が、次第^{しだい}に原則^{げんそく}が崩^{くず}れ、今出^{いまで}は食パン^{しよく}一斤^{いちきん}の重^{おも}さは二百五十^{にひやくごじゆう}グラムから四百^{よんひやく}グラムと、店^{みせ}によってま^よちま^ちにな^なっています。

□ 斤量^{きんりやう}、斤目^{きんめ}、目方^{めかた}はどれも、はかり^{はか}で量^{おも}ったもの^{あらわ}の重^{ことば}さを表^{あらわ}す言葉^{ことば}です。

0178 菌 □カビヤキノコなどの体からだを作つくっている、細長い糸ほそながのような細胞さいぼうのことを、菌糸きんしといいます。

□夏腐りなつくさやすいものはとくに滅菌消毒めつきんしょうどくをすることが大切たいせつです。

0179 琴 □琴は古くは弦楽器げんがっきを総称そうしょうした語で、江戸時代以降ご、「そう」のことを琴と呼ぶ習慣しゅうかんがで

きましたが、楽器がっきの琴は「そう」と違って、弦を調節する柱がありません。

□お父さんの優しい言葉ことばが、琴線きんせんに触れたようで、お母さんは涙なみだぐみしました。

□兄は趣味の木琴もつきんを練習れんしゅうしている。

0180 筋 □ぼくはいつも、父に「物事を説明する時は筋道すじみちにしたがって話すようにしなさい」と注意ちゅういされる。

□兄はボディービルできたえたたたくましい筋肉きんにくを、ぴくぴくと動かして、自慢じまんする。

□母は卒業式そつぎょうしきの日の朝あさ、アイロンでズボンにきれいに筋目すじめを付けてくれた。

0181 緊 □先生から緊急きんきゅうの話はなしがあるから職員室しよくいんしつに来るようにといわれ、緊張きんちようしてしまった。

□緊密きんみつに連絡れんらくを取り合う。

0182 謹 □ぼくは正月しょうがつの書き初めかで、「謹賀新年きんがしんねん」と書いた。

□父は謹厳実直ちんげんじつちよくな人柄ひとがらで、みんなに信頼しんらいされています。

0183 襟 □わたしはお母さんに襟元えりもとに花はなの刺しゅうのあるかわいいブラウスぶらうすを買ってもらいました。

□恥ずかしそうにうつむいた文金高島田ぶんきんたかしまだの花嫁はなよめさんの襟足えりあしが、きれいだった。

0184 吟 □母は中世ちゅうせいフランスの吟遊詩人ぎんゆうしじんの作品さくひんを吟味ぎんみしています。

□母は詩吟しぎんの会かいに入会にゅうかいしました。

<

0185 句 □文章ぶんしょうの区切りくぎには必ず句点かならを打ちましよう。

□俳句の句会を開いて、句集を作りました。

□とても素晴らしい出来栄えなので、絶句して一言半句も文句が言えなかった。

0186 駆 □長距離の駆け足は頭を駆使しないと勝てません。

□町から暴力を駆逐しよう。

0187 愚 □努力をせずに愚痴を言うほど愚かなことはない。

□「家の愚息がお世話になっております」と父は言いました。

□そんな愚劣な行為をするなんて、愚の骨頂だ。人を愚弄するにもほどがあるよ。

0188 遇 □姉は奇遇なことに、旧友とパリでばったり会い、お互いに現在の境遇について伝え合ったそうだ。

□フェリーで大島に行く途中で、台風に遭遇した。

0189 屈 □プールで泳ぐ前の準備体操として、ひざの屈伸運動をしました。

□赤ちゃんの屈託のない笑顔を見たら、頑張る勇気がわいてきました。

0190 繰 □公園に行ってみるとサクラが満開で、花見に繰り出してきた家族連れでいっぱいでした。

□高校野球はどのゲームも熱戦が繰り広げられました。

0191 勲 □秋の叙勲者の名前が新聞に出ていた。

□兄は高校野球の県大会で殊勲のさよならホームランを放って、チームを優勝に導いた。

0192 薫 □薫風の中、着物の女性とすれ違ったら、世薫が漂っていた。

□父は薫製が好きです。

0193 群 □菜の花が群生している野原に、モンシロチョウが群れ飛んでいた。

ぼくの友達は何んぬあしはやもぬし
ぼくの友達は群を抜く足の速さの持ち主だ。

ぐんした しょうがっこう ごうどうたいいっくたいかい ひら
□郡下の小学校の合同体育大会が開かれた。

け

0194 刑 □私服刑事が、犯人逮捕に向かった。

けいき おひと けいむしょ で
□刑期を終えた人が、刑務所から出てきた。

0195 系 □系図によると、祖先は平家の系統らしい。

ちち さくねんらい けいれつ かいしゃ しゅつこう
□父は昨年来、系列の会社に出向しています。

0196 径 □三十八口径のピストルは直径が約九・七ミリです。

こも び やま こみち さ
□木漏れ日が山の小道に差してきます。

0197 契 □引越しのため転校していく友達と、別れを惜しみながら再会を契りました。

とう きょう あたら くるま か けいやく
□お父さんは今日、新しい車を買う契約をしてきたそうだ。

かんせん けいき あに じゅうどう なら はじ
□オリンピックの観戦を契機に、兄とわたしは柔道を習い始めました。

0198 恵 □おいしい水という、自然の恩恵を受けている。

さいけいこくたいぐう ごけい せいしん もと
□最恵国待遇は互惠の精神に基づきます。

0199 啓 □先生は少年時代、読書で啓発されたそうです。

てがみ はいけい はじ
□おじいちゃんの手紙はいつも拝啓で始まっている。

0200 掲 □教室の掲示板に、夏休みの行事予定が掲示されていますので、メモをしておいてください。

うんどうかい さいしょ こうき けいよう おこな
□運動会の最初に、校旗の掲揚を行いました。

0201 溪 □家族でハイキングに行き、溪谷伝いに歩きながら、いろいろな植物を見ました。

けいりゅう ほとりにある 民宿に泊まって、釣りを楽しみました。

□富士山には真夏でもたくさんの雪渓が残っています。

0202 蛍 □夜、蛍狩りに行ったら、たくさんの蛍が飛んでいて、きれいでした。

□暗くなってきたので、蛍光灯をつけました。

0203 携 □海で、妹がぼれそうになったが、みんなの連携プレーで、無事救助された。

□この医学者は家庭には必携の書だ。

0204 継 □伝統工芸の職人の悩みは後継者が少ないことだ。

□野球中継が、継続して放送されることになった。

0205 慶 □ぼくの弟は家弁慶で、家の中とは違い、よその家に行くと、借りてきたネコのように、おとなしくなる。

□来年、我が校では創立周年を記念する慶祝行事が催されます。

□祖父の米寿のお祝いに、親戚一同で集まり、慶賀パーティーを行った。

0206 憩 □サッカーの練習の休憩時間に、ジュースを飲みました。

□ずいぶん根を詰めて勉強したので、今から十分間ほど小憩するとしよう。

0207 鶏 □家で鶏を飼っているので、わたしは毎朝、新鮮な鶏卵を食べることができる。

□養鶏場の見学に行き、鶏舎でたくさんの鶏を見た。

□「鶏口となる牛後となるなかれ」は大きな組織の中で部下になるよりも小さな組織で

頭になる方がよいという意味を表す、昔の中国の人が作ったことわざだ。

0208 鯨 □昔は捕鯨が盛んで、肉は食用にし、骨などは鯨油にしていました。

□祖母は着物を縫うとき、鯨尺を使っていた。

0209 撃 □力の襲撃を撃退したら、別の力に反撃された。

□ジケン^{もくげきしや}の目撃者は^うショックを受けた。

0210 激 □快晴^{かいせい}だったので、傘^{かさ}を持たずに外^{がい}出したら、天候^{てんこう}が激変^{げきへん}し、雷^{かみなり}とともに激しい雨^{はげ}が降り^{あめ}ずぶぬれになった。

□選挙^{せんきよ}の激戦地^{げきせんち}で当選^{とうせん}した議員^{ぎいん}はお祝^{いわ}い^{ひと}にかけつけた人々の拍手^{はくしゅ}に感激^{かんげき}し、涙^{なみだ}ぐんだ。

□父^{ちち}は突然^{とつぜん}、胃^いに激痛^{げきつう}が走り、救急車^{はし}で病院^{きゅうきゅうしや}に運ばれました。

0211 穴 □おじいちゃんと遊ぶ^{あそ}と、釣^つりの穴場^{あなば}を教^{おし}えてくれたり、秘密^{ひみつ}の穴蔵^{あなぐら}を見^みせてくれたりして楽しい。

□点数^{てんすう}の悪い^{わる}テストをポケット^{かく}に隠^{かく}していたら母^{はは}に見^みつかって、墓穴^{ぼけつ}を掘^ほる結果^{けっか}になった。

□旧石器時代^{きゅうせつきじだい}の人々^{ひと}は穴居^{けつきよ}う生活^{せいかつ}をしていた。

0212 傑 □この「快傑^{かいすぐる}ゾロ」はものすごく面白^{おもしろ}かった。こういう本^{ほん}を傑作^{けっさく}というのだと思う。

□オリンピックの選手^{せんしゅ}は傑出^{けっしゅつ}した運動能力^{うんどうのうりよく}を持^もっています。

0213 潔 □高潔^{こうけつ}な彼^{かれ}が、不正^{ふせい}を働^{はたら}くはずがない。疑^{うたが}うのなら、ぼくが彼の潔白^{かれ}を証明^{けっぱく}しよう。

□不潔^{ふけつ}な手^てで食物^{しょくもつ}をさわると、食中毒^{しょくちゅうどく}の原因^{げんいん}になります。

□先生^{せんせい}は潔^{いさぎよ}い性格^{せいかく}で、授業^{じゅぎょう}の説明^{せつめい}も簡潔^{かんけつ}でわかりやすい。

0214 儉 □わたしは小遣^{こづか}いを儉約^{けんやく}しています。

□昔^{むかし}の人^{ひと}たちはみんな、よっても勤儉^{きんけん}だった、と祖父^{そふ}は口ぐせ^{くち}のようによく言^いいます。

0215 兼 □山田^{やまだ}くんは学級委員^{がっきゅういん}と児童会長^{じどうかいちょう}を兼任^{けんにん}しています。

□彼の姉^{かれ}さんは才色兼備^{さいしよくけんび}な魅力的^{みりよくてき}な女性^{じよせい}です。

0216 剣 □少年剣士^{しょうねんけんし}たちが道場^{どうじょう}で、剣道^{けんどう}の寒げいこ^{さむ}をしています。

□いくら竹みつ^{たけ}を使った剣劇^{つか}だといっても、真剣^{けんげき}に演^{しんけん}じない^{えん}とけが^{えん}をしています。

0217 健 健全な生活が、健康には重要だ。

祖父母とも健在で、壮健に過ごしています。

0218 圏 私たちの学校のサッカーチームは惜しくも優勝圏外に落ちた。

北極圏は北緯六六度三三分以北の地域で、夏至には一晩中太陽が沈みません。

0219 嫌 ぼくのお父さんは別に理由もないのに、期限の悪いことがあります。

なまけていたら、得意な算数の成績が下がってしまい、自己嫌悪に陥った。

0220 献 献血は身近なところで、社会に貢献できる手段です。

お母さんは「今夜の夕食の献立は秘密よ。楽しみにしていてね」と言いました。

兄は先日、初めて書いた本を恩師に献上しました。

0221 絹 日本の美しい絹織物は西欧の人々に人気があります。

おばあちゃんはわたしはお正月の晴れ着に締めるようにと、正絹の帯をプレゼントしてくれました。

絹布は布地を傷めないように、絹針と言う細い針で、ていねいに縫われます。

0222 遣 小遣いを無駄遣いしないようにと、弟が母から派遣されてきた。

奈良時代から平安時代、日本は遣唐使を唐へ遣わした。

言葉づかいが乱暴だと、心遣いも疑われてしまいます。

0223 憲 今の憲法は平和憲法です。

児童憲章では「能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」がうたわれています。

0224 謙 謙譲の美德とはお互いに譲り合う気持ちを大切にすることです。

兄は校内で、成績がトップなのですが、謙虚な性格なので、そのことを自慢しません。

0225 繭 昔は正月に、木の枝に繭玉を飾りつけて、カイコガ病気にならず、たくさん繭を作るよ
うに祈る習慣がありました。

0226 顕 顕微鏡で顕花植物の花を観察した。
 自己顕示欲はだれにでもある。

0227 懸 明日の試合には優勝が懸かっている。悔いの残らないように、みんなで力を出しきろう。
 懸垂ができるようになりたくて、一生懸命練習をした。
 父は長年の懸案が今年中にかたづくかどうかを懸念している。

0228 幻 幻想的な映画だということで見てもしたが、幻滅して帰ってきた。
 人の一生は幻のようにはかない。
 四十度の高熱のため、幻覚にうなされる。

0229 玄 父の将棋の腕前は玄人顔負けだ。
 留守番をしているときに、インターホンが鳴り、おばあちゃんが来たことを伝えたので、
玄関の鍵を開けた。
 最近、日本の伝統的な文化である茶道や華道の幽玄世界に見せられる外国人が多いそう
です。

0230 弦 わたしは市民会館に弦楽四重奏のコンサートを聞きに行った。
 冬空に、上弦の月が光っている。

0231 源 近くの川の源流をたどって、源泉に行き当たった。
 地震の震源地の近くでは電源が断たれた。

0232 巖 玄関の地で暮らす人々は巖冬の期間を暖かく過ごす、多くの知恵を持っている。

病院で、^{びょういん} 厳密な^{げんみつ} 検査^{けんさ} を受けた。

こ

0233 己 知己^{ちき} もいますが、初めて^{はじ} の人^{ひと} も多い^{おお} ので、みんなそれぞれに自分のこと^{じぶん} を紹介^{しょうかい} しあう
自己紹介^{じこしょうかい} をしてみましょう。

自分一己^{じぶんいつこ} の利益^{りえき} ばかり^{かんが} 考^{かんが} えていると、利己主義^{りこしゆぎ} に陥^{おちい} ってだれにも助けてもらえなくなり
ます。

克己心^{こつきしん} を養^{やしな} うために、わたしは毎日^{まいにち}、日記^{にっき} をつける。

0234 孤 孤独^{こどく} な老人^{ろうじん} が、孤軍奮闘^{こぐんふんとう} して、孤星^{こるい} を守^{まも} っている。

理想^{りそう} を求める孤高^{もと} の人^{ひと} はしばしば孤立^{こりつ} することがある。

瀬戸内海^{せとないかい} の孤島^{ことう} で、一人^{ひとり} の孤児^{こじ} が元氣^{げんき} に育^{そだ} っている。

0235 弧 日本^{にほん} は島^{しま} が弓^{ゆみ} なりに連^つ なっている弧状列島^{こじょうれつとう} で、島^{しま} をつなぐと弧線^{こせん} が描^か けます。

扇形^{おうぎがた} の図形^{ずけい} から円弧^{えんこ} を求^{もと} めて、答^{こた} えを括弧内^{かっこない} に記^{しる} しなさい。

クワの木^き で作^{つく} った弓^{ゆみ} を桑弓^{くわゆみ} と言^い い、この弓^{ゆみ} でヨモギのや^い を射^ふ る風習^{ふうしゅう} が古^{ふる} く中国^{ちゅうごく} にありま
した。

0236 故 時計^{とけい} が棚^{だな} の上^{うへ} から落^お ちて、故障^{こしょう} しました。

故人^{こじん} をしのんで、その人^{ひと} の故郷^{ふるさと} を訪^{まも} ねました。

0237 誇 いくら誇^{ほこ} るものがあるからといって、誇大^{こだい} に宣^{せん} 伝^{でん} することはよくない。

力^{ちから} を誇^こ 示^じ しなくても、君^{きみ} が強^{つよ} いことはよくわかる。

0238 鼓 運動会^{うんどうかい} で、鼓笛隊^{こてきたい} が、選手^{せんしゅ} を鼓舞^{こぶ} している。

ピアノの発表会^{はっぴょうかい} で出番^{でばん} がきた。鼓動^{こどう} が激^{はげ} しくなる。夢中^{むちゅう} で引^ひ き終^お えたら、拍手^{はくしゅ} の音^{おと} が

こまく ひび
鼓膜に響いた。

わたし たんじょうび れす とらん い りょうり したつづみ う
□私は誕生日にレストランへ行き、料理に舌鼓を打った。

0239 顧 □父の店ではご愛顧のこたえて、さんわりびき こきやく
顧客サービスをします。

やきゅうぶ こもん せんせい やきゅう だいす
□野球部の顧問の先生はプロ野球が大好きです。

0240 呉 □私は母と姉について、呉服店に行った。店内にはたくさんの呉服が飾られていた。

さんごくし さんごく ひと ご くにかつやく
□『三国志』では三国のうちの一つに呉の国があって、ずいぶん活躍している。

あいて の おな の い ごえつどうしゅう
□相手のチームと同じバスに乗ってグラウンドに行くとはまったくの呉越同舟だ。

0241 悟 □人間、悟りを開くことは難しいものだそうです。ぶっきょう ざと ごとく
仏教では悟ることを、「悟得」とか、

ごにゅう ごどう
「悟入」とか、「悟道」とか、いうそうです。

ごせい にんしき のうりよく ひと
□悟性は認識する能力の一つです。

くる かくご うえ
□苦しいのは覚悟の上のことだ。

0242 碁 □道路が碁盤の目のように、区画されています。

ちち い ご なら しろ ごいし も
□ぼくは父に囲碁を習っていますが、白の碁石はまだ持たせてもらえません。

0243 護 □おととい、近所の幼稚園児が行方不明になり、子供の安否が気づかわれましたが、今朝、

ぶじ けいさつ ほご
無事に警察に保護されました。

こんしゅう どうぶつあいごしゅうかん
□今週は動物愛護週間です。

0244 公 □公務員は公衆に奉仕する公僕です。

こうえん かいえん きねん おんがく こうえんかい ひら
□公園の開園を記念して、音楽の公演会が開かれました。

0245 孔 □鼻孔に虫が飛び込むと、鼻がむずがゆくなって、くしゃみをしたくなる。

かがみ うつ
□鏡に映ったひとみを見つめると、どう孔が開いたり閉じたりするのがわかる。

0246 功 □年功序列という考え方の功罪が、いろいろな人から指摘されています。

ちち かいしゃ ながねん こうろう たい ひょうしょう う
□父は会社から、長年の功勞に対して、表彰を受けました。

0247 巧 □精巧な工作物だと、作った人の技巧の巧拙がすぐにわかってしまう。

こうみょう しいはこ たく たたか しいこうしゃ ゆうしょうこうほ お か
□巧妙な試合運びで、巧みに戦った試合巧者が、優勝候補を押さえて勝った。

こうげんれいしよく も と い
□巧言令色を持って取り入ろうとしても、だめですよ。

0248 甲 □船の甲板で甲羅を干していると、突然甲高い笑い声が聞こえました。

こうかくるい こうちゆうるい こうちゆう す
□甲殻類よりも、ぼくは昆虫類の甲虫が好きだ。

ふたり え こうおつ
□二人の絵のうまさは甲乙つけがたい。

0249 后 □皇太后陛下は孫である皇太子のご成婚を、お喜びになられたことでしょう。

か こうごうへいか おだ ほほえ にほんこくみん ほうもんさき
□いつまでも変わらぬ皇后陛下の穏やかな微笑みは日本国民ばかりでなく、ご訪問先の

せかい かっこく ひとびと こころ なご
世界各国の人々の心を和ませてくださるものです。

わたしはせんしゅう にちようび せいたいこう えいが み
□わたしは先週の日曜日に、ビデオで、「西太后」という映画を観ました。

0250 江 □江戸の前の海で捕った魚を使ったところから、江戸前のすしというのだそうです。

ゆうぐ い え ふね もど
□夕暮れの入り江に、船がゆっくりと戻ってくる。

0251 坑 □炭坑からトロツコに乗ってきた人たちは坑口を出るとほっとしたようすでした。

こうない うすぐら こうどう て
□坑内は薄暗くてひんやりしている。ヘルメットのライトが坑道を照らしている。

なが あいだ ほ つづ たんこう へいざん たんこう はいこう
□長い間、掘り続けてきた炭鉱も閉山して、炭坑も廃坑になった。

0252 孝 □父と母は親孝行にと、祖父母を温泉に招待した。

□ 昔の偉い人の伝記には孝養を尽くしている姿や孝心が数多く描かれていて、とてもお年寄りを大切にしているのがよくわかった。

□ 忠孝は江戸時代の武士が持っていないてはならない美德の一つだ。

0253 抗 □ 選手は審判に必死に抗議したが、審判の判断には抗しきれなかった。

□ 風邪をひいて医者に行ったら、注射を打たれて抗生物質を渡されました。

□ 徹底抗戦して抵抗した城も、最後には降伏しました。

0254 攻 □ 守勢側に援軍が到着して、攻守所を変え、攻防が繰り広げられています。

□ 一回裏の攻撃で、相手投手を速攻で攻略して得点を上げた。

□ 敵の猛攻をしのいだ後、攻勢に転じた。

0255 拘 □ つまらないことに拘泥してけんかすると、お母さんの拘束を受けることになるよ。

□ 警察に拘引された容疑者が裁判で20日間の拘留に処された。

□ 拘置所の高い壁に沿って、毎朝ぼくは犬の散歩をします。

0256 恒 □ 恒例となった平和集会で恒久の平和を祈りました。

□ 恒星を観察した。

0257 洪 □ 今年の梅雨は大雨が続き、日本の各地から洪水のニュースが伝えられた。

□ 連休の遊園地は人の洪水だった。

0258 皇 □ フランス革命の後、ナポレオンはフランスの皇帝になった。

□ 皇居には天皇陛下と皇后陛下、皇太后、それに内親王がお住まいになっている。

□ 皇太子夫妻は国民体育大会に出席されました。

0259 貢 □親は子供に、社会に貢献する人になってもらいたいと願うものです。

□平安時代から江戸時代まで、日本の税金は農民が差し出す年貢を基本にしていた。

0260 康 □わたしは病気になって始めて、健康の大切さを知りました。

□京都にある方広寺の鐘に刻まれた「国家安康」の文字を巡って、徳川家康は大阪に攻め込み、
冬の陣を起こしました。

□祖父は面会謝絶の重傷でしたが、何とか持ち直して現在は小康状態にあります。

0261 控 □控え室で控えめに座っていた。

□地方裁判所の判決の後、弁護団は高等裁判所に控訴した。

0262 慌 □突然、先生がテストを実施すると言ったので、クラス全員が恐慌を来しました。

□火事と聞いて慌てたり、来客が来て慌てたり、まったく慌ただしい一日だったと、お母
さんは言いました。

0263 絞 □「雑きんがけは雑きんをよく絞ってからふかないと、だめじゃないか」と、先生に散々絞
られました。

□アメリカでは電気椅子ですが、日本では私刑の執行は絞首刑で行います。

0264 項 □入学試験の要項を取り寄せ、家庭でその項目を一つ一つ検討しました。

□先生が、黒板に遠足の注意事項を書きました。

0265 溝 □ぼくの町では道路のわきに掘られた側溝を排水溝として利用している。

□日本海溝で最も深いのは一万六千八百八十メートルです。

0266 綱 □多くの綱目からなる区画整理の計画大綱が発表され、住民に要項が配布された。

□汚職事件を起こした官庁は今後は手綱を締めて綱紀粛正に当たることを誓った。

いのちづな きょくげいし つなわた はじ
□命綱もつけずに曲芸師は綱渡りを始めた。

0267 酵 □パンは小麦粉にイースト菌を混ぜて発酵させたものです。

た もの い ちょう こうそ はたら ぶんかいきゅうしゅう
□食物は胃や腸で、酵素の働きによって、分解吸収されます。

さけ つく こうぼ つか
□酒を造るとき酵母を使います。

0268 稿 □祖父は川柳が好きで、よく新聞に投稿している。

しんゆう せいとかいちょう せんきょ りっこうほ えんぜつ そうこう か
□親友が生徒会長の選挙に立候補したので、演説の草稿を書いてあげた。

ともだち きょう の かいだん つづ おとうと な
0269 興 □友達が、興に乗って怪談を続けたので、弟は泣いてしまった。

しゃかいが じかん ていこく こうほう れきし きょうみぶか まな
□社会科の時間に、ローマ帝国の興亡の歴史を興味深く学びました。

わたし まち むかし しろしたちょう たてもん きんこう うつく まちな
0270 衡 □私たちの町は昔ながらの城下町で、建物の均衡がとれた美しい町並みです。

じょしたいそうきょうぎ へいきんだい うつく きょうぎ へいこうかんかく やしな くんれん ひつよう
□女子体操競技の平均台は美しい競技ですが、平衡感覚を養う訓練が必要です。

ます はか つか もの なが りょう おも はか
□わたしたちはものさしや升や量りを使って、者の長さや量や重さを量りますが、これら
の道具を、まとめて度量衡といいます。

せいこうじょ まいにちてっこう たいりょう せいさん
0271 鋼 □製鋼所では毎日鉄鋼を大量に生産しています。

こうたま べにいろ あおいろ い
□鋼玉は紅色のものをルビーといい、青色のものをサファイアと言います。

0272 購 □コンバインは高い農機具ですが、購買力のある農家は購入します。

しんぶんはんばいてん ひと しんぶん こうどくりょう しゅうきん き
□新聞販売店の人が新聞の購読料の集金に来た。

0273 拷 □戦後の日本では拷問を禁止していますが、昔はずいぶん拷問にかけられた人がいました。

ゆうぼくみん のうみん しょくりょう ごう むかし ごうもん ひと
□遊牧民が、農民から食料を拷りやくした。

0274 剛 □祖父は質実剛健をモットーとする剛毅な性格の人です。

□剛ごうの者ものと呼ばれた武者よは合戦むしやでも遺憾かつせん無く剛勇いかなぶりを発揮ごうゆうした。ほっき

□日本にほん犬けんは軟らかい綿毛やわの間わたげから剛毛あいだが生えるという特徴ごうもうがあります。とくちょう

0275 豪 □大おおきくなったら、豪華ごうか客船きやくせんでニューヨークへ行き、豪遊ごうゆうしたい。

□新潟にいがた県けんは日本にほん有数ゆうすうの豪雪ごうせつ地帯ちたいだ。

0276 克 □克己こっき心しんを養やしなえば、この難関なんかんもきつと克服こくふくすることができます。

□グループ学がく習しゅうで、ぼくたちは町まちの歴史れきしを克明こくめいに調しらべようと思おもっています。

□理想りそうと現実げんじつとの相克そうこくに悩なやむことが大切たいせつなのです。

0277 穀 □コメ、ムギ、アワ、キビ、マメの五種類ごしゅるいの穀物こくもつを五穀ごこくと言いいます。

□ぼくは田舎いなかで、農のう業ぎようを営いんでいるおじいちゃんいとのところいに行いって、イネだっこくの脱穀てつだを手伝てったことがあります。

□北陸ほくりく地方ちほうは水田すいでんが多おほく、稲作いなさくが盛さかんで、日本にほんの穀倉こくそう地帯ちたいである。

0278 酷 □夏休なつやすみはサッカーの練れん習しゅうが毎日まいにちのようにあり、酷暑こくしょの中なかで体からだを酷使こくししました。

□弱よわい動物どうぶつをいじめるなんて、残酷ざんこくだ。

0279 獄 □彼かれは地獄じごく耳みみです。

□先日せんじつ、囚人しゅうじんが集団しゅうだんで、監獄かんごくから脱獄だつごくするスリル満点まんてんのアメリカ映画えいがを見みた。

0280 昆 □夏休なつやすみの昆こん虫ちゅう採集さいしゅうが、今いまから楽たのしみです。

□お母おさんが、なべに昆布こんぶを敷しいてだしを取とっています。

□江戸えど時ときだ、青木あおき昆陽こんようという学がく者しゃが、サツマイモにほんを日本にほんに広ひろめました。

0281 恨 □散歩さんぽが大好きだいすきなイヌはわたしが一人ひとりで出でかけようとするのを、恨うらめしそうな目めつきで見ていた。

□リレーで負けたことは今年の痛恨事だった。

0282 紺 □学校の制服によく使われるのは紺色だ。

□おばあさんは人の洋服ばかり縫っていて、自分ではおしゃれをしない。自分で「紺屋の白
ばかまね」と言っていた。

□運動会の朝、紺ペきの空が広がっていた。

0283 魂 □人間は死んだ後も魂が残るといふ霊魂不滅説を信じ、鎮魂の儀式が行われた。

□たくましい面魂の友達が急ににこにこしても、魂胆は丸見えです。

□精魂込めて絵をかいたら、精根尽き果てた。

0284 墾 □明治時代、富国強兵を目指した政府は農業の発展のための開墾や、工業の発展おための

工場設置を行いました。

□質問をしたら、先生が懇切丁寧に教えてくれた。

□友達の家遊びに行ったら、お母さんから懇ろな持て成しを受けたうえ、お土産までも
らいました。

さ

0285 佐 □江戸時代の末、江戸幕府を守ろうとしたことを佐幕といい、佐幕派の人々は幕府を倒そう

とした人々と対立した。

□今日、ぼくは副班長に選ばれ、班長の補佐を務めることになった。

□軍人の階級の一つに佐官がある。佐官はさらに、大佐、中佐、少佐の三つの階級に分れ
ている。

0286 唆 □先生は教室を一巡して、クラスみんなに、漢字の書き方を示唆して回った。

□「ブタもおだてれば木に登る」などと、悪いことを教唆してはいけない。

□友達に唆されて、知らない人の家のチャイムを鳴らしたら、いきなりぼくのお母さんが出てきたので、びっくりしました。

0287 詐 □近ごろ、偽札を使う詐欺師が出没します。

□経歴を詐称した人物が、会社を首になった。

0288 鎖 □一六三五年の江戸幕府による鎖国例で、日本は二百年以上の間、世界の発展から取り残された閉鎖的な国となった。

0289 災 □火災などの突然の災害に備えて、学校で防災訓練が行われた。

□今年もまた災難がありませんように。

0290 砕 □南極では巨大な氷を砕いて船の進路を切り開く砕氷船が活躍する。

□碎石場では岩を粉碎する大きな音がしている。

0291 宰 □宰相は国の政治を任された人を意味します。日本の場合は総理大臣が宰相ということになります。

□ビルの建設工事を宰領するのが、父の仕事です。

□わたしの母はある俳人の主宰する会で、俳句作りを習っている。

0292 栽 □わたしは朝顔を栽培しています。

□おじいさんは盆栽が趣味で、毎日、朝と夕方に熱心に手入れをしています。

0293 彩 □春が来ると、サクラのピンクと若葉の緑が、山を彩ります。

□その画家の作品は独特の色彩で描かれていて、異彩を放っています。

0294 斎 □父は書斎にこもり、熱中して何かに打ち込んでいる。

□町の齋場で、町議会議長の葬式が、盛大ながらしめやかに執り行われました。

0295 裁 □家庭科で裁縫をすることになり、裁断の仕方を習って、布を裁ちました。

□きれいな紙で、プレゼントを体裁よく包みました。

0296 債 □伯父は事業に失敗し、多額の負債をかかえているそうです。

□国債費が、財政を圧迫しているそうです。

0297 催 □今年の秋に、浮世絵の展覧会が開催されるそうです。

□友達が本を返してくれないので、早く返してくれるように、催促した。

0298 載 □材木を満載したトラックが走っていた。

□今日の朝刊に、わたしの投書が掲載された。載ってうれしかった。

0299 剤 □洗剤で真っ白に洗われて干されている光景は一服の清涼剤だと、母は言います。

□母は薬剤師に下剤を調合してもらった。

0300 崎 □島根半島の東端にある地蔵咲は出雲神話の中では三保崎といい、コトシロヌシノコトが

タイを釣った地だと伝えられている。

□青森県の竜飛崎はとても風が強く吹き荒れるところです。

0301 削 □トンネル工事で、作業員が重そうな削岩機で厚い岩を掘削しています。

□テストが添削されて返された。

0302 索 □「象潟」という珍しい地名を、事典の索引で検索した。

□クラス全員で話合っ、問題の解決法を暗中模索しましたが、結論は出ませんでした。

□索道の下に、木を切られて索漠とした山肌が見える。

0303 策 □各家庭で、不意に起こる地震の対策を立てておくことが大切です。

□母の小言には黙って下を向いているのが、得策だ。

0304 酢 □三杯酢は酢にしょうゆや塩の塩味と、砂糖やみりんの甘みを加えたもので、酢の物の味付けに使われます。

0305 搾 □牧場で搾乳を体験した。

□人の利益を搾取して金をもうけても、本当の豊かさは得られないはずだ。

0306 錯 □問題が複雑だと、精神が錯乱して、錯誤に陥りやすい。

□現実に見たものと夢で見たものが交錯して、錯覚してしまいました。

0307 撮 □卒業式の後、六年生は組みごとに分れて、卒業写真を撮影しました。

□映画の特撮と言うのは特殊撮影の略で、特殊な技術やトリップを使う撮影方法のことをいいます。

0308 擦 □キャンプでたき火をするときに、風が強く、マッチを擦って、火をつけようとしても、すぐに消えて困った。

□履きなれた靴のかかたが擦り切れてしまったので、修理に出した。

0309 棧 □ぼくたちはいつも、港の棧橋で釣りをしています。

□棧敷席で、相撲を観戦した。

0310 蚕 □蚕はクワの葉に潜り込むようにして葉っぱを食べます。

□この辺りは昔は産業を営む農家が多かった。

□十六世紀の後半から、ヨーロッパ列強の植民地争奪が起り、アフリカやインドなどが、次々と蚕食されました。

- 0311 惨 □真冬に道に迷い、寒い思いをした上におなかまで空いてきて、とても惨めだった。
- 過去の戦争で惨死した人は大勢いる。このような惨劇を、決して繰り返さないようにしよう。
- 相手チームは思った以上に強く、ぼくたちは惨敗してしまった。
- 0312 傘 □下校時に急に大雨が降ったが、傘立てに母が届けてくれたわたしの雨傘を見つけ、心が温かくなった。
- 青い空に白い落下傘が花のように開き、ゆっくり落ちてくる。
- 秀吉は織田信長の傘下に入り、活躍した。
- 0313 酸 □コップをかぶせた中で、ろうそくを燃やすと、やがて酸素がなくなって、火が消えてしまう。
- 列車転覆事故の現場はさながら修羅場のようで、酸鼻の極みだ。
- 酸性のものをなめると、酸味がする。
- 0314 暫 □店の前に「暫時休業いたします」と書いた紙をはっていた書店が、店を再開しました
- 市は今年度の予算を暫定的に組んでスタートします。
- し
- 0315 士 □少年剣士たちは勇士のように士気高く相手に切り込んだ。
- 士農工商の頂点に立つ武士には守らなくては行けない士道があった。
- 卒業式の来賓は代議士や弁護士などの名士だ。
- 0316 氏 □源氏の氏族の中では清和天皇の孫に始まる清和源氏が最も隆盛した。
- 氏素性と言う言葉より、氏より育ちと言う言葉がぼくは好きです。

氏名の欄には各自の氏名をお大きく書いてください。

0317 司 ぼくたちは司令部をつくって、その計画の下に子供会を司会・進行しようと思っています。

汚職事件について司法の手が伸びました。

お姉さんは図書館の司書をしています。

0318 矢 家を出ようとした矢先、田舎の祖母が危篤と言う電話がありました。母は矢も盾もたまたま
ず車を飛ばしました。

会社の責任者が矢面に立たされ、新聞記者たちが矢継ぎ早に質問を浴びせた。

借金取りが矢の催促をしに来ました。

0319 旨 来週は行けない旨を書いた手紙を出しましたが、本旨が伝わらなかったようで、何時に
来ますかと言う手紙が返ってきました。

論旨を鮮明にした発言のつもりが、要旨をまとめると、かなりあいまいな発言だった。

この際、宗旨を変えて勉強に専念しよう。

0320 至 旅館では仲居さんが至れり尽くせりのサービスをしてくれる。

至近距離から、ボールが飛んできた。これをよけるのは至難のわざだ。

コンサートから帰ってきたお母さんはにこにこして「至福のときを過ごせたわ」といいました。

0321 志 高校を受験した兄は志望校に合格できた。

チームの志気が高いので、きっと今度の野球大会では勝てるだろう。

0322 社 日本では高齢者の福祉を増進させていくことが、課題となっている。

人々に水準以上の生活を保障する国の体制を、福祉国家と呼びます。

0323 肢 □ 弟は幼稚園のころは丸々と太っていたのに、居間はすらりとのびた肢体になりました。

□ 百獣の王のライオンも、四肢を投げ出し、昼寝している姿はどことなくユーモラスです。

0324 姿 □ 姉は姿見に姿を映して、あいさつの姿勢を練習していた。

□ バレリーナは美しい姿態で舞っています。

0325 施 □ 市長は施政方針演説で、公共施設に対する施策の遅れに焦点を当て、その充実を目指すことを明らかにした。

0326 視 □ 学校の視力検査で、近視だと言われた。

□ 父は視野を広めるために、アメリカの姉妹都市に視察に行った。

□ 兄弟げんかの後、弟は話しかけても無視する。

0327 紫 □ 紫雲はめでたい印とされる紫色の雲で、仏がこの雲に現れると言われている。

□ プリズムで太陽光線を七色に分けたとき、紫色の外側にある、目には見えない光線を紫外線といいます。

0328 嗣 □ どの職人さんの家でも、嗣子がいらないと言う悩みを抱えているそうです。

□ 江戸時代に、七代将軍の家継ぐに後嗣がいなかったために、八大将軍は紀伊から迎えられました。

0329 詩 □ 国語の授業で、現代の詩歌を集めた本を読みました。

□ 詩吟は漢詩に節をつけてうたうものです。

0330 飼 □ わたしたちは学校でウサギの飼育をしています。

□ 羊飼いの青年は草原でヒツジの飼料を買っています。

0331 雌 □雌^{しふくさんねん}伏三年、その歌^{かしゆ}手はようやくデビュー^{はた}を果した。

□明日^{あした}、決^{けつしやうせん}勝戦。雌雄^{しゆう}を決^{けつ}する時^{とき}がやってきた。

0332 賜 □この赤^{あか}ん坊^{ぼう}は神^{かみさま}様から賜^{たまわ}った大切^{たいせつ}な宝^{たからもの}物です。

□天皇^{てんのうはい}杯^{はい}はサッ^{しあい}カーの試^{しゆうしやう}合で優^{かし}勝^{しはい}したチー^{ひと}ムに下^か賜^せされる賜^{たまわ}杯^{はい}の一つです。

□貧^{まず}しい村^{むらびと}人^{ひと}たちは殿^{とのさま}様^{さま}からの恩^{おんし}賜^てに手^あを合^あわせ、ひれ伏^ふしました。

0333 諮 □文^{もんぶだいじん}部^ぶ大臣^{だいじん}が、専^{せんもんか}門^{もん}家^かを集^{あつ}めた委^{いいんかい}員^{かい}会^{しもん}に諮^{しもん}問^{もん}をしました。

□クラ^{いいん}ス委^{くら}員^{ぜんいん}がクラ^{おんがつかい}ス全^{うた}員^{きよく}に、音^{なに}楽^{はか}会^{かい}で歌^{うた}う曲^{きよく}を何^{なに}にするか、諮^{はか}り^りました。

0334 侍 □侍^{じじよ}女^{にょ}は侍^{さむらいしや}者^{しや}の一^{いっしゆ}種^{しゆ}で、身^{みぶん}分^{ぶん}の高^{たか}い人^{ひと}の身^みの回^{まわ}りの世^せ話^わをする女^{じよせい}性^{せい}のこ^ことです。

□戦^{せんごくじだい}国^{こく}時^じ代^{だい}、一^{ひと}つ^{ぐん}の軍^{しき}を指^{ぶし}揮^{あたま}した武^{ぶし}士^{あたま}の頭^{あたま}のこ^ことを、侍^{さむらい}大^{たい}将^{しやう}と呼^よんでいました。

0335 滋 □晴^{せいてん}天^{てん}が二^{にしゆうかん}週^{しゆう}間^{かん}も続^{つづ}いていたので、今^{きよう}日^{あめ}の雨^{じう}は滋^し雨^うとな^なった。

□卵^{たまご}は滋^{じゆう}養^{やう}になるこ^ことが昔^{むかし}から知^しられていて、病^{びやうにん}人^{にん}へ^への贈^{おく}り物^{もの}にも使^{つか}われていました。

0336 慈 □園^{えんちやう}長^{ちやう}は慈^{じあい}愛^{あい}のまなざし^{まなざし}で園^{えんじ}児^{みまも}を見^み守^もる。

□祖^{そぼ}母^ぼは慈^じ悲^ひ深^{ふか}い人^{ひと}で、慈^{じぜん}善^{ぜん}活^{かつ}動^{どう}に熱^{ねっしん}心^{しん}に取^とり組^くんでいました。

0337 磁 □登^{とざん}山^{ざん}は磁^{じしやく}石^{しやく}の磁^{じしん}針^{しん}を確^{かくにん}認^{にん}しな^{すす}がら進^{すす}みます。

□わ^じた^きしは磁^{なか}器^きの中^{ちゆう}でも、涼^{すず}しげ^{きひん}で気^{せい}品^じのある青^{せい}磁^じが好^すきだ。

0338 璽 □御^{ぎよじ}璽^じは約^{やく}九^{きゆう}十^{じゆう}ミ^みリ四^し方^{ほう}の金^{きんいん}印^{いん}で、「天^{てんのうぎよじ}皇^{ぎよじ}御^{ぎよじ}璽^じ」の四^{よん}字^じが刻^きんである。この御^{ぎよじ}璽^じを天^{てんのう}皇^{ぎよじ}は

法^{ほうりつ}律^{りつ}・条^{じやう}約^{やく}書^{しよ}・内^{ない}閣^{かく}総^{そう}理^り大^{だい}臣^{じん}の任^{にんめいしよ}命^{めい}書^{しよ}など^{もち}に用^{もち}いる。

□玉^{たまじ}璽^じは天^{てんのう}皇^{ぎよじ}や国^{こく}王^{おう}の^{あらわ}はん^{ことば}を表^{あらわ}す言^{ことば}語^ごです。

□国^{こくじ}璽^じは約^{やく}九^{きゆう}十^{じゆう}ミ^みリ四^し方^{ほう}の金^{きんいん}印^{いん}で、「大^{だいにっぽんこくじ}日^{にっ}本^{ぽん}国^{こく}璽^じ」の五^ご字^じが刻^きんである。侍^{じじゆうしよく}従^じ職^{しよく}が保^ほ管^{かん}し

て勲章とともに与える証書などに使う。

0339 軸 □政府の枢軸の大臣が、新機軸の政策を發表した。

□自転車の車軸の軸受けに両足を乗せてみました。

0340 疾 □胸部疾患があると検査で言われたので、精密検査を受けた。

□だちょうは群れをなして疾風のように駆け抜けました。それを追いかけて、車は疾走します。

0341 執 □ある小説家は早朝から昼までを執筆の時間と決めています。

□妹は壊れた人形にいまでも執着していた。

0342 漆 □おばちゃんは先祖代々伝わる、我が家の家宝の漆塗りのおわんを、大切に保管しています。

□城下町として発達した会津若松は伝統工芸品である漆器で有名です。

0343 芝 □春から夏になるにつれて、公園の芝生の緑は鮮やかさを増した。

□この前の土曜日は家族で芝居見物に行きました。

0344 舎 □この学校は全寮制学校で、校舎の裏に寄宿舎があります。

□お父さんは叔父さんのことを、知り合いの人に「舎弟です」と、紹介していた。

0345 射 □遊園地にある射的で練習すれば、射撃もうまくできるようになるのだろうか。

□射幸心からかれて、努力を怠ると怠け者になってしまう。

□直射日光がきつく、日射病になりそうです。

0346 赦 □ぼくが母に、容赦なく怒られたら、祖母が赦免をお願い出でてくれた

□模範囚が特赦を受けて出所した。

0347 斜 □朝、目を覚ましたら、斜光が窓から差してキラキラ光っていました。

□山の斜面を斜陽が照らす中、わたしたちはスキーを楽しみました。

0348 煮 □野菜を生煮え煮ならないようによく煮込んで煮物を作りました。

□煮沸し、煮え返った煮え湯を、ドリップに注いでコーヒーを入れました。

□我が家では煮干しで雑煮のだしを取ります。

0349 遮 □友たちと立ち話をしていたら、選挙演説の車が通り、スピーカーから流れる演説の声が、

二人の話を遮った。

□よちよち歩きの子どもが、踏切の遮断機のしたをくぐりそうになり、お母さんはあわてて

抱き上げた。

0350 謝 □三月には卒業式と謝恩会が行われる。お世話になった先生に、謝辞を述べる保護者が多かった。

□隣のおじさんはがんで入院して半年になるが、ずっと面会謝絶のまま。

□肌の新陳代謝を活発にするために、ビタミンCを飲みます。

0351 邪 □人の親切を邪推して、邪念に刈られて、親切を邪魔にするのは邪悪なことです。

□無邪気で、邪心のない目をした子です。

□風邪は万病のもとである。

0352 蛇 □水道の蛇口から勢いよく水を出して、顔を洗った。

□余計な付け足しや無駄なもののことを蛇足という。これは中国で蛇の絵を早くかく競争

をした時、先にかいた人が勢いで足までかいて負けたという話から生まれた。

□この川は河口付近で蛇行しています。

0353 尺 □尺寸の土地ではあるが、ぼくの家の中には四季折々の花の咲く花壇がある。

□ ^{わたし}私は^{びあ}モーツァルトの^{のきよく}ピアノ曲が^す好きだが、^{とも}友たちはあまり好きではないという。^{ひと}人によ
って、^{かん}感じ方の^{かた}尺度は^{しやくど}違うものだ。

□ ^{しゆみ}おじいさんの^{しやくほち}趣味は^ふ尺八を吹くことです。

0354 酌 □ ^{ちち}父は^{まいにち}毎日、^{ばんしやくでにごう}晩酌出二合の^{さけ}酒を^の飲んで

□ ^{ばいしやくにん}媒酌人は^{しんろう}新郎の^{おんし}恩師に^{たの}頼むことになります。

0355 釈 □ ^{むかし}昔の^{ぶんしょう}文章には^{なんとお}何通りかに^{かいしやく}解釈できるものがあります。

□ ^{ようぎしや}容疑者を^{しやくほう}釈放したという^{つた}ニュースが^{つた}伝えられた。

0356 寂 □ ^{はいこう}廃坑になった^{こうしゃ}校舎は^{せき}寂りよう感が^{かん}漂^{ただよ}っていた。

□ ^{よなか}夜中になると、^{まち}町は^{せいじやく}静寂に^{つつ}包まれ、^{せき}寂ばくとする。

0357 朱 □ ^{ちち}父は^{はいく}俳句の^{せんせい}先生の^{しゆひつ}朱筆に^{かんしん}感心しました。

□ ^{しょうがつ}おばあちゃんはお正月に、^{たいせつ}大切な^{しゆぬ}朱塗りの^{ぞうに}おわんで^たお雑煮を^た食べさせてくれる。

0358 狩 □ ^{ひと}その人は^{しゆりよう}狩猟の^{めいしゆ}名手とうたわれた^{じんぶつ}人物です。

□ ^{かぞく}家族で^{しおひが}潮干狩りに^い行きました。

0359 殊 □ ^{やきゅう}プロ野球の^{にほん}日本シリーズが、^ず始まった。^{はじ}今年の^{ことし}最高^{さいこう}殊勲^{しゆくん}選手は^{だれ}誰だろう。

□ ^{はは}母の^{つく}作る^{りょうり}料理は^{こと}どれも、^{ごもくずし}とてもおいしいが、^{さいこう}殊に^{さいこう}五目寿司は^{さいこう}最高だ。

0360 珠 □ ^{しんじゆ}お姉さんは、^{しんじゆ}真珠の^{ねんぶつ}ネックレスをして、^{けっこんしき}友達の^で結婚式に出かけました。

□ ^{ぼう}お坊さんは^{はか}墓の前で、^{まへ}数珠を^{じゆず}手に^てかけて、^{ねんぶつ}念仏を^{とな}唱えました。

0361 趣 □ ^{ぶんしょう}文章の^{しゆい}趣意をよく^{かんが}考^よえながら^よ読むことが、^{どっかいりよく}読解力を^{やしな}養^いうための^{いちばん}一番^{ほう}よい方です。

□ ^{はは}母の^{しゆい}趣意は^い生け^{ばな}花です。

- 0362 寿 □平均値で見ると、日本人の寿命は年を追うごとに延びできた。
- 健康で長生きをしたおじいさんが、家族に見守られながら、天寿をまっとうしました。
- 七十七歳を喜寿、八十八歳を米寿、九十九歳を白寿を呼び、長寿をお祝う習わしがあります。
- 0363 授 □昨日、音楽コンクールの授賞しきがあった。
- 大学の教授の父は今年の春から新しい大学で授業をすることになった。
- 0364 需 □需要と供給の釣り合いが取れていると、経済は安定します。
- 私たちの、学校で必需品は教科書やノートや鉛筆です。
- 0365 儒 □儒教は紀元前五百年ごろに中国の孔子が唱えはじめた政治や道徳についての教えです。
- 儒学では仁・義・礼・智・信が重んじられます。
- 0366 樹 □ゴムの木は常緑樹で、白い樹液からタイヤなどが作られます。
- 彼女は平泳ぎの世界新記録を樹立した。
- 0367 囚 □囚人はみな同じ囚人服をきている。
- モンテ・クリスト伯爵は長い間孤島の監獄に、幽囚の身になった。
- 0368 秀 □弟は全盤的に優秀な成績だが、特に工作に秀でている。
- 姉は秀才ですが、スポーツは苦手です。
- 0369 宗 □宗教や宗派を超えて理解しあおう。
- 父は運動嫌いだ、収支をかえてジョギングを始めた。
- 0370 臭 □叔父さんが、くさやという干物を持ってきてくれて、焼いたらすごく臭くてびっくりした。
- でも、とても、おいしかった。

夏は汗をかくので、体臭が気になりなります。

0371 修 小学校を修了する前に、日光旅行に行くのが楽しいです。

日曜日にお父さんはぼくの自転車を修理して、塀を修繕しました。

昔の武士は武者修行に出かけましたが、ぼくは人生修業にサマースクールに出かけました。

0372 就 就職活動中の姉は会社訪問で疲れて早く就寝している。

川の流れるが早く、橋を架けるのは難工事だったが、みごとに成就して村は便利になった。

0373 衆 クラスみんなの衆知を集めて、クラス対抗戦の作戦を練ろう。

衆人環視の中で、その出来事は起きる。

0374 愁 お父さんは哀愁に満ちた演歌が大好きだ。

お姉さんは、一人旅をしたとき、旅先で、旅愁を味わったそうです。

0375 酬 聖人は何の報酬も求めまい、無償の愛をといて、全国各地を歩いた。

宴会では献酬を応酬し合って、にぎやかでした。

0376 醜 政治家の醜聞がマスコミをにぎわせていますが、事実ならずいぶん醜悪なことだと思います。

美醜で、人を判断してはいけません。

0377 襲 若い歌舞伎俳優が、祖父の芸名を襲名した。

騎馬戦で順調に勝ち残ったのに、相手に後ろから襲撃され、惜しくも試合の終わる直前に敗れた。

今年の夏は大型の台風がつけぎまに襲来し、日本の各地から被害が報告されました。

0378 汁 □姉はお汁粉を食べながら、みかんお果汁を飲みます。

□広い社会の名かには役所に入り込んで甘い汁を吸おうとたくらむ不屈きな人もいます。

□わたしたちの家族は新春に、全員で墨汁を使って書き始めをします。

0379 充 □夕食後の一時間はテレビを見ないで、勉強に充てるようにしてから、生活がとても充実したそうです。

□体が充満してきました。

0380 従 □昔は女性は男性に従順に服従するのがいいとされていたそうだ。

□お父さんの会社では多くの従業員が、仕事に従事した。

0381 渋 □庭の柿は渋味が強くてあまりおいしくなかった。

□連休に車で出かけたら、高速道路の渋滞がひどくて、家族みんなが疲れてしまいました

0382 銃 □世界のどこかで銃声が響き、銃火が立ち昇っている。

□猟師さんが発射した猟銃の銃身に触ってみると、とても熱かった。

0383 獣 □ぼくは大きくなったら獣医になりたい。

□ライオンは猛獣打、百獣の王と呼ばれる。

0384 縦 □長い縦糸に横糸を通して織物を織っていく。

□友だちはマウンテンバイクを縦横無尽する。

0385 叔 □叔とは父母の年下の兄弟姉妹を表したり、「伯仲叔季」のように兄弟姉妹の順の三番目を指したりする言葉です。

□先日、家に来た叔父は父のすぐ上のお兄さんで、昨日、家に来た叔父は父の弟なんだと

母が教えてくれました。

□わたしは夏休みに京都の叔母さんの家に遊びに行くつもりです。

0386 淑 □祖母は淑徳な人で、貞淑の誉れが高い女性だ。

□母は私淑している陶芸作家の作品をまねて皿を作りました。

□先生が淑女と一緒に教室に入ってきました。

0387 肅 □結婚式は厳肅に進んだ。

□不幸があった家では祝い事は自肅して静肅にしています。

0388 縮 □短縮授業の日に、図書館へ行って新聞の縮刷版を調べることにした。

□縮尺、五万分の一縮図を見ながら、登山の計画を立てた。

□ぼくは二十四の一に縮小した車の模型を作る。

0389 塾 □ぼくはそろばん塾と書道塾に通っている。

□わたしの学習塾の塾長は塾生に親身に教えてくれる。

□吉田松陰は松下村塾という私塾を作り、多くの藩士が入塾した。

0390 熟 □名作を熟読すれば、難しい熟語も分かるようになる。

□彼女とは幼なじみで、人柄を熟知しているが、級友たちより早熟な面がある。

□弟はきょうの遠足の疲れで、熟睡している。

0391 俊 □動きが俊敏な相手を抑えるには味方に俊秀をそろえる必要がある。

□わたしは俊足を買われて、学級対抗のリレーの選手に選ばれました。

□俊英と評判の友人が、わからないことは何でも教えてくれる。

0392 瞬 □高原で、夜空いっばいに瞬く星を見ました。

えき ホームに 着いた 瞬間に、発射の合図が聞えた。一瞬列車に 乗り遅れるかと思っただが、
なん ま 何とか間に合った。

ネコが 食卓のうえの 魚を 銜えて逃げたのは瞬時の出来事でした。

0393 旬 □ 私たちの学校の校庭では四月の上旬にサクラが咲き、下旬になるとツツジが咲き始める。

ぼくたちのクラスでは生徒が交代で、旬刊の学級だよりを出す。

今月の十一日から二十日までは交通安全旬間だ。

0394 巡 □ 巡査が自転車出町を巡回し、パトカーが通りを巡視して回ります。

劇団は町から町へ 巡業して回った。

0395 盾 □ 兵士たちは盾に身を隠しながら、敵地へと乗り込んでいきました。

法律を盾に取って、相手の不当な要求をしりぞけた。

いい成績を取りたいが、勉強するのは面倒だ。自分でも矛盾した考えだということはわかっているのだが。

0396 准 □ 兄は水泳教室の准指導員です。

日本は動物保護のために、ワシントン条約を批准しました。

0397 殉 □ 飛行機や船が発達していなかった昔、殉教を覚悟のうえで、宗教を広めるために見知らぬ土地へ渡った宣教師たちがいた。

火事の消火に当たった消防士の一人が、殉職した。

昔、君主や殿様の死後、家来や妻が後を追って自殺したことを、殉死という。

0398 循 □ 日ごろからスポーツなどで体を動かす習慣をつけておくと、血液の循環がよくなって、

からだ じょうぶ
体も丈夫になる。

□わたしは市内を循環するバスで、学校に通っています。

□循環器は心臓や血管など、血液によって体のすみずみまで酸素や栄養分を運び、いらなくなつたものを外に運び出す器官です。

0399 潤 □彼はユーモアのセンスがあり、クラスの潤滑油的な存在だ。

□ここは豊潤な土地でブドウの名産地だ。

0400 遵 □交通安全規則を遵守した人たちへの特別表彰が、今年も行われました。

□遵法の精神が、徐々に薄れていくことが心配だ。

0401 庶 □「庶民の声を反映した政治を行ってほしいものだ」と父はいつも、ぼやいている。

□今年、大学を卒業し、電力会社に就職した兄は庶務課に配属されました。

0402 如 □努力が欠如すると、如実に成績が悪くなる。

□突如、薬師如来の顔に光が差し込んだ。

0403 序 □二回なんて、まだ序盤戦だ。逆転できるよ。

□年功序列で順序を決めると、一番若いぼくが序の口だ。

0404 叙 □この道五十年の人間国宝が叙勲を受け、新聞に名前が出ていました。

□フランスクリンの自叙伝はととても面白い。

0405 徐 □歩道のない商店街を車で通る時は徐行運転をしないと、危険です。

□飛行機は徐々に期待を持ち上げ、空のうえの方に行き、次第に小さくなっていきました。

0406 升 □作文は原稿用紙の升目に丁寧な字を一升一升書いていき、升目からはみ出さないように

ちゅうい
注意します。

おおずもう ますせき すわ ちち きつそく ますざけ の りきし おうえん
□大相撲の升席に座った父は早速、升酒を飲みながら、ひいきの力士を応援します。

しごとがえ ますう いちごうます きげ の
□おじさんは仕事帰りに升売りの一合升の酒をいっぱい飲みます。

0407 匠 □隣のおばあさんは三味線の師匠で、毎日、自宅で生徒を教えています。

ちようこく きよしよう さくひん すば
□この彫刻は巨匠の作品だけあって、素晴らしい。

0408 抄 □母は市役所に出かけて市民課で戸籍抄本を取ってきました。

あね しょうやく と く
□姉はシェークスピアの抄訳に取り組んでいます。

0409 肖 □祖父は父のことを「不肖の息子」と言います。

かいがきょうしつ しょうぞうが べんきょう
□わたしは絵画教室で肖像画をかく勉強をしています。

0410 尚 □兄の高校は尚武の校風で、剣道部が強い。

となり てら おしょう しょうどう たんか こうしょう しゅみ も
□隣の寺の和尚さんは書道や短歌など高尚な趣味を持っている。

0411 松 □松原の中を、松葉づえをついて歩いた。

まつ うち まつかざ ま ことば
□松の内は松飾りがある間ということからの言葉です。

0412 沼 □夏になると、白やピンクのハスの花が、沼地に華やかさを添えます。

こしょう す せいぶつ じつたい しら がくしゃ ぜんこく ちょうき ほじ
□湖沼に住む生物の実態を調べるため、学者グループが全国で調査を始めたそうだ。

0413 昭 □昭和は日本の年号の一つで、一九二六年から一九八九年まで

ろくじゅうよんねんかんづ
六十四年間続きました。

しょうじ めいじ おな い み も ふる ことば
□昭示は明示と同じ意味を持つ、やや古めかしい言葉だ。

0414 宵 □今宵、宵の口ごろ、宵の明星が西の空に見えます。

□ 弟は宵っ張りおとうと よい ばで、昨日きのうも十一時じゅういちじまで起きていました。お

0415 症 □ 症しょうじょう 状じかくの自覚じかくはなかったのですが、健康診断けんこうしんだんの結果けっか、貧血気味ひんけつぎみだと言われました。い

□ のどに炎症えんしょうが起きて、声こえが出でなくなりました。

0416 祥 □ ばたばたと忙いそがしくしている時ときは不祥事ふしょうじが起おこらないように、用心ようじんする必要があります。

□ インドは仏教ぶつぎょう発祥はつしょうの地じです。

□ 今度こんどの日曜日にちようびは昨年さくねん亡なくなったおじいちゃんしょうつきめいの祥月命日しょうつきめいなので、家族かぞくで、田舎いなかにお墓参りはかまいに行く予定い よていです。

0417 称 □ ぼくは「漢字博士かんじはかせ」という称号しょうごうをもらい、「博士はかせ」と略称りやくしょうされて呼よばれています。

□ 友達ともだちはわたしを「ちゃこ」と愛称あいしょうで呼よぶ。

0418 唱 □ 友人ゆうじんが唱道しょうどうした万歳三唱ばんざいさんしょうに、ぼくも唱和しょうわした。

□ 合唱大会がっしょうたいかいで、みんなの愛唱歌あいしょうかを二重唱にじゅうしょうします。

□ 学級委員がっきゅういいんが、環境保護運動かんきょうほごうんどうを全校ぜんこうに提唱ていしょうした。

0419 涉 □ 両親りょうしんからあまり干渉かんしょうされると、かえってやる気きがなくなってしまうものだ。

□ おじさんは今度こんど、会社かいしゃの涉外しょうがい係かかりになったそうだ。

0420 訟 □ 父ちちは裁判所さいばんしょに民事訴訟みんじそしょうを起おこした。

□ だれも争訟そうしょうは好みませんが、権利けんりを守るためには避まもけて通きるわけにはいとおかないこともあるようです。

0421 掌 □ 監督かんとくが、部員ぶいんの気持ちきもちを掌握しょうあくしたので、秋あきの大会たいかいで勝利しょうりを掌中しょうちゅうに収おさめた。

□ 仏前ぶつぜんに座すわり、合掌がっしょうした。

0422 晶 □ 河原かわらで拾ひろった水晶すいしょうを、じっくりと観察かんさつしました。

□虫眼鏡で雪のかけらを見ると、美しい星型の結晶でできていることがわかります。

□一面の雪が太陽に照らされ、晶々と銀色に光っていた。

0423 焦 □焦熱の砂漠に行く旅人はいつになったらオアシスにたどり着くのかと、焦燥の念にかられ、焦点の定まらないうつろな目であたりを見回した。

0424 硝 □徒競走のピストルが発射されると、硝煙があたりに漂った。

□硝酸銀は医薬品や写真剤などに用いられています。

0425 粧 □母は化粧をして、高校の同窓会に出かけていった。

□改装のため一時休業していた近くのデパートが新粧を凝らして店開きした。

0426 詔 □日本国憲法では詔書は国会の召集や衆議院の解散の命令など、天皇が内閣の助言と承認によって行う決まった行為の範囲内で発せられることになっています。

0427 証 □証拠が欲しくて実験をしたところ、予想が正しいことが証明された。

□小学校の卒業生には卒業証書が渡される。

0428 傷 □死傷者を多数出した台風の傷跡は損傷した家屋に残っている。

□負傷した足の傷口が痛みます。

0429 奨 □美術を奨励しようと、市は美術賞を設けました。

□姉は奨学金をもらって、大学院まで行きました。

0430 詳 □俳句について詳しく知りたいならば、詳解した本を持っているのでお貸ししますよ。

□事件の詳報はあすの朝刊にのるので、詳細はそれまで待とう。

0431 彰 □父は市から顕彰されます。

□オリンピックの表彰式を、生中継で見た。

0432 障 □国には人々の生活を保障する法律がある。

□障子が障害物となって、外の景色の一部が見えません。

0433 衝 □この間まで元気だった祖母の突然の死の知らせに、ぼくは衝撃を受けた。

□先日、わたしの家の前の道路で、車の衝突事故が起きました。

0434 償 □ボールで隣家のガラスを割ってしまい、ガラス代を弁償した。

□兄が車を電柱にぶつける事故を起こしたので、父が代償した。

0435 礁 □昨年発生した銀行強盗事件の捜査は暗礁に乗りあげている。

□漁師は「このあたりの岩礁で船がよく座礁するのです」と言いました。

0436 鐘 □昔は火事が発生すると、火の見やぐらの半鐘を鳴らしました。

□子供にアレルギーが多いのは現代の生活環境に対する警鐘です。

0437 丈 □わたしの家族はみんな風邪をひきました。私一人大丈夫でした。

□友達は悲しみに沈みながら、気丈にも涙ひとつ見せませんでした。

0438 冗 □兄の話は冗談も交えて面白いのですが、冗長なのが欠点です。

□母は家計簿をつけながら「今月は冗費が多かったみたいね」と反省していた。

□冗漫な文章や説明はだれも読みたくありません。

0439 条 □お父さんの信条は「忍耐」です。

□1978に日本と中国の間で日中平和条約が結ばれました。

□わたしは日曜日に友達と遊園地に行くことを七時までに帰宅するという条件つきで父に

ゆる
許してもらいました。

0440 浄 □部屋の空気を清浄に保つために、空気の浄化装置を取り付けた。

□仏教で浄土とは仏が住むという、苦しみのない平和な世界だ。

0441 剩 □試験の前日、遊んでいたら、父に、「おまえは自信過剰なんだ。後で、痛い目に会うぞ」と言われた。

□国会は余剰農産物の問題について、論議を重ねています。

0442 縄 □子供たちが、広場で縄跳びをしています。

□社会の授業で、紀元前数千年から紀元前後にかけて、石器や縄文式土器が使われていた縄文時代の人々の暮らしについて、学習した。

□兄は数学の問題を解きながら、「一筋縄ではいかない」とつぶやいた。

0443 壤 □この村は豊かな土壌に恵まれている。

□盛り場が近いなど、学校を取り巻く環境が悪い場合は少年非行の土壌になりやすい。

0444 嬢 □いつも気取りのない人だが、やはり良家の令嬢らしい品がある。

□お隣のお嬢さんは町一番の美人と評判です。

0445 錠 □この風邪薬の錠剤は毎食後に錠ずつ、飲むことになっています。

□風が吹くと開いてしまう戸に、錠前を取り付けました。

0446 譲 □人付き合いのこつはお互いに譲歩しあうことです。

□王は息子に財産を譲渡した。

0447 醸 □吟醸酒を贈り物にする。

ちち じっか だいたい じょうぞうぎょう いとな
□父の実家は代々、醸造業を営んでいる。

0448 殖 □動物を飼いならして家畜を殖やすことで、人間は飢えから救われてきました。

せいぶつ せいしよく はんしよく
□生物は生殖によって、繁殖します。

0449 飾 □宝石店の飾り窓の中で真珠の首飾りが美しく輝いている。

まつかざ こじん いえ み
□松飾りは個人の家ではあまり見かけなくなった。

0450 嘱 □兄はオリンピックの金メダル候補選手として、嘱望されている。

ちち ていねいご しょくたく きんむ
□父は定年後も嘱託として勤務します。

0451 織 □織機は機とも呼ばれ、旗で布を織ることを機織りといいます。

せかい かっこく だいひょう そしき だんたい にほん あつ こくさいへいわ ほなしあ
□世界各国の代表によって組織された団体が日本に集まり、国際平和について話し合いました。

0452 辱 □あの作詞家は名人の名を辱めない作品を続々と世に送り出している。

せんじつ たいはい あいて か せつじよく した
□ぼくは先日の大敗した相手に勝って、雪辱を果たした。

0453 侵 □第二次世界大戦は他国の領土に侵食、侵攻して始まった。

いえ しきち だま はい ふほうしんにゆう
□よその家の敷地に黙って入ると、不法侵入になってしまうよ。

0454 津 □海岸を、大きな津波が襲い掛かり、家々を飲み込んで沖に流し去った。

□大人になったら全国津々浦々を回ってみたい。

0455 唇 □ぼくが、そっとおやつを横取りして食べたら、妹は唇をかんでにらんだ。

ぎょう ぎょう ぎょう くちびる ちょうせつ だ おと しんおん
□は行や、ぱ行や、マ行には唇で調節して出す音があり、唇音といいます。

0456 娠 □女の人のおなかに赤ちゃんができることを妊娠といいます。

きょねんけっこん あね にんしん いわ
□去年結婚した姉が妊娠したので、お祝いに、マタニティードレスをプレゼントしました。

0457 振 祭さいじつが日曜日にちようびなら、月曜日げつようびは振り替ふえ休か日きゆうじつだ。

「三振さんしんすると、百回素振ひやくかいすぶりだぞ」と監督かんとくは大声おおごえで言った。

「食欲不振しょくよくふしんのようだけど、これなら食しょくが進すすむでしょう」と叔母おばさんは寿司すしを振ふる舞まってくれた。

0458 浸 かけなみを波しんしよくが浸食しんしよくした。

台風たいふうの雨あめが激はげしく、我が家わがやは床上浸水ゆかうえしんすいになり、濁流だくりゆうが家いえの中なかにまで進しんにゆう入いしてきました。

0459 紳 立派りっぱな紳士しんしが、紳士しんしてき的な態度たいどで子どもこにも道みちを聞きいています。

紳士録しんしろうくは社会的地位しゃかいてきちいのある人ひとの姓名せいめい・職業しょくぎょうなどをしるした名簿めいぼだ。

0460 診 風邪かぜ気味きみなので、近所きんじよの病院びやういんで診みてもらった。診察しんさつの結果けっか、やはり風邪かぜと診断しんだんされた。

歯医者はいしやへ行いったら、その日ひの診療しんりようは終おわっていた。

病院びやういんで始めて診察しんさつを受けるときは初診料しよしんりようを支払しう。

0461 慎 姉あねはお茶ちやを慎重しんちように運はこんで、お客きやくさんに出だした。

お父とうさんから謹慎きんしんしよぶん処分いを言わた渡わされた弟おとうとは外出がいしゆつを慎つつしんでいます。

0462 審 父ちちは市しの作文さくぶんコンクールしんさいんの審査員しんさいんです。

警察けいさつに、事件じけんの現場げんばで、不審ふしんな人物じんぶつを見かけたといい届け出みがあつたそうです。

0463 刃 刃物はものを扱あつかうときは十分じゆうぶんに注意ちゆういを払はらいましょう。

犯人はんじんは刃渡りはわた十五センチメートルじゆうごのナイフふを振り回まわし、近くちかにいた一人ひとりが凶刃きようじんに倒たおれた。

0464 仁 医いは仁術じんじゆつと言ういのは仁愛じんあいや仁義じんぎの精神せいしんに基づもといて、治療ちりようが行おこなわれることです。

仁政じんせいは仁徳じんとくある人ひとでなければ実行じっこうできません。

寺てらの門もんに怖い仁王じんおうが立たっています。

0465 尽 □警察が、駐車違反を一網打尽にするために、尽力した。

□石油などの資源は無尽蔵ではないのだから、大切に使いましょう。

0466 迅 □ぼくが、いつも、ぐずぐずしているので、先生に「迅速に行動するように心がけなさい」と注意される。

□兄は入試の直前になってから、獅子奮迅の勢いで、猛勉強し、みごと、合格した。

□父は怒ると、迅雷のような大声を出して、怒鳴るので、ぼくと弟はすばやく、耳をふさぎます。

0467 甚 □日本に上陸した台風は全国各地に甚大な被害をもたらした。

□領国国技館で、始めて甚句を聞いた。相撲甚句というものだそうだ。

0468 陣 □大將が陣頭に立って、陣地を作った。

□長い陣痛の後、かわいい赤ちゃんが生まれました。

0469 尋 □小さいころに生き別れた母を尋ねて、一人で旅を続ける女の子の物語を読んだ。その子は途中で出会う人々に尋ねながら、母の居所を探していく。

□ほうっておいた虫歯が痛くなった。尋常一様の痛さではなくて、泣いてしまった。

□警察で、事件の容疑者に対する、尋問が行われた。

す

0470 垂 □直線や平面に垂直におろした線を、垂線といいます。

□彼の持っているプラモデルは同級生の垂涎の的だ。

□君は学級委員なのだから、学校行事のときにも率先垂範しなければならないのに、先頭に立って悪ふざけをするとはなにごとだ。

- 0471 炊 □^{ゆうがた}は夕方には^か買い物をして^{もの}たり^{はん}ご飯を^た炊いたりして、お母さんの^{すいじ}炊事を^{てっだ}手伝います。
- ^{こめ}お米を^{あら}洗って、よく^{みず}水に^ひ浸してから、炊飯器のスイッチを入れると、ご飯がおいしく^た炊けると^き聞きました。
- お父さんは、^{にちようび}日曜日の朝は^{あき}決まって^き雑炊を^{ぞうすい}自分で^{じぶん}作って^{つく}食べて^たいます。
- 0472 粹 □^{なんきょく}南極では^{きよだい}巨大な^{こおり}氷を^{くだ}砕いて^{ふね}船の^{しんろ}進路を^き切り^{ひら}開く^{さいひょうせん}砕氷船が^{かつやく}活躍する。
- ^{さいせきじょう}採石場では^{いわ}岩を^{ふんさい}粉碎する^{おほい}大きな音^{おと}が^なしている。
- 0473 衰 □^{きび}厳しい^{あつ}暑さで、^{びょうにん}病人が^{すいじやく}衰弱する。
- ^{ちい}小さな^{しょうてんがい}商店街は^{おおて}大手^{しんしゆつ}スーパーの^{すいたい}進出で^{ちち}衰退し、^{みせ}父の店も^{すこ}少しずつ^{すいうん}衰運に^む向かって^いいった。
- 0474 推 □^{すいりしやうせつ}ぼくは^{だいす}推理小説が^{だいす}大好きです。
- ^{かれ}彼らは^{けいかく}チャリティー・コンサートの^{すいしん}計画を、^{すいしん}推進しています。
- 0475 酔 □^{しんすい}ショパンに^{あね}心酔している^{あね}姉は^きCDを^{とうすい}聞いて^{とうすい}陶醉している。
- ^{ねんまつ}年末は^{でいすい}泥酔した^{ひと}人が多い。
- 0476 遂 □^{じぶん}自分に^{あた}与えられた^{にんむ}任務は^{さいご}最後まで^{すいこう}遂行しよう。
- ^{はんこう}犯行は^{みすい}未遂に^お終わり、^{はんにん}犯人は^{とうそう}逃走したもようだ。
- 0477 睡 □^{すいみんぶそく}睡眠不足は^{けんこう}健康によく^{ない}ない。^{ついたちはちじかん}一日八時間は^{ねむ}眠ったほう^がいい。
- ^{とつぜん}突然に^{すいま}睡魔が^おおそって^{きて}きて、^{じゆぎやうちゆう}授業中だと^い言うのに^{じゆくすい}熟睡して^{しま}った。
- 0478 穂 □^{しゅうかく}収穫を^{むか}もうすぐ^い迎える^{いなほ}稲穂は^{ほさき}穂先が^{した}下に^たたれて^{いま}います。
- ミレーの^{おちほびろ}「落穂拾い」は^{のうみん}農民の^かたくましさ^かを描いた^{けっさく}傑作だ。
- 0479 随 □^{ずいひつ}随筆を^よ読んで、^{かんそうぶん}感想文を^か書きました。

□権利には義務が付随することを忘れては行けません。

0480 髓 □骨髓は骨の中にある、柔らかいスポンジ状の組織です。

□スポーツでも音楽でも、その真髓を究めるためには絶え間ない努力が必要です。

0481 枢 □叔父さんは社長室長として、会社中枢の地位を占めている。

□枢機卿がローマに集まって、親法王を選びました。

0482 崇 □兄は宮沢賢治を崇拜し、作品を暗唱できるほど熟読しています。

□崇高な理想を掲げて戦う人は多くの人の崇敬を集める。

0483 据 □今年の夏はとて暑いで、新しいクーラーを一台据え付けることにした。

□腹の据わった人だから、大きな会社の会長に座ることもできた。

0484 杉 □杉は日本特産の杉科の常緑高木で、幹がまっすぐ伸び、針のような葉が茂ります。材木

は建築、家具などに用いられます。

□和菓子屋で買い物をしたら、お菓子を杉折に入れてくれました。

□杉並木の奥に、杉戸のある古い日本家屋が立っています。

0485 寸 □ノートの寸法に合わせて手提げ袋を作ったので、寸分たがわず、ぴったりの大きさに

仕上がった。

□カをたたこうとするとき、「一寸の虫にも五分の魂」と言うことわざが思い浮かぶ。

□返された作文には先生の寸評が添えてあった。

せ

0486 瀬 □川の浅瀬で、少年が瀬踏みをしている。

□おばあちゃんは昏睡状態で、生死の瀬戸際に立っている。

0487 是 □クラス討論で、自転車の二人乗りの是非について論議することを、是認して下さい。

□悪い習慣を是正するのは賛成だが、一律ではなく是々非々で事にあたってもらいたい。

□是が非でも、明日は早く起きます。

0488 井 □裏庭にはいまも、井げたを組んだ井戸があります。

□市井の人の楽しみは井戸端会議以外にはない、と母は断言します。

□いつでも、井の中のかわずのままではいけません。

0489 征 □マケドニアのアレクサンダー大王は紀元前四世紀のころ、エジプトやペルシャを征服した。

□桃太郎は鬼を征伐した。

0490 斉 □クラス全員で、「春の小川」を斉唱しましたが、歌声はばらばらでした。

□調査は条件を斉一にして、一斉に二行った方が、効率がいい。

0491 牲 □子どもの身に危険がふりかかったときは親は自分の命を犠牲のにしても、わが子どもを

救おうとするのです。

0492 逝 □元気だった祖父が急逝し、家族は悲しみに暮れた。

□退職した先生が逝去されたと知らされ、ぼくたちはめい福を祈った。

0493 盛 □林間学校の最終日は燃え盛るキャンパスを囲んで、みんなで大いに盛り上がりました。

□盛夏にはかき氷を売る店が繁盛する。

0494 婿 □結婚式場で、花婿と花嫁が、招待客に挨拶をして回っていた。

□ぼくの伯父さんは伯母さんの家の婿養子だそうです。

0495 聖 □オリンピックの聖火を掲げたランナーが競技場に到着しました。

□イスラム教徒は聖地メッカをめざして一生にいちふおは巡礼します。

0496 誠 □彼女はとても誠実な人柄名ので、みんなに信頼されています。

□田舎のおばあちゃんから、誠意のこもった手編みのマフラーが、送られてきました。

0497 誓 □選手の代表が宣誓をしました。

□十年前に交わした誓約を、いまでも守っています。

0498 請 □市会議員はし民意、町の清浄化運動の協力を請いました。

□母は電気代の請求書を見ながら、家計簿に記入しています。

0499 整 □机の上を整とんしてから、ノートを始めました。

□朝礼のときは全校生徒が肯定に整列します。

0500 斥 □罪のない特定の個人や人種を排斥してはいけません。

□斥候たちは敵の陣地に近づいていった。

0501 析 □友だちの言葉に腹が立った理由を分析した。

□先生たちは生徒へのアンケートの結果を解析して指導方針を考えた。

0502 惜 □卒業式を終えた高校生が、「惜別の歌」を歌った、友との別れを惜しみました。

□一点差で惜敗して、みんなたいへん口惜しい思いをした。

0503 拙 □手紙に、「近くにおいででの西は拙宅にもお寄りください」と書いた。

□妹の作文は稚拙だが、気持がよく表れています。

0504 窃 □かぎをかけ忘れて家族そろって外出したすきに、家に窃盗が入ってしまった。金目のも

のをごっそり盗^{ぬす}まれ、ショックだった。

□バックを地面^{じめん}に置いて、駅前広場^おに立^{えきまえひろば}っていたら、いつの間^まにか何者^{なにもの}かにバック^{せつしゆ}を窃取^{せつしゆ}されていた。

0505 撰 □一気^{いちきあつ}圧^{みず}では水^{みず}が凍^{こお}る温度^{おんど}は摂氏^{せつしぜろど}〇度^{ふつとう}、沸騰^{おんど}する温度^{せつしちぜろぜろど}は摂氏^{せつしち}一〇〇度^{ぜろど}です。

□成長^{せいちやう}のために、栄養^{えいよう}と知識^{ちしき}を積極^{せつきよくてき}的に摂取^{せつしゆ}することが大切^{たいせつ}です。

0506 節 □父^{ちち}は胃^いを悪^{わる}くして節食^{せつしよくちゆう}中^{さけ}で、お酒^{さけ}を節制^{せつせい}しているところ^{ところ}です。

□節分^{せつぶん}の日^ひに、鬼^{おに}の役^{えき}をした園長^{えんちやう}先生^{せんせい}は翌日^{よくじつ}「体^{からだ}の節々^{ふしぶし}が痛いよ^{いた}」と苦笑^{くしやう}していました。

□相手^{あいて}によって態度^{たいど}を変^かえるのは節操^{せつそう}のない人^{ひと}です。

0507 舌 □毒舌^{どくぜつ}を吐^はいた人^{ひと}が、舌^{した}の根^ねも乾^{かわ}かないうちに、もうお世辞^{せじ}を言^いっている。

□二^{ふた}つの意見^{いけん}が対立^{たいりつし}市^{ぜっせん}、舌戦^くが繰^{ひろ}り広げられた。

0508 仙 □叔父^{おじ}さんは山奥^{やまおく}で仙人^{せんじん}のような生活^{せいかつ}を送^{おく}っている。

□本^{ほん}を読んで仙術^よを勉強^{せんじゆつ}すれば、仙薬^{べんきやう}をぼくでも作^{せんやく}れるでしょうか^{つく}。

□山深^{さんふか}い仙境^{せんきやう}にいと、羽化^{うかとう}登仙^{せん}の気分^{きぶん}を味^{あじ}わえます。

0509 宣 □がんの宣告^{せんこく}を受^うけた祖父^{そふ}はわたしたち家族^{かぞく}にがん^{たたか}と闘^{せんせい}うことを宣誓^{せんせい}して、闘病^{とうびやう}宣言^{せんげん}をした。

□宣伝^{せんでん}カーが、新製品^{しんせいひん}を宣伝^{せんでん}しながら町^{まち}を回^{まわ}っている。

□聖書^{せいしょ}を手^てにした壇上^{だんじやう}の宣教師^{せんきやうし}が、大勢^{たいせい}の人^{ひと}に説教^{せつきやう}をしています。

0510 染 □おばあちゃんは白髪^{しら}染^{がぞ}めで髪^{かみ}の毛^けを染^そめています。

□兄^{あに}はアフリカ旅行^{りやうこう}似出^{にで}かけ、コレラ^{かんせん}に感染^{かんせん}してしまい、入院^{にゆういん}しました。

0511 扇 □ぼくはおばあちゃんの誕生^{たんじやうび}日に、扇子^{せんす}をプレゼント^{せんす}することにしました。

□政治家の中には選挙演説出、巧みな言葉を並べ立てて、国民を扇動する人もいます。

0512 栓 □瓶入りのジュースを飲もうとしたら、栓抜きが見つからなくて、困ってしまう。

□長い間家を留守にするときはガスの元栓を閉めよう。

0513 旋 □新聞社のヘリコプターが、年の上空しきりに旋回しています。

□音楽室から、先生は奏でるピアノの美しい旋律が聞こえてきます。

0514 践 □毎朝、登校前に三十分間教科書を読んで予習をしようと決め、先月から実践しています。

0515 銭 □友情や信頼関係は決して金銭で買ったりすることではないもの。

□小銭をもって、銭へ湯行きました。

0516 銑 □鉄の原料となる鉄鉱を溶かして、いちばん始めに取り出した鉄を銑鉄といいます。炭素

を多く含んだ銑鉄は硬くてもろく、溶けやすいため、鋳物にしたり、洗練して鉄鉱にし

たりする目的に利用されます。

0517 潜 □潜水艦には潜望鏡がついている。

□犯人が近くに潜伏しているらしいと、声を潜めて話している人がある。

□南の海に潜ると、色鮮やかな熱帯魚たちと泳ぐことができる。

0518 遷 □七九四年で、間から京都への遷都が行われ、平安時代が始まります。

□社会科の授業で、わたしの町の変遷を調べます。

0519 薦 □昆虫が大好きなぼくに、伯父は「きみにはこの本を薦めるよ」と言って「ファーブル昆虫

記」を貸してくれた。

□彼はしっかりしているので、学級委員に推薦された。

□ぼくは生徒会長に、自薦で立候補するつもりだ。

0520 織 □ワタの種子の繊維から、綿ができます。

□私の茶碗には繊細な花模様があります。

0521 鮮 □五月の空に舞う色鮮やかなこいのぼりを見ながら、新鮮な空気を吸い込みます。

□この写真はとても鮮明なので、その時の印象が鮮烈によみがえる。

□鮮魚を刺し身にして食べるとおいしいですね。でも夏は生ものの鮮度が落ちやすいので、
気を付けよう。

0522 善 □誰もが、善良な国民の期待にこたえられるような善政を望んでいる。

□この事件については善後策を考えて早急に善処した。

0523 禅 □年老いた禅僧が寺で、座禅を組んでいる。

□お母さんは友禅染の着物を一枚持っています。

0524 漸 □漸増していた交通事故件数が、このところ漸減する傾向を示しました。

□物価が、今年になって漸騰している。

0525 繕 □わたしは身繕いをして出かけ、駅前の見せでおみやげを見繕って友達の家を訪問しました。

□へいを修繕しました。

そ

0526 阻 □陰阻な岸壁が、人間を阻み、開発を阻止してきたのです。

□川が、隣家との交流を阻害しています。

0527 租 □父は租税を税務署に納めています。

せんぜん しゃんはい いちぶ がいこく そしやく
□戦前、上海の一部は外国に租借されました。

0528 素 □彼はがかとしての素質がある。

ちち しろうと そぼく しゃしん たの
□父は素人ならでの素朴な写真を楽しんでいます。

0529 措 □举措を失った人を、保健室に連れてきた措置は適切だった、と先生に褒められた。

ろうじん よこちょう ながや す がくしゃ ただ そじ かんし よ
□老人たちが、横丁の長屋に住むびんぼうな学者は正しい措辞の漢詩を読むと、うわさしています。

そさだむ むずか ことば れんぱつ そ うしな
□「措定」などという難しい言葉を連発されて、措を失った。

0530 粗 □乱暴な言葉をする、粗野で粗暴な人と受けて取られてしまいます。

□おじいさんはものを決して粗末にしません。

0531 疎 □転校した友達と文通を続けていたが、次第にその回数が減り、今では疎遠になってしまった。

まち じんこう しない ちいきべつ じんこう そみつ しら
□町ごとの人口から、市内の地域別の人口の疎密を調べた。

した ともだち たい いし そつう ほか どりよく わす
□親しい友達に対しても、意思の疎通を図る努力を忘れないようにしましょう。

0532 訴 □弟が目の痛みを訴えたので、検査を受けるため、お母さんが眼科へ連れて行きました。

やくがい ひがいしゃ かんじや かぞく くに あいてど そしょう おこ
□薬害の被害者となった患者とその家族が、国を相手取って訴訟を起した。

0533 塑 □学校には塑像がいくつもある。玄関のホールには初代の学校先生の塑像が飾られ、美術室にはデッサン用の塑像があります。

□わたしたちは市の美術展に息、油絵の部屋を一巡した後に、彫塑のコーナーを見学しました。

つち にんぎょう むずか ことば だろそじん い
□土でできた人形のことを、難しい言葉では「泥塑人」と言います。

0534 礎 □どんなに難しい思える勉強でも、基礎さえ理解してしまえば、意外に簡単だということ

が分かるものだ。

□ 平和な社会のための礎石を築くことはすべての人間の使命だ。

□ 礎を定める事から、着工前に建物の土台を据えることを定礎という。

0535 壮 □ 勇壮な兵士は壮絶に戦い、壮烈な最後を遂げた。

□ 壮大で壮麗な寺院の壮観に圧倒されました。

□ 南極大陸横断の壮図を抱いて、探検隊は壮途に就いた。

0536 奏 □ バイオリンの演奏会の中で、弟はソロで、素晴らしい音色のバイオリンを奏でました。

□ ぼくたちの少年野球のチームは日頃の練習が奏功して、優勝した。

□ ぼくはトランペットが大好きなので、中学校に入学したら、吹奏学部に入部します。

0537 荘 □ 荘重を調べが流れる中、荘厳な式が始まった。

□ 山奥の旅荘に泊ったら、隣の大きな別荘が立っていた。

0538 倉 □ 港の近くは倉庫が立ち並び、船倉から荷が運び込まれます。

□ 北大陸の中西部はこむぎの生産高が多く、アメリカの穀倉地帯といわれています。

□ 悪人が善人の胸倉をつかみ、こぶしを振り上げている。

0539 挿 □ 作文はいくつかの挿話を挿入すると、ずっと面白くなります。

□ 班を読んでいて、思わず挿絵に見とれてしまう。

0540 桑 □ 桑の木の葉葉、カイコのえさになります。

□ おじいちゃん葉、ぼくに、「おじいちゃんの若いころはこのあたり一帯が、桑畑だったん

だよ。」と、教えてくれた。

0541 曹 □ぼくの友達の中に、大会社の重役の御曹司がいる。

□弁護士だった伯父さんの葬式には法曹界の人々が大勢集まった。

0542 巢 □兄の卒業アルバムの表紙には「巢立ち」と書いてありました。

□庭の木に、巣箱をかけておいたら、ツグミが、巣ごもっていた。

□勇敢な王子は山中の盗賊たちの巣くつをつきとめ、家来を連れて乗り込みました。

0543 創 □六年生は創立五十年周年記念の壁画を創造中だ。

□わたしの家は創業二百年の和菓子屋で、父は創意工夫したお菓子を次々と作り出している。

□兄は独創的な工作を県の作品展に出品市、表彰された。

0544 喪 □喪服を着た人たちが、葬儀会場から出てきます。

□学芸会で笛の合奏をすることになった。曲が難しくて、みんな自信を喪失した。

0545 葬 □葬式を少し改まったときは葬儀、葬礼、などの言葉が使われる。

□会葬した人々は亡くなった人の思い出を語り合っていました。

□時代や地域によって、死人を葬る方法はさまざま打。死体を焼いて残った骨を葬る火葬、

そのまま土に埋める土葬、水に沈める水葬、風雨にさらして風化させる風葬などがある。

0546 僧 □タイの僧りよは黄色の僧衣を着る。

□僧坊に高僧を訪ねたら、小僧さんが案内してくれました。

0547 遭 □夏休みにおばあちゃんの家に行ったとき、ものすごい台風に遭遇した。

□冬山登山で多くの人が遭難し、救助隊の大活動が報道されています。

0548 槽 □お父さんとペットショップに出かけ、水槽と熱帯魚を買ってきます。

□しっかり ^{あたた} 温まらないと風邪を引くので、浴槽に入ったら、百数えてからふろを出なさい。

0549 操 □先生は語学が得意で、三か国語を操ることができる。

□飛行場の近くを通りかかると、操縦士たちが体操をしていた。

□わたしたちの学校では情操教育のために、よく、劇や音楽の鑑賞会が開かれている。

0550 騒 □胸騒ぎがするので、急いで家に帰ったら、おじいちゃんが居間で倒れていた。

□銀行日、強盗が押し入り、騒然とした途端に、「騒ぐな、さもないと撃つぞ」と銃を向けた。

□大都会の騒音から逃れて、潮騒に身をまかせたい。

0551 藻 □藻は孢子で具得る植物で、藻の仲間全体を藻類と呼びます。海に生える藻類が海藻です。

一方、海に生えて種子で増えるものを海草といいます。

0552 即 □王が狩りの最中に落馬した。即死だった。まだ若い王子が急いで王に即位することになった。

□即席ラーメンの新商品の即売会がスーパーで開かれた。

□弟はひょうきんな子で、即興で歌うのが得意です。

0553 促 □人の手を加えて、野菜や草花などの生長を促す栽培方法を、促成栽培といいます。

□宇宙開発を促進する計画が、実行に移されることになった。

□つまるような感じを与える音が促音出、「かっぱ」「しっかり」「ペット」などの「っ」「ッ」のように書き表されます。

0554 俗 □歴史を学ぶと、時代や地域によってさまざまな風俗があることが分かって面白い。

□ある僧が、俗世間を離れて山にこもりしました。

0555 属 □わたしはテニス部に所属しています。

□あの女性は貴金属をたくさん身につけている。

0556 賊 □ねずみ小僧次郎は江戸時代末期の盗賊です。金持ちの武家に忍び込み、盗んだ金を貧しい

人々に分け与えた義賊打と伝わっています。

た

0557 妥 □自分の意見を主張することは大切だが、クラスの意見をまとめる場合は妥協することも必要だ。

□社員と会社の間で、賃金を増やす交渉が妥結した。

□わたしと妹がけんかをする、いつも妹が妥当な意見を行って、仲直りの手助けをしてくれる。

0558 墮 □やけになって、悪の道に墮したりしてはいけない。

□二宮金次郎は少年時代、貧しくてもけって墮落せず、働きながら勉強に励んだことで知られています。

0559 惰 □二学期が始まったのに、夏休みの惰性で、つい朝寝坊をしてしまう。

□ふだん忙しいのなら、たまの休日に、惰眠をむさぼるのも悪くない。

0560 駄 □お母さんは「落書きは駄目よ」と言った後、「絶対駄目よ」と駄目押しをしました。

□ぼくは学校から帰ると、駄菓子やさんに行きました。

0561 耐 □忍耐強いマラソン選手は足の痛みに耐えて、ついにゴールに着きました。

□学問には瞬間的なひらめきも必要だが、こつこつと勉強を続ける耐久力も欠かせない。

□耐熱ガラスのカップで紅茶を飲んだ。

0562 怠 注意を怠ったために風邪を引き、熱が出て一日中うなされています。

怠惰な生活を続けていると、顔に締まりが亡くなる、と大人はいいます。

0563 胎 胎児は母親の胎内で、生命活動を営み生長します。

二十一世紀に向けて、新しい時代が胎動を始めた。

0564 泰 日本はもう五十年以上も太平の世が続いています。

泥棒にねらわれた泰西の名画も、嚴重に監視しているので、安泰です。

0565 逮 空き巣の犯人が逮捕されました。

逮捕状は警官が犯人と思われる人や逃げた犯罪者を捕まえてよいことを証明する書類です。

0566 隊 一列になって前進する兵隊は対象の号令に、立ち止まりました。

運動会のパレードは鼓笛隊のみごとな演奏で盛り上がった。

0567 滞 水道代を滞納したら、延滞料を取られた。

姉はパリに滞在してお菓子作りを研究中だが、フランス語の勉強が滞って困ります。

機長は滞空時間の長さを誇っている。

0568 態 授業中に友達とおしゃべりしていたら、先生に「きみたちの学習態度はなっていない」

としかれ、廊下に立たされた。

あしたは遠足なので、天候の状況が気になる。

生物の授業で、野鳥の生態を観察するグループと、魚を形態によって分類するグループ

に分かれて学習した。

0569 滝 夏休みは田舎へ行って滝川で釣りをする予定だ。滝川での釣りは始めてなので、今から楽

しみだ。

□栃木県日光市の華厳の滝に行ったとき、滝壺に落ちた水のしぶきが、見ているぼくたちの
所まで飛んできた。

□マラソン選手たちの額から、汗が滝のように流れ落ちていた。

0570 択 □試験で、悩んだ末に選択した答えは正解だった。

□話し合いで、ぼくの案が採択された。

0571 沢 □山を越えて、沼沢のあり高原にたどりついた。途中、沢水で顔を洗った。

□自分尾革靴を磨いたら、美しい光沢が出て新品同類になった。

0572 卓 □兄は卓球に関しては卓越下能力の持ち主です。

□今日は父の誕生日なので、食卓に、花を飾り、ごちそうを食べました。

□生徒会長の選挙演説で、彼は校則問題について、卓抜した意見を述べ、みんなの信頼を
い、当選した。

0573 拓 □十九世紀い大量に移住してきた人たちが、アメリカの西部を開拓した。

□父の自慢は大きな魚拓で、祖父の趣味は拓本作りです。

□日本で一番目に大きかった湖、八郎潟を干拓して大潟村ができた。

0574 託 □ぼくは両親が、共働きだったので、小さいとき、託児所に預けられた。

□母は結婚退職後も、その会社に、数年間、嘱託社員として務めていたそう。

□この村には神の託宣を伝える人がいるそうです。

0575 諾 □唯々諾々としているだけでは自分の頭は鍛えられません。

□面白そうな本を友達が読んでいたので、「読み終わったら貸して」と頼んだら、「うん」と

かいだく
快諾してくれました。

□PTA総会への参加の諾否を確かめる通信が、きょう配られました。

0576 濁 □「ガ」や「ザ」などのように、濁る音を濁音といいます。

□降り続く大雨で土砂崩れが起こり、土手をこえて濁流がおしよせてきた。

0577 但 □この説明書には但し書きが多い。

□先生は優しい。但し、宿題を忘れてたり授業中に騒いだりすると、途端に怖い顔をして怒ります。

0578 脱 □チームは連敗を脱し、最下位から脱出した。

□嫌い授業から脱走できたら、どんなにうれしいことか。でも、脱走は規則の逸脱だ。

0579 奪 □わがチームはテニスの試合で日本一の座を奪回した。

□クラス対抗の野球大会に、ピッチャーとして出場した彼は十三個の三振を奪取した。

0580 棚 □年末の大掃除をしたら、本棚と戸棚から母のへそくりが出てきた。

□ぼくの家の店は月末に棚卸しをした後、棚ざらえの売り出しをします。

□問題は棚上げされたままです。

0581 丹 □丹青は赤い色と青い色という意味から、色彩や絵の具の色のことを表す言葉だ。また、転

じて、絵画という意味をもつようになった。

□この丹前は祖母が丹精を込めて縫ったものだ。

0582 胆 □豪胆な監督が、ホームスチールという大胆な作戦で、みんなの心胆を冷やした。

□親しい友人が引っ越してしまい、落胆した。

0583 淡 □おばあちゃんは淡泊な味付けの和食が得意で、日常の生活も淡々としている。

□アコは淡水魚で、川魚の女王と呼ばれている。

0584 嘆 □お母さんが、○点の算数の答案用紙を見「ああ、嘆かわいい」と言って、嘆くだらうな。

□今回の彼の演奏には感嘆した。

0585 端 □端正な顔立ちだが、激しい性格が行動の端々に出る。

□初めて役がついた。まだ端役だけど、大役をつかむ端緒にしたい。

□この会社は末端の社員までサービス精神が行き届いてみごとです。

0586 誕 □十一年前のきょう、わたしは両親の最初の子どもとして誕生しました。

□クリスマスはキリストの生誕を祝う祭りです。

0587 鍛 □名人が鉄を鍛え上げて刀を作る。

□水泳やマラソンで体を鍛練して、トライアスロンに出たい。

□昔ほどの村にも鍛冶屋があって、すきやくわなどを鍛造していた。

0588 弾 □天草四郎は江戸幕府のキリシタン弾圧に抵抗し、天草の乱を起した。

□弾力のあるボールはよく弾む。

0589 壇 □庭の花壇からキクの花を切って、仏壇に供えました。

□講演をする人が演壇に上がった。

ち

0590 致 □アキレスけんを切ったことが致命傷になり、引退した選手は多い。

□危険な薬には致死量が定められています。それ以上使う死に至るからです。

□オリンピックを招致するためには市民全員が一致して運動を起さなくてはなりません。

0591 稚 孫から届いた手紙は稚拙な文章でも、胸を打たれるものです。

幼稚園児たちは稚気愛すべき笑顔で、遠足に出かけました。

子供たちにとってはエコロジーに関する幼稚な議論を重ねるよりも、稚魚を川に放す方がわかりやすいだろう。

0592 痴 おじいさんが、老人性痴呆症にかかってしまった。

気持ちよく歌っていたら、音痴だといわれた。

0593 逐 ぼくの弟は帰宅すると、すぐにお母さんに、学校であったことを、逐一報告する癖があります。

現在の農業では人的被害を考慮して、殺虫剤をまいて、害虫を駆逐する方法はへりつつあります。

選挙投票の開票結果はテレビ速報で逐次発表されます。

0594 蓄 明日の運動会に備え、端役眠ってエネルギーを蓄積しておこう。

我が家の先祖は儉約家で、貯蓄に励み、蓄財につとめた。

0595 秩 世の中の秩序が保てていれば、わたしたちは穏やかで落ち着いた生活をする事ができます。

0596 窒 温室の中で、一列いマスクメロンがぶら下がっていた。

室温が上がってきてので、暖房は止めます。

0597 嫡 わたしは嫡出子ですが、嫡男ではありません。

鎌倉幕府を興した源氏の嫡流は三代将軍源実朝で絶えてしまいました。

0598 沖 晴れた日に、父と一緒に船に乗り、沖合いまで出て、沖釣りを楽しみました。

川が運んだ土砂が積み重なった、沖積平野はつくられました。

0599 忠 友人の忠告を、忠実に守っている。

江戸時代に大名の忠臣たちは忠孝の心があつかった。

0600 抽 抽象芸術はわたしにはまだ抽象的すぎて理解できません。

宝くじの当選は厳正な抽選によって決定した。

0601 衷 衷情を訴えたら、先生は理解してくれた。ぼくは衷心より、先生に感謝した。

会議室に集まった大人たちはみんな苦衷に満ちた表情を浮かべていました。

0602 鋳 金属を溶かし、型の中に入れてつくったものが、鋳物です。この時に使われる型は鋳型と

呼ばれます。身近な鋳物には鉄のフライパンやなべなどがあります。

人間を、鋳型にはめるのはよいこととはいえない。

日本の硬貨は大蔵省造幣局で鋳造されている。

0603 丁 「丁字路を右に曲がっていけば図書館があります」と、丁寧におばあさんが道を教えてくれました。

六丁目のバス停に着いたら、丁度バスが来た。

お客様には丁重に接しなくてははいけません、と注意された。

0604 弔 王さまの死を悼み、兵士たちは弔旗を掲げて弔い合戦に出陣した。

友人が弔辞を述べた後、弔電が紹介され、会葬者全員で、弔意を表した。

弔問客が、次々に訪れた。

0605 挑 新進気鋭のボクサーが、チャンピオンに挑戦しようとしています。

どんな場合でも、相手の挑発に乗って先に手を出してはいけない。

前人未到の記録に挑む人はこれまで誰もが経験しなかった困難に打ち勝つ挑戦をしてい

るのです。

0606 帳 □帳面には用途に応じて雑記帳、日記帳、練習帳などいろいろなものがある。

□お年玉を銀行に持っていき、預金通帳を新しい作ってもらった。

0607 張 □お互いにの主張を譲らずに、意地を張り合っている、問題の解決にはならない。

□「いたずらの張本人はぼくです」と、正直に名乗り出たら、お父さんに張り倒された。

0608 彫 □石こうの塊を彫って、彫刻をつくった。

□校門の横に、遊んでいる子どもたちをかたどった彫像が立っている。

0609 眺 □家族で山を登り、山頂から三百六十度見渡せる雄大な眺望を楽しみました。

□我が家から畑の向こうに見える山々の眺めが、ぼくはいちばんすきです。

0610 釣 □釣り人はきょうの釣果を、勇んで家に持って帰った。

□左右の重さが釣り合ったところで手を離し、目盛りを読みます。

0611 脹 □風船に空気を吹き込み続けると、づ失せんが膨張して、やがて破裂する。

□おじいさんは首のしゅ脹を手術でとってもらった。

0612 腸 □父は断腸の思いで、手術を受ける決意をしました。

□胃で砕かれた食物は小腸で消化吸収され、それ以外のものは大腸に押し流されます。

0613 跳 □走り高跳び、走り幅跳び、三段跳び、棒高跳び、の四種類目を、跳躍競技といいます。

□屋根裏で、ネズミが跳りょうしている。

0614 徴 □所得税は所得に応じて徴税するという特徴がある。

□ハトは平和の象徴だ。

0615 潮 干潮の浜に出て、潮風に打たれたながら、潮干狩りを楽しみました。

黒潮に乗って船は進みます。

0616 澄 登山者は澄んだ山の空気の中で、耳を澄まして鳴く鳥の声に聞き入った。

泥水をビーカーに入れてしばらく置くと、沈んだ泥と上澄みとに分かれる。

0617 聴 健康診断のとき、お医者さんは聴診器を使います。

人気のあるテレビ番組は視聴率が高い。

0618 懲 悪いことをした社会人は会社から懲戒免職になることがあります。

戦争はもう懲り懲りだと、おばあさんはよく言っています。

0619 勅 祖父は「昔は国民は天皇陛下の勅命に従うのが、あたりまえだった」といいました。

教育勅語は一八九〇年に制定された。

0620 朕 「朕」は第二次世界大戦が終わるまで使われていた、天皇が自分の指しているときの言葉

です。一九四七年から、この表現は使われなくなり、代わりに、「わたくし」が用いられるようになりました。

0621 陳 市民の陳情に対して、市長は対応の遅れを陳謝したそうです。

デパートは商品を陳列します。

0622 賃 今年の賃上げは賃貸マンションの家賃の値上げて消えた、とお父さんは歎いていました。

お兄さんはアルバイトの賃金をもらってニコニコ顔で帰ってきた。

マンションの賃貸借契約書は重要な書類だ。

0623 鎮 騒動を機動隊牙出動して鎮圧し、人々はようやく鎮静化しました。

お母さんは沈痛を具現した公園計画を具体化しました。

つ

0624 墜 □飛行機が、濃霧のため、海に墜落した。

□安全運転を通してきた運転手は先日、飲酒運転で事故を起こし、信用を失墜した。

0625 塚 □貝塚は当時の生活を知る手がかりになりました。

□江戸時代には街道に一里ごとに土を盛り木を植えて、道のりの目印にしました。これを一里塚といいます。

0626 漬 □父は漬物で、お茶漬けを食べました。

□ぼくはぎりぎりまで遊んでいたもので、一夜漬けで試験勉強を済ませた。

0627 坪 □我が家の建坪は坪数で三十坪あります。

□古い屋敷には建物などで囲まれた坪庭があり、石を敷き詰めたりして風雅な情趣を醸し出します。

□地坪三十坪もある家の庭はずいぶん広く感じします。

て

0628 呈 □卒業式で、進呈と書かれた卒業記念品目録が、卒業生の代表に呈上された。

□今年は景気もいいようなので、夏休みのリゾート地はどこにも満員で活況を呈するだろう、とお父さんから言っていた。

□ばれないでほしいと思っている悪事は必ず露呈するものなのだ。

0629 廷 □法廷に出廷した証人が、入廷しました。

□大和朝廷は四、五世紀ごろ、日本の統一を果たしました。

0630 抵 大抵もことはお大目に見ても、法律に抵触することは許すわけにはいかない。

家のローン返済中、家は抵当に入っています。

0631 邸 豪邸が立ち並ぶ高級住宅には邸内にプールがある邸宅もある。

首相が首相官邸から出てきました。

0632 亭 料亭や旅亭が集まった、町の一角は昼間はひっそりしています。

うどん屋さんの亭主は近所では亭主関白で有名です。

0633 貞 おばあさんは貞淑の誉れが高く、貞女と呼ばれたそうです。

「貞節も、貞操も、今や死語だな」と父は言います。

わたしは明治時代の女性に、貞潔な美しさを感じます。

0634 帝 ローマ帝国皇帝はプリンケプスと呼ばれ、帝位は世襲制ではなかった。

タイトルを持ってはいないけれど、実力はタイトル保持者に匹敵する人のことを、無冠の

帝王と呼びます。

帝政ロシアは帝都をモスクワからペテルブルグに移した。

0635 訂 新聞に、写真を間違えたという訂正記事が掲載されていました。

父は増訂されて新版になった本を買ってきた。

0636 遞 現在の郵政省は一九四九年までは逓信省という名称でした。

現在の日本では子どもの数が低減している。

ぼくの住む町ではここ数年、住宅地の開発が進んで人口が逓増してきました。このため、

今年新しい小学校も設立される予定です。

0637 偵 偵察に出た兵士は敵陣の奥に入り込んで内偵した。

現場に残された証拠を一つ一つ調べ上げた探偵は犯人が誰かを克明に推理した。

領内に潜り込んだ密偵が、変なうわさを広めていった。

0638 堤 お父さんと一緒に、防波堤に行って、海釣りをしました。

川の堤防工事が行われています。

0639 提 問題を提起する提案をまとめて提言しました。

受付で身分証明を提示してから、係の人に申込書を提出してください。

父の会社はアメリカの会社と技術提携をすることになった。

0640 艇 「ボートのことを、短艇というんだよ」と、おじちゃんが教えてくれました。

先日行われたレガッタの試合で、兄のチームは一艇身の差で、優勝を逃しました。

0641 締 日本はサンフランシスコ講和条約を締結した直後に、日米安保条約をアメリカと締結しました。

文集の原稿の締め切り日が近づいてきたので、気を引き締めて原稿を書いています。

議長が会議を締めくくり、戸締まりをしてから帰った。

0642 笛 ぼくは口笛を、友達は草笛を吹きながら、土手道を歩きました。

鼓笛隊が華やかに入場してきた。

0643 摘 市民から指摘されていた不正事件を、警察が摘発しました。

読んだ本の要点を摘出して、自分で摘要を作りました。

二百十日がきて茶摘みの季節になり、多くの人が茶を摘み取っている。

0644 敵 対戦相手が、敵意をむき出した敵視してきた。

かれ きょうてき てきたい
□彼は強敵なので、敵対したくありません。

0645 送 □汚職事件が起きたりして、大臣や官僚が更迭されることがある。このような出来事はあ
ってほしくないものだ。

0646 哲 □哲学は人間の生き方や世界等、世の中の物事の基本となる道理を研究する学問です。
□ソクラテスは古代ギリシャの哲人です。

0647 徹 □昨夜、兄は徹夜で試験勉強したそうです。

かれ しよし かんてつ さんちょう た
□彼は初志を貫徹して、ついに、エベレスト山頂に立ちました。

0648 撤 □わたしの家の付近は建物が撤去されています。

せいとかいちょう せんじつ せいとかい いけん てっかい
□生徒会長は先日の生徒会での意見を撤回しました。

0649 典 □日本の古典を読むには辞典を丹念に調べなくては理解できません。

しょう とくてん ひやっかじてん
□賞の特典として、百科事典をおりました。

0650 展 □次々と展開する物語をわくわくしながら追っていくのは本を読む楽しみの一つです。

さんちょう てんぼうだい ゆうだい けしき なが
□山頂の展望台から雄大な景色を眺めた。

0651 添 □食品に添えられた添加物の奈かには健康に心配な化学成分もあるそうだ。

としよ てんじょういん かいぞ お
□お年寄りには添乗員に介添えされてバスを降りました。

と

0652 斗 □一斗は十升で、約一八リットルあります。ですから、「斗酒なお辞せず」という斗酒はす
ごい量になります。

いっしょうびん こびん ろうと つか
□一升瓶のしょうゆを小瓶にうっしかえるのに、漏斗を使います。

ほくとしちせい み ふゆ さむ みち ひとり
□北斗七星がよく見える冬の寒い道を、一人で歩きました。

0653 吐 □父は青息吐息の事業の実情を、わたしたち家族に吐露した。

□強烈な吐き気が込み上げてきた。

0654 奴 □十六世紀、アメリカ大陸西海岸の人たちは奴隷としてアメリカに売り飛ばされた。

□領主は農奴たちに、自分の畑を耕された。

0655 刀 □刀を作ることを仕事にしている人を、刀かじ、または刀工という。

□中学の剣道部に入った兄は新しい竹刀を持って、さっそうと登校していきました。

□刀剣の名手とうたわれた武士の腕にはかつての果たし合いで受けた刀傷があった。

0656 豆 □豆乳ににがりを入れて固めると白くて柔らかい豆腐になる。

□ぼくは大豆を發揮させた納豆が、お父さんは枝豆が大好きです。

□我が家では小豆を入れて赤飯をたいて、家族みんなで食べます。

0657 唐 □唐の時代、日本は遣唐使を派遣して仏教・唐詩をはじめとした文物を学びました。

□友達は唐突に、荒唐無けいな冒険計画をみんなに話し出しました。

□唐草模様の大きなふろしきで、布団を包みました。

0658 桃 □女の子のほおが、ほんのりと桃色に染まって、はにかんでいるようです。

□よく冷やした白桃の皮をつるんとむいて、液がしたたる白い果肉にかぶりつきます。

0659 討 □時代劇には武士たちが敵の屋敷や陣に攻め込む討ち入りの場面が、よく登場します。

□きょうはクラス全員で、ある議題について討論した。

□わたしたちの町では住宅地を広げるとともに森林や自然を守にはどうしたらよいかにつ

いて、検討が重ねられている。

0660 透 ^{まど} □窓ガラスを透^すかして透明^{とうめい}な透明^{とうめい}な光^{ひかり}が差し込^こんでいきます。

□理科^{りか}の授業^{じゅぎょう}で、浸透^{しんとう}圧^{あつ}の実験^{じっけん}をしました。

0661 悼 ^{ちち} □父^{ちち}は交通事故^{こうつうじこ}による突然^{とつぜん}の友人^{ゆうじん}の死^しを悼^{いた}み、悼辞^{とうじ}の電報^{でんぽう}を打^うった。

□子ども^こが病死^{びょうし}した叔父^{おじ}さんのい^いwに届^{とど}いたお悔^くやみの手紙^{てがみ}の最後^{さいご}に、「お子^こ様の^{さま}霊安^{れいやす}かれ
と、つつしんで哀悼^{あいとう}の意^いを表^{あらわ}します」と書^かかれています。

□兄^{あに}は恩師^{おんし}の葬式^{そうしき}に参列^{さんれつ}し、追悼^{ついでう}の言葉^{ことば}を述^のべた。

0662 陶 ^{とうこう} □陶工^{とうど}は陶土^{かたぢ}をろくろ^{うえぐすり}くで形^{かたち}にして、上^ぬ薬^やを塗^{とう}って焼^きき、陶器^{とうき}を作^{つく}りました。

□名曲^{めいきょく}は人^{ひと}を陶醉^{とうすい}させ、陶然^{とうぜん}とした気持^{きもち}ちにさせます。

□夏休^{なつやす}みに人格^{じんかく}を陶^{とう}やする合宿^{がっしゅく}に参^{さん}加^かした。

0663 搭 ^{しんがた} □新型^{しんがた}エンジンを搭載^{とうさい}した自動車^{じどうしゃ}を、お父^かさんは買^かいました。

□飛行機^{ひこうき}の搭乗員^{とうじょういん}が乗^のった後^{あと}、わたしたちツアー参^{さん}加^か者が乗^のり込みました。

0664 棟 ^{とう} □棟^{とう}りょうが指図^{さしず}して棟木^{むなぎ}を上げ^あげた後^{あと}、みんなで棟^{むね}上げ式^{あしき}をお祝^{いわ}いました。

□夜半^{やはん}すぎに出火^{しゅつか}した火事^{かじ}は夜中^{よなか}燃^もえ続^{つづ}け、結局^{けっきょく}、家屋^{かおく}五棟^{ごとう}が全半^{ぜんはん}焼^{しょう}してしまっ

□院長^{いんちやう}は毎朝^{まいあさ}、病棟^{びやうとう}を一つ^{ひと}一つ^{ひと}回診^{かいしん}して歩^{ある}きます。

0665 痘 ^{しゅとう} □種痘^{しゅとう}とは力^{ちから}を弱^{よわ}めた天然痘^{てんねんとう}のウイルス^{ウイルス}を人^{ひと}に皮膚^{ひふ}に植^うえ付^つけることです。種痘^{しゅとう}の跡^{あと}が残^{ざん}っ
てい^{ひと}る人もいます。

□プールの行^{おこな}って、水痘^{すいとう}に感^{かん}染^{せん}してき

0666 統 ^{えんそく} □遠足^{えんそく}では統率^{とうそつ}する先生^{せんせい}の統制^{とうせい}に従^{したが}いました。

□正統^{せいとう}な王家^{おうけ}の血統^{けつとう}が絶^たえました。

0667 稲 稲田にはすっかり実った水稲の稲穂が黄金色に輝いて、頭に垂れていました。

上々の稲作で、稲刈りが済んだら、お稲荷様に奉納します。

稲妻が光り、稲光が走って、雨が降ってきた。

0668 踏 彼は砂漠を踏破し、人跡未踏の地に達した。

雑踏の中に足を踏み入れたら、誰かに思いっきり足を踏みつけられました。

0669 糖 砂糖には精製した白糖のほかに、精製していない黒糖があります。

入院したわたしはブドウ糖を点滴して糖분을補給し、糖衣錠を飲んだ。

糖尿病は重大な成人病です。

0670 謄 学校にあった謄写版で印刷をしてみます。

原本の内容をそのまま書き写した書類が謄本で、身近なものとしてはわたしたちの

生年月日や家族関係を記した、戸籍謄本があります。

0671 闘 闘志をたぎらせた闘士が闘技場で、死闘をします。

闘病生活は自分との闘争ともいえます。

父は大工仕事似孤軍奮闘で苦闘しています。

0672 騰 沸騰したお湯を使うと、おいしい紅茶を入れることができます。

物価の騰落が激しいので、なかなか生活が安定しません。

0673 洞 森の奥に隠れた同門を入ると、中は暗い空洞の洞穴だった。

洞察力を養うために、ぼくは推理小説を読んでいるのです。

0674 胴 優勝を祝って、監督を全員で胴上げした。

□あまりに^{どうよく} 胸^{しう}欲^{どうぶる}な仕^と打ちに、胸^と震^といが止^とまりませんでした。

0675 峠 □^{なが} 長い登^{のぼ}り道^{みち}を登^{のぼ}ってきたわたしたちは^{とうげ} 峠^{ちやや}の茶^{はい}屋^{ちや}に入^のってお茶^{ひといき}を飲^ひんで、一^ひ息^{いき}つきました。

^{あと} 後は下^{くだ}り道^{みち}を下^{くだ}るだけです。

□^{こうねつ} 高^{つづ}熱^{はは}が続^{ようだい}いた母^{はは}の容^{ようだい}体^{たい}も、^{とうげ} ようやく^こ 峠^{ねつ} を越^きして熱^{ねつ}が下^さがってきました。

□^{さんごくとうげ} 三^{えちごく}国^{うえのこく} 峠^{しなのこく} には越^{さんごく} 後^{みょうじん} 国^{まつ} と上^{さんごくじんじや} 野^た 国^た と信^た 濃^た 国^た の三^た 国^た の明^た 神^た さまを祭^た って三^た 国^た 神^た 社^た が立^た っている。

0676 匿 □^{ちず} この地^{えどじだい} 図^{ざいほう} には江^{ひとく} 戸^{ぼしよ} 時^{ぼしよ} 代^{しる} の財^{しる} 宝^{しる} を秘^{しる} 匿^{しる} して^{しる} いる場^{しる} 所^{しる} が、わ^{しる} か^{しる} ら^{しる} ない^{しる} ように記^{しる} さ^{しる} れ^{しる} ているは^{しる} ず^{しる} なんだ。

□^{けさ} 今^{しんぶん} 朝^{しやくしよ} の新^{ぎようせい} 聞^{しごとがた} に、市^{ひはん} 役^{とくめい} 所^{とうしよ} の行^の 政^の の仕^の 事^の 方^の を批^の 判^の する匿^の 名^の の投^の 書^の が載^の っ^の て^の いた^の ま^の した^の。

□^{はんにん} 犯^{とうそう} 人^{まえ} たち^{しやうこ} は逃^{きやうき} 走^{いんとく} する前^{いんとく} に証^{いんとく} 拠^{いんとく} の凶^{いんとく} 器^{いんとく} を隠^{いんとく} 匿^{いんとく} し^{いんとく} ようと、^{もり} 森^{なか} の中^{はい} の入^{はい} っ^{はい} て^{はい} きた^{はい} した^{はい}。

0677 凸 □^{とつめんきやう} バッ^{でこぼこ} クミ^{どうろ} ラー^{うつ} の凸^{うつ} 面^{うつ} 鏡^{うつ} に、凸^{うつ} 凹^{うつ} して^{うつ} いる道^{うつ} 路^{うつ} が映^{うつ} っ^{うつ} て^{うつ} いる。

□^{かつばんいんさつ} 活^{しやしんばん} 版^{とつばん} 印^{はん} 刷^{はん} では写^{はん} 真^{はん} 版^{はん} は凸^{はん} 版^{はん} を版^{はん} に張^{はん} り^{はん} 込^{はん} んで、^{はん} 版^{はん} を作^{はん} り^{はん} ました。

□^{むしめがね} 虫^{ろうがんきやう} 眼^{とつ} 鏡^{とつ} や老^{とつ} 眼^{とつ} 鏡^{とつ} はい^{とつ} ず^{とつ} れ^{とつ} も凸^{とつ} レ^{とつ} ン^{とつ} ズ^{とつ} で作^{とつ} ら^{とつ} れ^{とつ} て^{とつ} います。

0678 屯 □^{おきなわ} 沖^{べいぐんきち} 縄^{しゆうへん} の米^{きゆうじつ} 軍^{ちゆうとん} 吉^{ちゆうとん} の周^{ちゆうとん} 辺^{ちゆうとん} では休^{ちゆうとん} 日^{ちゆうとん} に駐^{ちゆうとん} 屯^{ちゆうとん} して^{ちゆうとん} いる兵^{ちゆうとん} が、^{ちゆうとん} 町^{ちゆうとん} のあ^{ちゆうとん} ち^{ちゆうとん} こ^{ちゆうとん} ち^{ちゆうとん} にた^{ちゆうとん} む^{ちゆうとん} ろ^{ちゆうとん} して^{ちゆうとん} いる。

□^{めいじじだい} 明^{とんでんせいど} 治^{とんでんせいど} 時^{とんでんせいど} 代^{とんでんせいど} には屯^{とんでんせいど} 田^{とんでんせいど} 制^{とんでんせいど} 度^{とんでんせいど} があ^{とんでんせいど} り、^{とんでんせいど} 政^{とんでんせいど} 府^{とんでんせいど} は北^{とんでんせいど} 海^{とんでんせいど} 道^{とんでんせいど} に、^{とんでんせいど} 農^{とんでんせいど} 業^{とんでんせいど} と兵^{とんでんせいど} 役^{とんでんせいど} の両^{とんでんせいど} 方^{とんでんせいど} を行^{とんでんせいど} う^{とんでんせいど} 屯^{とんでんせいど} 田^{とんでんせいど} 兵^{とんでんせいど} を住^{とんでんせいど} ま^{とんでんせいど} わ^{とんでんせいど} せ^{とんでんせいど} た。

□^{めいじ} 明^{はじ} 治^{はじ} の初^{けいさつしよ} め^{とんしよ} 、^{とんしよ} 警^{とんしよ} 察^{とんしよ} 署^{とんしよ} は屯^{とんしよ} 所^{とんしよ} と呼^{とんしよ} ば^{とんしよ} れ^{とんしよ} て^{とんしよ} いた。

0679 豚 □^{めい} ぼ^{こぶた} く^{こぶた} の姪^{まるまる} は子^{ふと} 豚^{ふと} のよ^{ふと} うに丸^{あいきやう} 々^{あか} と太^{あか} っ^{あか} て^{あか} いて、^{あか} と^{あか} て^{あか} も^{あか} 愛^{あか} 敬^{あか} があ^{あか} る^{あか} 赤^{あか} ち^{あか} ゃ^{あか} ん^{あか} で、^{あか} み^{あか} ん^{あか} な^{あか} に「^{あか} ブ^{あか}

^{あか} 一^{あか} ち^{あか} ゃ^{あか} ん」と呼^{あか} ば^{あか} れ^{あか} て^{あか} 可^{あか} 愛^{あか} が^{あか} ら^{あか} れ^{あか} て^{あか} います。

□^{こんや} 「今^{だいた} 夜^{だいた} のお^{ぶたにく} か^{そて} ず^{そて} はあ^{そて} な^{そて} た^{そて} の大^{そて} 好^{そて} き^{そて} な^{そて} 豚^{そて} 肉^{そて} のソ^{そて} テ^{そて} ー^{そて} とほ^{そて} う^{そて} れ^{そて} ん^{そて} そ^{そて} う^{そて} の卵^{たまご} とじ^{たまご} よ」と、^{たまご} お^{たまご} 母^{たまご}

^い さ^い ん^い は、わ^い た^い し^い に^い 言^い い^い ま^い した^い。

□おじさんの家は農業のほかに、養豚も行っています。

な

に

0680 尼 □尼僧は仏教の女性の僧と、キリスト教の修道女の両方を指す言葉です。

□京都へ旅行して、天台宗の尼寺、寂光院を見学した。

0681 弍 □納屋で古いものを整理していたら、参拾円とか、昔風に書かれた家計簿が出てきた。

□叔父さんからもらった年玉の袋には裏に墨で弍千円と書かれていました。

0682 尿 □病院で検尿をして、どこも悪くないことがわかったので、安心しました。

□長距離バスに乗っている途中で尿意を催して、停留所に着くまで我慢する野が大変だった。

□動物のふん尿は枯れ草などとともに有機肥料の原料になり、植物を健康に育てます。

0683 妊 □妊産婦のための赤ちゃん教室が、公民館で行われています。

□おなかの大きな妊婦の人はいたわりましょう。電車に乗ってきたら、すすんで席を譲りましょう。

□妊娠した人は近くの保健所で母子健康手帳をもらえる。

0684 忍 □背後から忍び寄ってきた友達に、急に肩をたたかれて驚いた。

□彼の忍耐強さには頭が下がる。

0685 寧 □母はお客さん似丁寧似あいさつした後、テーブルを丁寧にふきました。

□寧日、ネコは縁側でうとうとしている。

ね

0686 粘 妹は粘り強い性格で、粘土細工をさせると、飽きずに黙々と作り続けている。

引越しのとき、粘着テーブルで荷造りをした。

の

0687 納 納屋や納戸のある大きな家でも、収納には苦労しています。

お父さんは税務署に納税しました。

は

0688 把 出された問題を把握できさえすれば、問題把おのずから解けます。

右手で玄関のドアを開けると、左手で買い物袋を把持していないと、買い物を通路にまいてしまう。

よそ行きよの服も普段着用の服も、十把人からけにして押し入れに掘り込んでおくと、後悔するよ。

0689 派 校舎の工事で校庭が狭くなり、場所とりでけんかが起きたりするなどの問題が派生してきた。

ある国の内戦を収めるため、周りの国が、派兵するとを決めた。

茶道や花道には流派があります。

0690 覇 「近ごろの若者は覇気がないね」と、父が言った。

兄の高校の野球部は夏の高校野球で、みごと全国制覇を成し遂げた。

0691 婆 長寿のむらで知られるこの村には百十四の老婆が、元気に暮らしています。

おばあちゃんはお産婆さんだったそうです。

0692 肺 校医さんは「軽い風邪だと思っても、油断すると肺炎になることもあるので、注意しまし

よう」と、おっしゃいました。

□ぼくのお父さんはたばこが好きです。いつも、お母さんに「肺がんになりますよ」としか
れています。

□兄は水泳の選手なので、肺活量が多いそうです。

0693 俳 □ぼくのおじいちゃんは俳句が趣味です。

□兄は飛行機の中で、有名な映画俳優に会いました。

0694 排 □風呂場は排水口に髪の毛がつまった。

□都会の空気は車の排気ガスなどで、汚染されています。

0695 廃 □机を整理したら、廃物がたくさん出てきた。

□兄の通っている中学校では今年から、制服が廃止されることになったそうだ。

0696 輩 □彼のお兄さんとぼくは野球部の先輩と後輩の間柄だ。

□姉はオリンピックの選手が輩出した体育大学に入学しました。

0697 梅 □ぼくは梅干しの入ったのり巻きのおむすびが大好きだ。

□今年は梅雨明けが遅くて、いつまでも、じめじめとした雨降りの毎日が続いている。

0698 培 □兄は細菌を培養する実験をしています。

□母は「給料が倍額になればいいなあ」と言っています。

0699 陪 □アメリカの陪審員制度では有罪、無罪は裁判官ではなく、陪審員が決めます。

□父はきょう、社長と陪席しました。

0700 媒 □ペストの病原菌を媒介するのはネズミやノミです。

□教育の媒体にはテレビ、ラジオ、パソコンなどがあります。

0701 伯 □兄は大学の美術史のゼミで、ある画伯についての研究論文を発表したそうです。

□二人の生徒の卓球の實力は伯仲しています。

0702 拍 □彼はギターの演奏を披露し、会場から、割れんばかりの拍手が沸き起こりました。

□兄は試験勉強似拍車をかけています。

0703 迫 □「ロミオとジュリエット」の芝居を演じた二人は迫真の演技だった。

□選抜大会に向けて、野球部員は気迫のこもった練習に励んでいます。

0704 舶 □ぼくは船舶が乗っている図鑑を買ってもらった。

□おばあちゃんは舶来品の古い腕時計を持っているそうです。

0705 博 □兄は大学の博士課程で勉強しています。

□ナイチンゲールは博愛の精神を持っていました。

0706 漠 □きみの考えは漠然としていて、ぼくにはつかみどころがない。

□サハラ砂漠は広漠としている。

0707 縛 □ころんでひざをけがしてしまったので、傷口をハンカチで縛って家に帰り、すぐに消毒しました。

□旅先では学校や会社といった日常の束縛から開放され、ゆったりできる。

0708 鉢 □弟はおじいちゃんが大切にしている植木鉢を、割ってしまった。

□友達と映画を見に行ったら、館内で兄と鉢合わせした。

0709 伐 □森林を伐採して、林道が造られた。伐採された樹木は公園で、ぶらんこなどの材料として

利用された。

□人間は地球の自然環境をずいぶん破壊してしまった。今後は乱伐などをしないよう心か

けならばならない。

□^{ももたろう おに しま おに せいぼつ}桃太郎は鬼が島の鬼を征伐しました。

0710 罰 □^{やくそく じかん おく ざいあくかん つみほろ ともだち にもつ も}約束の時間に遅れた罪悪感から、罪滅ぼしに友達の荷物を持つことにした。

□^{むざい しゅちよう ひこく ゆうざい}無罪を主張した被告が有罪になった。

0711 関 □^{がくもん じゆう けんきゆう がくしや}学問にとらわれず、自由に研究している学者たちもいます。

□^{にんげん あつ ぱげつ}人間が集まると、派閥がしやすい。

0712 帆 □^{ほぬの かぜ う はんそう はんせん ほかげ とお}帆布に風を受けて帆走する帆船の帆影が、ますます遠ざかった。

□^{ほ が せん じゅんぶうまんぱん しゅっぱん}帆掛け船が順風満帆、出帆した。

□^{ぼしら おお しらほ わんない かいでき はし}帆柱に大きな白帆をなびかせたヨットが、湾内を快適に走っています。

0713 伴 □^{がくげいかい がっしょう ばんそう たんにん せんせい}わたしたちのクラスは学芸会で合唱をします。ピアノの伴奏は担任の先生です。

□^{み えいが ちち どうはん で}見たい映画があったので、父に同伴してもらって出かけました

0714 班 □^{かん はんが はじ はんちよう えら}この間、クラスで班替えがあり、ぼくは初めて班長に選ばれました。

□^{こんかい えんそく はんべつ こうどう}今回の遠足では班別に行動した。

0715 畔 □^{えんそく みずうみ い こはん え あそ ついたち す}遠足で湖へ行き、湖畔で絵をかいたり、遊んだりして一日を過ごしました。

□^{ともだち かわ つ かはん ね おお くも なが}友達と川で釣りをしたあと、河畔に寝そべて大きな雲を眺めました。

0716 搬 □^{てんらんかい さくひん びじゅつかん はんにゆう}展覧会の作品を美術館に搬入した。

□^{はんそうちゆう にくず にもつ しぼ うんばん}搬送中に荷崩れがしないように、しっかり荷物を縛って運搬しています。

0717 煩 □^{いん こ はんざつ てつづ おお}引っ越しは煩雑な手続きが多い。

□^{ぼんのう ひと こころ みだ よくぼう まよ あらわ ぶつきょう ことば こぼんのう じぶん こ}煩惱とは人の心を乱す欲望や迷いのことを表す仏教の言葉だが、子煩惱は自分の子ども

もをとしてもかわいがることを意味する。

0718 頒 □わたしは母と、デパートで催されている版画の頒布会に出かけました。

□お父さんが、かばんから取り出した古本には頒価一万円と書かれていた。

0719 範 □試験の範囲尾先生が発表したけど、あまりに広範なので、いまさらどう勉強していいかわからない。

□植物の範ちゅうはとても広くて、海藻ばかりかカビも植物に含まれます。

□きみが模範となって、クラスみんなに授業態度の規範を示してくれ、と先生に言われました。

0720 繁 □休みの日には繁華街がおおにぎわいし、商売が繁盛している。

□学校の飼育室で、ウサギが繁殖した。

0721 藩 □江戸幕府は全国の大名の領国を親藩・譜代・外様に分けて支配しました。

□江戸時代には現在の東京である江戸に、各地の大名が、藩邸という屋敷を持っていた。

0722 蛮 □酔った青年が蛮声をはりあげて騒いだ。

□兄と高い所から飛ぶ競走をして負けられなくなり、蛮勇をふるって飛び降りたら足をくじいてしまった。

0723 盤 □基盤の盤面には白と黒の石が置かれています。

□トンネル工事で、地盤崩れて、落盤事故が起こった。

ひ

0724 妃 □ヨーロッパの王国の王妃が、皇太子妃を伴って日本を訪問されるそうです。

□園遊会では妃殿下たちの装いが、いつも話題になります。

0725 批 □市民の市役所に対する批判が高まっている。

□国会は平和条約を賛成多数で批准した。

0726 披 □お兄さんは友達ともだちの結婚式けっこんしきの披露宴ひろうえんで、友人代表ゆうじんたいひょうのスピーチをしました。

□無罪むざいが立証りっしょうされた被告人ひこくにんは心中しんちゅうを披れひきしました。

0727 肥 □お父さんは肥満ひまんを気きにしている。

□いくら肥ひよくな土地とちでも、肥料ひりょうをやらなくてはいいよい作物さくもつはならない。

0728 卑 □そんなに自分じぶんのことを卑下ひげして、卑屈ひくつになる必要ひつようはありません。

□卑近ひきんな例れいと言いっても、卑俗ひぞくすぎるのは感かんじしません。

□卑劣ひれつな手段しゅだんで人ひとを陥おちいれるようなことはするな。

0729 秘 □しにせのうなぎ屋やのおいしさの秘ひけつは秘中ひちゅうの秘ひのたれにある。

□夏休なつやすみに家族かぞくでアメリカひきょうの秘境りょこうを旅行りょこうしました。

0730 扉 □昔むかしの人ひとが現代げんだいに来きたら、店みせや乗り物のの扉もものが、自動じどう的に開ひら扉びらされるのに驚おどろくだろう。

□王子おうじは鉄扉てつびをあけて、盗賊とうぞくに閉とじ込められていた村娘むらむすめを助たすけ出だしました。

0731 碑 □開拓かいたくの記念碑きねんひの碑文ひぶんを讀よむと、往時おうじの人ひとたちの繰くろうがしのばれます。

□歌人かじんの墓碑ぼひの碑銘ひめいには歌人かじんの代表だいひょう作さくが彫ほられている。

□古ふるい石碑せきひが、学校がっこうに裏うらにある。

0732 罷 □贈賄ぞうわい事件じけんが発覚はっかくし、その中心人物ちゅうしんじんぶつである大臣だいじんを罷免ひめんした。

□労働組合ろうどうくみあいの要求ようきゅうが、経営者側けいえいしやがわに聞きき入れられないため、組合員くみあいいんは徹夜てつやの話はなし合あいの結果けっか、

罷業ひぎょうとに決定けつていした。

□工場こうじょうで働はたらく人々ひとびとが、ストライキおこなを行ひこううことを、罷工ひこうとといいます。

0733 避 □学校がっこうで火事かじが起おきた場合ばあいの、避難訓練ひなんくんれんした。

□今年の夏は避暑のために高原へ行きます。

0734 尾 □ぼくは父と、北アルパスを尾根づたいに歩いた。

□ぼくはテレビの刑事ドラマで、私服刑事が容疑者を尾行するシーンに、見入った。

□兄は首尾によく試験に合格し、意気揚々と、スキーに出かけたが、転んで、尾てい骨を打った入院した。

0735 微 □微風が心地よいのか、赤ちゃんは眠ったいるときもかすかに微笑を浮かべることがある。

□微熱があって体がだるい。

0736 泌 □人間が物を食べることによって、胃の中では胃液が分泌する。さらに、十二指腸で消化液

が分泌されて食べ物を消化して栄養分が体全体に吸収される。

0737 姫 □将軍の姫君がさらわれ、城中が大変な騒ぎになった。

□亡くなったおばあさんの形見として、母は着物を、わたしは姫鏡台をもらった。

□舞姫は踊りを踊る女の人のことを表す、むかしの優雅な言葉だ。だからバレリーナは言ってみれば現代の舞姫というわけだ。

0738 俵 □村祭りで、米俵を持ち上げる、力自慢コンテストがありました。

□横綱の土俵入りに、盛大な拍手が起こった。

0739 票 □投票による表決を、票決という。

□レストランで食事をしたあとはレジに伝票を持っていき、お金を払う。

0740 評 □いま評判のテレビ番組で、評論が鋭い批評をしていた。

□評議会はいつも小田原評定になる。

書評で、エジソンの評伝を取り上げた。

0741 漂 海を漂ってきた木の枝が、海岸に漂着した。長い間漂流して、色も形もすっかり変わっている。

しみをつけてしまったシャツは漂白する。

0742 標 今年の夏休みの目標は早起きをすることと、いろいろな石を集めて標本を作ることです。

交通安全の標語を考えました。

0743 苗 きょう、理科の授業で、水稻の苗を植えた。苗代の手入れには水加減と水温の調節が大切だと学んだ。

おじいちゃんの家で、田植えの手伝いをしに行ったときに、「イネは命のもとだから、一苗たりとも粗末にはしてはいけない」と教えられた。

苗代から水田に植え替えるころのイネの苗を、早苗といいます。

0744 描 ぼくは油絵教室の先生に、一枚の油絵を描くためには何枚もの素描を積み重ねることが大切だと教わった。

ヘミングウェイの「老人と海」は情景を簡潔に描写した、素晴らしい文章だ。

ぼくは点描で、風景画を描いた。

0745 浜 夏休みに、家族で海に行き、浜辺でバーベキューをした。

ハマナスは砂浜に群生する海浜植物で、夏に赤紫色の大きな花が咲き、よい香りがします。

0746 頻 電子レンジは使用する頻度の高い電気器具の一つです。

祖母はわたしに、頻繁に手紙をくれます。

0747 敏 □うちのイヌは音に敏感だ。

□救急病院では医師や看護婦が機敏に動き、敏速にしている。

ふ

0748 扶 □わたしと弟はお父さんの扶養家族です。

□困ったことがおきた家には相互扶助で手助けをしましょう。

0749 附 □兄は大学の附属中学校に通っています。

□もとななる規則を補うために付け加えられる規則が、附則です。この語は法律などの

公用文では「附則」の形で書き表されています。

0750 赴 □山奥の分校に大学を出たばかりの若い先生が赴任してきて、子どもたちに、兄のように慕われている。

□父は故郷で大地震が起きたとき、赴援のため駆けつけたが、途中で恩師の死去の知らせを聞いて、大きな衝撃を受けたそうだ。

□母はお中元を持って、親戚の家に赴いた。

0751 腐 □夏は食物が腐りやすい季節だ。腐敗した牛乳を飲まないようにしましょう。

□コーチはチームを優勝させようと、腐心している。

0752 敷 □児童館の敷地の中に動物を飼っている一角があり、イヌや鳥などがいます。

□通学路沿いに古い西洋建築の大きな屋敷があります。

0753 賦 □天から付与された才能のことを天賦の才能ともいう。

□月賦で家具を買い替えました。

0754 譜 □わたしはピアノを習っているのですが、譜面を見なくても、いろいろな曲が弾けます。

□ぼくは好きな歌手の新譜のCDを買いました。

0755 侮 □丁寧に計算をしている子を、計算が遅い子だと、侮ってはいけません。

□大勢の人の前で、その人の欠点を指摘すれば、その日とを侮辱することになります。

0756 紛 □国際間の紛争や国の内紛が、いまでも世界のどこか起こっている。

□忙しさに紛れて、重要な書類を紛失してしまった。

0757 霧 □先生は近寄りやすい霧囲気を漂わせて、ひたすら仕事に打ち込んでる。

□「霧」という字は「雨」と「分」からできていて、元々は散り散りの水蒸気を表した字だ。

0758 噴 □九州に修学旅行に行きました。阿蘇山の噴火口からはもうもうと噴煙が立ち昇っていました。

□ぼくは友達と、駅前の噴水のある広場で待ち合わせました。

□お母さんは、噴霧器を使って、ハンカチやブラウスに、上手にアイロンをかけてくれます。

0759 墳 □兄は大学で、古墳の発掘調査をしています。

□仁徳陵は先方後円墳で、規模が巨大なことで有名です。

□墓参りに田舎行ったとき、お父さんが、「ここが、おまえたちの墳墓地だぞ」と言いました。

0760 憤 □ぼくは妹とが近所のがき大将にいじめられているのを見て、憤慨し、怒鳴りつけてやった。

□父が怒ると、仁王の憤怒の形相みたいだ。

□父にしかられているときに、ぼくが口答えをしたので、父は憤然として席を立ち、出て行きました。

0761 奮 □バレーボールの試合を観戦した。マッチ・ポイントで、ラリーの応酬になり、観戦席は興

いさむ 奮のるつぼと化した。

にゅうがくしけん む ふんぼつ じゅけんべんきょう
□入学試験に向けて、奮発して受験勉強をする。

0762 丙 □戦前の学校は甲乙丙丁の四段階で生徒の成績をつけていました。丙は「ひのえ」のこと
です。

ひのえうま とし か じ おお としう じよせい おっと いのち ちぢ つち ぞくしん むかし
□丙午の年には火事が多い、この年生まれの女性は夫の命を縮める、土いう俗信が、昔
からあったそうです。

□受験生は丙夜のころもまだ勉強に打ち込んでいます。

0763 併 □余病を併発したおばあさんは四つの薬を併用しています。

なんきょく かつこく き ち へいぞん
□南極には各国の基地が併存しています。

0764 柄 □国柄、家柄、それに人柄と、柄にはいろいろあります。

けいかん おうへい たいど み がら こうそく
□警官は横柄な態度で、身柄を拘束した。

0765 陛 □陛下とは現在の天皇・天皇の母と祖母に対する尊敬した言い方です。

てんのうへいか にほん しょこく しんぜん ふか かつこく ほうもん
□天皇陛下は日本とヨーロッパ諸国との親善を深めるために、ヨーロッパ各国を訪問される
予定です。

0766 塀 □大きな家はみごと白い土塀を周囲に巡らしています。

と なり いえ いたべい なか と こ
□ボールが、隣の家板塀の中に飛び込んだ。

0767 幣 □いくら紙だといっても、紙幣は貨幣なので、大切に扱いなさい。

ごへい さけ へいもの も じんじゃ まい い
□御幣や酒などの幣物を持って、わたしたちは神社に参りに行きましょう。

にほん せんぜん きんほんいせい へいせい
□日本でも戦前は金本位制という幣制がとられたこともある。

0768 弊 □悪弊や旧弊は弊害なのだから、やはり改めないといけない。

□こう言^いっては語^ご弊^{へい}があるかもしれないが、わたしたちの中^{なか}で日^ひ々^び弊^{へい}風^{ふう}が育^{そだ}っている。

0769 壁 □部^へ屋^やの壁^か紙^{べがみ}を張^はり替^かえて、壁^へ面^{きめん}を飾^{かざ}りをした。

□今^{ことし}年の夏^{なつ}は避^ひ暑^{しょ}のため^にに高^{こう}原^{げん}へ行^いきます。

0770 癖 □最^{さい}近^{きん}ぼくは「あ^あ、面^{めん}倒^{とう}だ」が口^{くち}癖^{くせ}になっ^てしまっ^た。怠^{なま}け癖^{くせ}がつい^たかな。

□母^{はは}は潔^{けつ}癖^{ぺき}で、家^か中^{ちゆう}をいっ^つも清^{せい}潔^{けつ}似^にしていま^す。

0771 偏 □父^{ちち}は偏^{へん}屈^{くつ}ですが、偏^{へん}狭^{きやう}な偏^{へん}見^{けん}にはと^られ^ていま^せん。

0772 遍 □通^{とお}り一^{いっ}遍^{ぺん}の説^{せつ}明^{めい}では祖^そ父^ふの苦^く難^{なん}に満^みち^たた人^{じん}生^{せい}遍^{へん}歴^{れき}は語^{かた}り^つ尽^つくせ^ませ^ん。

□日^に本^{ほん}全^{ぜん}国^{こく}に遍^{へん}在^{ざい}す^るお城^{しろ}を^みて^まわ^つた。

0773 弁 □弁^{べん}論^{ろん}大^{たい}会^{かい}には弁^{べん}舌^{ぜつ}さわ^やかな^な人^{ひと}が何^{なん}人^{にん}も出^{しゅつ}場^{じやう}して^いた、

□五^ご弁^{べん}の^{はな}に^はパ^ンジ^ー、ノ^バラ^など^があ^りま^す。

ほ

0774 保 □保^ほ育^{いく}室^{しつ}で、保^ほ母^ぼさん^と赤^{あか}ち^{たの}ゃ^{あそ}ん^が、楽^{たの}し^{あそ}そ^うに遊^{あそ}んで^いま^した。

□電^{でん}話^わを取^とり^つぎ^とき^は保^ほ留^{りゅう}に^しま^す。

□「保^ほ健^{けん}」は健^{けん}康^{こう}を^{たも}つ^とい^うこ^とで、保^ほ健^{けん}体^{たい}育^{いく}と^か保^ほ健^{けん}所^{じょ}と^かに^{つか}い^ます。「保^ほ險^{けん}」は損^{そん}害^{がい}

を^つぐ^なう^この^{ほしやう}保^い証^みと^いう^せい^{めい}で、生^{せい}命^{めい}保^ほ険^{けん}、健^{けん}康^{こう}保^ほ険^{けん}な^どと^{つか}い^ます。

0775 浦 □来^{らい}月^{げつ}、友^{とも}達^{だち}が、埼^{さい}玉^{たま}県^{けん}浦^{うら}和^わ市^しに引^{いん}越^こす^こと^にな^つた。

□海^{かい}岸^{がん}の砂^{すな}浜^{はま}で、い^かろ^かろ^うな^{かたち}形^{かたち}の^{かい}貝^{がら}殻^{がら}や、浦^{うら}波^{なみ}に^{あら}わ^られ^て丸^{まる}く^なつ^たガ^らス^のか^けら^を拾^{ひろ}い^まし^た。

0776 舗 □家^{いえ}の^{ちか}近^{じや}く^りの^ほ砂^さ利^り道^{みち}が、舗^ほ装^{そう}され^まし^た。

□駅^{えき}前^{まえ}に^{げんざい}現^{げん}在^{ざい}建^{けん}設^{せつ}され^てい^るマ^んシ^{ょん}は^{いち}一^{かい}階^{かい}が^{てん}店^ぼ舗^ぼに^よて^い予^よ定^{てい}だ^そう^です。

0777 墓 □お彼岸に墓参りをした。花を供え、墓前にぬかずいた。

□墓地には朽ち果てた墓標もあります。

0778 慕 □母は小学校時代に敬慕していた先生が、年ごとに増していく、と言います。

□ポチはわたしを慕ってどこにでもついてきたがります。

0779 簿 □母は仕事に役立てるため、簿記の勉強をしています。

□友達の電話番号を、小学校の名簿で調べて、電話をかけた。

0780 芳 □姉は芳紀まさに十八歳の女子大学生です。

□お父さんは、ウイスキーの芳じゅんな香りを楽しみながら、飲みます。

0781 邦 □ブラジルのように、日系人や在留邦人の多い国では邦字で書かれた新聞が発行されています。

□邦楽は雅楽・能楽など格調の高い音楽のほか、民間に伝わる民謡も含む。

□邦画の名作には本邦だけでなく、異邦でも高く評価されている作品があります。

0782 奉 □町の奉仕活動に参加し、海辺のごみを片付けました。

□一八六七年、徳川幕府の十五代将軍徳川喜一が、政治の実権を天皇に返したことを、大政奉還という。

0783 泡 □みんなに泡を吹かせようと発明した機械は発泡スチロールがつぶれてこわれ、水泡に帰してしまいました。

□古いガラス瓶には小さな気泡がいくつも入っています。

0784 胞 □植物の細胞は細胞壁で囲まれています。

□魚の浮袋を気胞というが、魚は空気の陵を調節して浮き沈みます。

0785 俸 一般の会社員は月俸をもらうが、プロ野球選手は年俸をもらっている。

仕事で失敗をしたある人が、減俸処分になった。

0786 倣 動物園のオウムは人の模倣よりも、カラスの鳴きまねやウグイスのまねのほうが上手です。

お兄さんに倣って、体の不自由な人が困っていたら、黙っていない助けてあげよう。

0787 峰 ヒマラヤの主峰エベレストは世界の最高峰です。

富士山の剣が峰に立って、南アルプスの連峰を見渡しました。

0788 砲 運動会に使う鉄砲は空砲です。号砲一発、競技開始です。

わたしは中学校に入ったら、砲丸投げの選手になろうと思っています。

0789 崩 山崩れが発生して、森やがけがいたるところで崩落しました。

大地震によって多くの家が崩れた。また、全崩壊したり、半崩壊したりしたビルも、数限りない。

新装開店のデパートに、人々が雪崩を打つように入った。

0790 飽 日曜日、勉強に飽きたので、絵をかいたのですが、どこか飽き足りなくて、不満が残る絵でした。

東京の人口は飽和状態に近いようです。

0791 褒 家のお手伝いでトイレ掃除をしたあ、お母さんから褒められ、褒美に青いリボンをもらいました。

おじいさんは黄綬褒章をもらって、たいへん喜んでいました。

けなされたり、褒められたりすることを「毀誉褒貶」といいます。

0792 縫 天衣無縫な人柄の彼女は以外に手先が器用で、裁縫が得意です。

転んだだけなのに、思うのほかけがはひどく、傷口を縫合しなければならなかった。

0793 乏 人間を含めたほとんどの動物は自分の体内でビタミンを作ることができないので、ビタミンが欠乏すると病気になってしまいます。

人間は貧乏だからと言って不幸せだとは限らない。

耐乏生活を経験したおかげで、無駄遣いをしなくなりました。

0794 妨 道に自転車を止めておくと、交通妨害になります。みんなの通行の妨げにならないよう、自転車は道の端に止めましょう。

破竹の勢いがあるぼくらのチームの優勝は誰も妨げられない。

0795 房 夜になって少し肌寒くなってきたから、暖房をつけてください。

官房長官は首相の女房役だといわれています

0796 肪 脂肪分をとらないと栄養も偏るし、元気がなくなってしまうます。

お父さんは、「脂肪がついた」といって、わき腹をつまみました。

0797 某 そのいたずらの犯人は近所の少年であるらしい。

某国の国王が旅に出た。秘密の旅だったので、行き先はごく一部の人間以外には某所としか知らされなかった。

0798 冒 激しい風雨を冒して山に入るような冒険は命のないがしろにする暴挙です。

冒頭に述べましたが、感冒にかかったらなによりも養生することです。

ぼくを臆病者と決め付けるのはぼくに対する冒涇以外のなにものでもありません。

0799 剖 わたしたちは理科の実験でカエルを解剖し、胃や腸を取り出しました。

0800 紡 この町には大きな紡績工場があります。

ぼうしよくき と つ ぼうすい きいと ま つ
□紡織機に取り付けられた紡錘には生糸が巻き付けられている。

0801 傍 □公共の場で、傍若無人に騒ぐな。

さいばん ぼうちょうせき ちゅうせん ひと ちやうだ れつ
□裁判の傍聴席を抽選する人たちが、長蛇の列をつくっていました。

0802 膨 □私立図書館には膨大な数の本があり、大勢の市民が利用している。

とうきやう きやうだい とし かつりよく み あふ ぼうちやう つづ
□東京という巨大な都市は活力に満ち溢れて、さらに膨張し続けている。

0803 謀 □弁護士が犯罪者の陰謀を暴いた。

とのさま ふ ま た けらい むほん おこ
□殿様のわがままな振る舞いに耐えられなくなった家来たちはついに謀反を起した。

0804 朴 □旅行のおみやげに、朴直な感じの青年が作った、素朴な味わいの人形をもらった。

ぼく ひとがら す
□ぼくはおじいちゃんの、朴とつな人柄がとても好きだ。

ようじ じゅんぼく あ あね ほ ぼ べんきやう
□用事の純朴さを会いする姉は保母になる勉強をした。

0805 牧 □牧場で、家畜たちが牧草を食べるのを見ました。

ゆうぼくみん みず ぼくそう ぼしょ うし ひつじ ほうぼく とち たび
□遊牧民は水や牧草のある場所でウシやヒツジを放牧しながら、いろいろな土地を旅して
生活します。

きやう きやうかい しんじゃ おし みちび ひと ぼくし
□キリスト教のプロテスタント教会で、信者を教え導く人を、牧師といいます。

0806 僕 □公務員が公僕といわれるのは彼らが公衆に奉仕するしもべだという意味からです。

むかし おお やしき おお ひと やと い はたら おとこ ひと げぼく よ
□昔の大きな屋敷では多くの人を雇い入れて働かせましたが、男の人は下僕と呼ばれて
いたそうだ。

せんぜん しょうせつ よ しゅじんこう しょうねん めんどう み よ ろうぼくで
□戦前に書かれた小説を読むと、主人公の少年の面倒を見る「じいや」と呼ばれる老僕出
てくる。

0807 墨 □書道の先生が墨汁をたっぷり含ませた筆で、墨痕鮮やかなお手本を書き上げてくれた。

墨絵を眺めていると心が落ち着いてくる。

0808 撲 伝染病を撲滅しようと、多くの医師が研究しているが、伝染病は決して撲滅できないだろう。

犬を棒で打ってはいけません。打ち方を間違えると、犬を撲殺しています。

友達と、相撲を取って、兄を強く打撲してしまった。

0809 没 読書に没頭していたら、いつの間にか夕日が没する時刻になっていた。

近ごろ、うちの近所に空き巣が出没している。

0810 堀 城の堀端がサクラ並木になっているので、わたしたちは毎年そこで花見をします。

弟は釣り堀で釣ってきたフナを、大切に飼っている。

0811 奔 大雨で川の水量が増し、本流が押し寄せて、堤防が崩れた。

「最近では自由奔放に生きる女性もはやされているね」と、父が、ドラマを見ながら、兄と話している。

姉はチャリティー・コンサートを催そうと、友だちと奔走している。

0812 翻 五月晴れの空の下に、こいのぼりが気持ちよさそうに、翻っています。

伯父さんは英語の本を翻訳をしている。

0813 凡 作家は非凡な才能に恵まれながら、凡庸な凡作を書いてしまいました。

四番打者が絶好のチャンスに、好球を凡打して凡退した。

毎日毎日、平々凡々と暮らすのが一番と、おばあさんは言います。

0814 盆 わたしの町ではうら盆に盆踊りを行います。

おじいさんは丹精込めて松の盆栽をいく鉢を育てています。

しほう やま かこ ぼんち たいよう はや しず
□四方を山に囲まれた盆地では太陽が早く沈んだ。

ま

0815 麻 □抜歯するとき、麻酔を打たれたら、唇まで麻痺してしまった。

ちち あま つく あぎぶで なつよう すず す つ
□父は亜麻から作った麻布出、夏用の涼しそうなスーツを新調しました。

かいとうらんま た かつやく きょうてき やぶ
□エースの快刀乱麻を断つ活躍で、強敵を破りました。

0816 摩 □地面との間に起こる摩擦によって、タイヤがかなり摩擦し、摩耗した。

しんじゆくふくとしん まてんろう よる しょうめい うつく
□新宿副都心の摩天楼は夜の照明が美しい。

0817 魔 □悪魔が、人間を魔力でたぶらかす。

とつぜん すいま べんきょう じゃま
□突然に睡魔がおそってきて、勉強が邪魔されてしまった。

0818 幕 □幕末の一八五三年に、ペリーが率いる黒船が来て、幕府は上を下への大騒ぎとなった。

やきゅう かいまく
□プロ野球が開幕した。

0819 膜 □人間の体は皮膚でおおわれ、消化器官などの臓器は粘膜で保護されている。

おうかくまく うえ まく まく
□横隔膜の上にある膜を、ろく膜という。

0820 又 □日本に来ていた母の友人がアメリカへ帰ることになった。九項で、母とその人は「又の日

あ にかいましょう」といって別れを惜しんでいた。

ともだち か またか
□友達から借りたものを、又貸してはいけない。

またぎ はなしほんとう
□これは又聞きの話だから本当のことなのかどうかはわからないよ。

0821 抹 □おばあちゃんに、抹茶を立ててもらった。

りょうしん ひとりたび ゆる いちまつ ふあん かく
□両親はぼくに一人旅を許してくれたが、一抹の不安は隠せないようすで、あれこれと、

まいにち ちゅうい
毎日、注意ばかりです。

0822 慢 □自慢だった成績も下がりだした。

ほは まんせい ようつう なや いた がんまん したら
□母は慢性の腰痛に悩まされていて、痛みをガンマンして働いています。

0823 漫 □毎日を漫然と過ごしていたら、頭の中が散漫になった気がする。

おじ とくい まんだん き さんぽ
□叔父さんの得意な漫談を聞きながら、散歩しました。

み

0824 魅 □友達が「きみのお姉さんは、魅力的だね」と言った。

あね えんそう みりよう
□姉のピアノの演奏に、わたしはすっかり魅了された。

0825 岬 □日本で一番北の岬は宗谷岬で、西の岬は与那国島の西崎です。

さだみさき ぶんごすいどう つ で さたみさきほんとう とったん みさき
□佐田岬はくちばしのように豊後水道に突き出た、佐田岬半島の突端にある岬です。

きいはんとう せんたん ふく くしもと しおのみさき ほんしゅうさいなんたん つち
□紀伊半島の先端に、いぼのように膨らんだ串本の潮岬は本州最南端の岬です。

0826 密 □人口密度の高い都市では麻薬の密売など、犯罪が多い。

しよくひん みつぺいようき い
□この食品は密閉容器に入れてください。

0827 脈 □小遣いが欲しいと母に頼んだら、だめだった。でも、脈がありそうだから、再度頼もう。

どうみやく けつえき しんぞう からだ かくぶ おく だ けっかん いっぽう けつえき からだ かくぶ しんぞう ほか
□動脈は血液を心臓から体の各部へ送り出す血管だ。一方、血液を体の各部から心臓へ運

じょうみやく
ぶ血管を静脈という。

ぶんみやく ととの みやくらく ぶんしょう
□文脈が整っていないと、脈絡のない文章になってしまった。

0828 妙 □ふと浮かんだ妙案から指した一手が、意外な妙手で、相手は神妙に投了した。

しょうじょ きやく どういそくみょう おうたい
□少女はお客様に、当意即妙に対応します。

む

0829 矛 □両親りょうしんから小言こごとを言いわれるとぼくは黙だまってしまうが、兄あにはいつも小言こごとの矛先ほこききをうまくかわす。

□「矛ほこを収おさめる」という慣用句かんようくは武器ぶきである矛ほこをしまうということから、戦たたかいを止やめることを意味いみする。

□甘あまいものを食たべると、太ふとるといいながらいつもケーキを食たべている姉あねの言葉ことばと行動こうどうは矛盾むじゆんしている。

0830 霧 □霧雨きりさめの向やまうに、山みがかすんで見えました。

□濃霧のうむの日は港ひに霧笛むてきが響ひびき渡わたります。

め

0831 盟 □ぼくらのチしームは市しの少年野球連盟しょうねんやきゅうれんめいに加か盟めいしました。

□グループで盟約めいやくを結むすんだ。

0832 銘 □感銘かんめいを受うけた科学者かがくしゃの言葉ことばを、銘記めいきしておこう。

□名なだたる銘柄めいがらの銘菓めいかをいただいたお礼れいに、銘酒めいしゆを贈おくりました。

□父ちちの座右ざゆうの銘めいを、わたしも肝きもに銘めいじました。

0833 滅 □横断歩道おうだんぼどうを歩あるいている途中とちゆうで青信号あおしんごうが点滅てんめつし始はじめた。

□世界各せかい地に、絶滅かくちの危機げつめつに瀕きしている生物ひんがいる。

0834 免 □はしかは一度いちどかかると、免疫めんえきができて二に度どとかからないそうだ。

□お兄がさんは、「学科試験がっかしけんが免除めんじょされないかな」と言いいながら、運転免許うんてんめんきよの試験しけんに出でかけた。

□手術しゆじゆつによって、危あやうく市しを免しれた。

も

0835 茂 雑木林の茂みの中に、わたしたちがいつも遊ぶ秘密の場所がある。

ぼくたちの通っている小学校の校庭では春、サクラが散ってしばらくすると、カエデやケヤキ、イチヨウなどの青葉が、大変な勢いで茂ってきます。

夏になると庭に雑草が繁茂するので、それを抜くのが、わたしたち兄弟の仕事になります。

0836 模 鉄棒で、先生の模範を模倣したが、逆上がりはできなかった。

美術の時間に、精巧な飛行機の模型を模写した。

0837 妄 妄想に駆られた心を、座禅を組んで静めます。

妄言に惑わされる心はすでに迷妄のふちに沈んでいます。

0838 盲 盲導犬はつねに盲目の主人に付き添って主人の安全を守ります。

人に盲従しているばかりではいけません。

0839 耗 父は体力が消耗しやすいからと、よく、栄養ドリンクを飲んでいます。

母はトイレットペーパーや洗剤などのなくなる困る消耗品はいつも、買い置きしています。

伯母さんは子どもを事故で亡くしてから、心神耗弱になっています。

0840 猛 勇猛な猛獣使いが、トラとライオンに芸を教えています。

この猛烈な暑さ、今年の猛暑は特別にひどいようです。

猛練習の成果を発揮して、九回裏に猛攻をかけて逆転に成功しました。

0841 網 網元の家に行って、魚網の網目の修繕を手伝いました。

□^{くわ}詳しい^ち地図^{こうつうもう}には交通網^{もうら}がすべて網羅されています。

□^{てつじょうもう}鉄条網^{もうまく}がいきなり網膜^とに飛び込^こんできた。

0842 黙 □^{ほんにん}犯人は黙秘権^{こうし}を行使して、沈黙^{ちんもく}を続^{つづ}けていた。

□^{げこうちゅう}下校中^{ともだち}、友達のお母^あさんに会^あって目礼^{もくれい}した。

0843 紋 □^{はは}母はお嫁入^{よめい}りのとき、家紋^{かもん}をつけた紋服^{もんぷく}を持^もってきたそうです。

□^{にほんじん}サクラは日本人^{あい}に愛^あされていて、伝統工芸品^{でんとうこうげいひん}の模様^{もよう}にもよく使^{つか}われてる。

□^こ湖^{きしべ}の岸^{こい}辺^なで恋^{こい}しを投^なげたら、静^{しず}かな湖^{こめん}面^{ほもん}にいくつの波紋^{なみず}ができました。

0844 匁 □^{もんめ}匁^{むかし}とは昔^{おも}の重^{たんい}さの単^{ひと}位^いの一つ^{いちもんめ}で、一匁^{やくさん}は約^{しちごぐらむ}三・七五^{おも}グラムの重^{あらわ}さを表^{あらわ}します。

□^{えどじだい}江戸時代^{もんめ}には匁^{かね}というお金^{たんい}の単^い位^{いちもんめ}がありました。一匁^{いちりょう}は一両^{ろくじゅうぶん}の六十分^{いち}の一^{いち}にあたるそ
うです。

□^こお母^{はないちもんめ}さんの子^{あそ}どものころ^{うた}には「花^か一匁^か」という遊^かび歌^{はないちもんめ}があり、「勝^か手^かうれしい、花^{はないちもんめ}一匁^か、
負^まけてくやしい、花^{はないちもんめ}一匁^か…」と歌^{うた}いながら、遊^{あそ}んだものです。

や

0845 厄 □^{むかし}昔^{かぞ}から、数^{どし}え年^{おとこ}で男^{にじゅうご}は二十^{よんじゅうに}五^{ろくじゅうさい}、四^{おんな}十二^{じゅうきゅう}、六^{さんじゅうさん}十^{やくどし}歳^{やくどし}、女^{やくどし}は十^{やくどし}九^{やくどし}、三^{やくどし}十三^{やくどし}、が厄^{やくどし}年^{やくどし}だとい
われ、厄^{やくおち}落^{やくおち}とし^{ふうしゅう}をする風^{ふうしゅう}習^{ふうしゅう}がある。

□^{ちち}父^{やっかい}は厄^{もんだい}介^{かか}な問^{かか}題^{かお}を抱^{かお}えて、うかぬ顔^{かお}をしてい

□^{いし}石^{たお}につま^{しゅんかん}ずいて倒^てれた瞬^{からだ}間^{こっせつ}に、手^{こっせつ}で体^{さいやく}をかばおうとして骨^{さいやく}折^{さいやく}した。とんだ災^{さいやく}厄^{さいやく}だった。

0846 訳 □^{こうこうせい}高校生^{あね}の姉^{えいご}は英^し語^{しょうせつ}の詩^{げんぶん}や小^{やくぶん}説^{りょうほう}を、原^よ文^よと訳^よ文^よの両^よ方^よで読^よんでい

□^{つか}使^{こづか}った小^{うちわけ}遣^かいの内^か訳^かをノ^かート^かに書^かいた。

ゆ

0847 愉 □愉快に毎日を送れるよう、朝早く起きて体操をします。

□家族全員で温泉に行って、愉悦のときを過ごしてきました。

0848 諭 □授業中いたずらをした生徒に、教諭はこんこんと諭し、説諭した。

□義務教育が終わった高校では規律や規則に反した生徒を諭旨退学処分に付すことがあります。

□日本には戦前、軍人勅諭というものがありません。

0849 癒 □風邪で寝込みましたが、ようやく治癒しましたので、明日から学校へ行きます。

□おじいちゃんの骨折の快癒祝いを、家族みんなでしました。

0850 唯 □彼は上司にどんなことを命じられても、唯々諾々として従う。

□父の唯一の趣味は釣りです。

0851 幽 □日本の幽霊はなぜか足のない姿で絵かれることが多い。

□江戸時代には一家の主人が罪が犯すと家族まで幽閉されることがあった。

0852 悠 □地震だというのに、お父さんは悠揚迫らぬ態度で、悠然として座っています。

□出発の時刻が迫ってきても、姉は悠長に編み物をしています。

□ランナーはホームに悠々生還しました。

0853 猶 □絵を仕上げるために、先生から一日の猶予をもらいましたが、もう一刻の猶予もできない

事態に立ち至ります。

0854 裕 □試験の前日にファミコンをするなんて、きみはずいぶん余裕があるだな。

□裕福な家庭に生まれたからって、幸せとは限らない。

0855 雄 □カボチャ、キュウリ、イチョウ、マツなどの花には、雄しべだけを持つ雄花と、雌しべだけ

を持つ雌花との二種類があります。

□山の頂上に立ってみると、あたりに雄大な景色が広がっていました。

□最近、海外に雄飛するプロ選手が増えてきました。

0856 誘 □母は、いま、保険の勧誘に来た人の話を聞いています。

□朝刊に、幼女誘拐事件の記事がのっていました。

0857 憂 □ある学者が、人類の未来を憂える発言をしていた。

□球場の観客たちは一喜一憂しながら試合の成り行きを見守っている。

0858 融 □お店を改装するために、金融機関から融資を受けました。

□意見が違っても、互いに意見を融合させよう。

よ

0859 誉 □今回は負けたが、次の試合ではチームの名誉ばん回のために全力を尽くそう。

□オリンピックの水泳競技で、日本代表が金メダルの栄誉に輝いた。

0860 羊 □羊飼いの少年は毎日、子羊の世話をしています。

□「毛糸って何から作られているの」と弟に聞かれたので、「羊毛だよ」と教えてやった。

□昔、中国で、ある肉屋が羊の頭の看板を出しているのに、本当はイヌの肉を売ってご

まかしていたという話から、見かけだけよくて中身がよくないことのたとえを羊頭狗肉
といいます。

0861 庸 □叔父は凡庸な人間を自認しているが、会社で重要な地位に登庸された。

□討論会の議長には中庸を得た人が適任だと思います。

□大化の改新で、日本にも唐の租庸調という税制が取り入れられました。

0862 揚 □たこを高く揚げて意気揚々としていたら、風がないで池に落ち、挙げ句の果てに敗れてしまった。

□貨物の荷揚げ作業をしました。

0863 揺 □大地を揺り動かす大地震にぼくはすっかり動揺してしまい、家から飛び出した。

□今や揺るぎない地位を占めているコンピューターも、揺らん期にはいろいろな転変があった。

□お父さんが巨大を揺すらせて歩くと、家が揺らぎます。ぼくが暴れても、家は揺れません。

0864 窯 □米や水を加熱するかまは釜、かわらや陶器を焼くためのかまは窯という字を使うんだよ。

□わたしは佐賀県の有田町にある窯元を訪ねました。

0865 養 □毎日、運動をして体力を養いながら、本を読み勉強して、教養を高めよう。

□叔父夫婦は友人の子どもを養子にして、養父母になりました。

□わたしたちの町はウナギの養殖が盛んです。

0866 擁 □ナポレオンは兵隊を擁して、エジプト遠征に出発した。

□教会の捨てられていた赤ん坊の母親が訪れ、その子を抱擁し、泣きぐれた。

0867 謡 □歌謡曲だけでなく、民謡にももっと親しみたい。

□祖父は書齋で熱心に謡曲の謡を練習しています。今度、謡吟の会が開かれるのです。

□幼稚園で、童謡をたくさん教えてもらいました。

0868 抑 □怒りを抑え、感情を抑制して話を注意深く聞いて、冷静な判断を下そう。

□本を音読するときは抑揚をつけて読む。

0869 翼 □部屋から出たことのないネコを外に連れ出したら、小心翼翼のありさまでした。

かわた かつやく ゆうしょう いちよく にな
□川田くんはリレーで活躍し、優勝の一翼を担いました。

ら

0870 裸 □親戚の叔父さんが、「火事で家が焼けしまい、丸裸になってしまった」と手紙をよこしました。

□イチヨウ夜スギ、マツなどのように、種で増える植物で、種になる部分がむき出しで裸の状態のものを、裸子植物といいます。

□お姉さんはある作家の赤裸々な一生を描いた映画を観て、感激していました。

0871 羅 □百科事典には森羅万象が羅列して、網羅されています。

□船員がのびのびと甲羅干しをしている。

0872 雷 □稲光が雷雲を鋭く走って雷鳴がとどろき、激しい雷雨になった。

□遠雷だと思っていたら、春雷特有の寒冷前線の移動で、近くに落雷した。

□なにごととも付和雷同するのはよくありません。

0873 酪 □ぼくのお父さんは酪農を営んでいます。

□牛乳などを加工してつくった脂肪分の多い食べ物を、乳酪と呼びます。

0874 覧 □学級会で、係りの一覧を作りました。

□現代絵画の展覧会に行きました。

0875 濫 □今年の梅雨は大雨が続き、日本の各地で川のはん濫が起きた。

□ぼくは読書が好きで、今は推理小説を乱読している。

0876 欄 □新聞の投書欄に、母の投書がのった。

□おじいちゃんの家の子供部屋の欄間はみごとな透かし彫りです。

り

0877 吏 □新聞では連日のように管理の汚職事件が報じられています。

□ひいおじいちゃんが起して品物を調べていたら、「事務吏員」という肩書がある証明書が出てきた。

□叔父さんが市役所に就職することになりました。叔父さんは「能吏になりたい」と言っています。

0878 里 □人里離れた山を歩くと、心が洗われるようだ。

□わたしは伯母の家の里子だが、生みの親からも里親からも大切にされ、幸せだ。

□海里は海上での距離を表す単位で、一海里は約一八五二メートルです。

0879 痢 □ぼくは冷たい牛乳を飲みすぎて、下痢になりました。

□赤痢は赤痢菌が原因で、大腸に起こる病気で、法定伝染病の一つに定められています。

0880 履 □教育実習を履修している姉は履歴書の資格欄似教員と書いています。

□履物の中では草履やげたなどが苦手です。

0881 離 □きみたちは授業中によくおしゃべりをするので、机を離すぞ。

□父は離島で教師をしていたが、離職することになった。島から離れる日、生徒たちは離別を惜しんで泣いたそうだ。

□飛行機が離陸したあと、パイロットは長距離フランの疲れをいやすために、ホテルで十分睡眠をとった。

0882 柳 □おばあちゃんは荷物を整理しながら、「昔は柳行李に入れて運んだものだよ」と言いました。

□ぼくたちを廊下に並べて、先生は柳びを逆立て怒っています。

□川柳は江戸時代に、「柳多留」を著した柄井川柳に由来する。

0883 竜 □竜巻は地上のものや海水などを空高く巻き上げる、激しい空気の渦巻きだ。

□竜宮は乙姫や竜の姿をした竜神が住むという御殿で、「浦島太郎」の伝説にも登場します。

□計画を竜頭蛇尾に終わらせないように、頑張ろう。

0884 隆 □大きな地震が起きると、地盤が隆起して地形が変わることがあります。

□人気商品を開発した会社はばく大な利益が上がり、隆盛を極めていきます。

□筋骨隆々のプロレスラーがリングの上に登場し、客席からどよめくような歓声が上がりました。

0885 硫 □箱根の温泉は硫黄のにおいがする、硫黄泉です。

□硫酸は色にもおいもしませんが、粘りのある物質です。水に混ぜると高い熱を出します。

0886 虜 □アンネ・フランクは第二次世界大戦中、ナチスの捕虜にされた。

□虜囚に親切に接した兵士は戦争が終わって、かつての虜囚と友達になった。

0887 慮 □遠慮せずに、率直に語ろう。

□修学旅行中に不慮の事故が起きないように、先生たちはいろいろな配慮をします。

0888 猟 □漁期になると、裏山に猟犬を連れたいハンターが、押し寄せる。

□このあたりの山林は禁猟区域です。

□アメリカに留学した兄の手紙には「暇さえあれば、図書館で文学書を渉猟している」と書かれていた。

0889 僚 国会で官僚が質問を受け、官僚や僚友の大臣と相談したうえで、答弁した。

叔父さんは仕事のあと、同僚とよく飲みに行くそうだ。

アクロバット飛行をする飛行機は僚機と息がぴったら合わないとうまくいかない。

0890 寮 姉の学生寮の寮母さんは厳しいけれど優しく、寮生を娘のように見守っている。

祖父は旧制高校の寮生だった友達と飲むと、大声で寮歌を歌う。

叔父は社員寮の寮舎を管理しています。

0891 糧 おじいちゃんの少年時代は戦時中で食糧事情が悪く、いつもおなかをすかせていてそうです。

戦国時代は兵糧攻めという方法がよく使われた。

人間が生きていくのに、糧食はもちろん重要だが、心の糧も欠かせない。

0892 厘 お金の単位の厘は一万円の千分の一で、一八七一年から一九五三年まで使われていたそうです。

割合の単位には割、分、厘などがあり、割は一の十分の一、分は一の百分の一、厘は一の千分の一を表す。

0893 倫 人倫にもとる行為をしないように、倫理を学びます。

不倫は反道徳的な行為です。

0894 隣 友達と騒いでいたら、隣近所の迷惑になるから静かにしなさいと、母に注意された。

わたしたちの小学校の体育館は校舎に隣接して立っています。

0895 臨 用意万端整えて、試験に臨んだ。

臨時列車に乗って、臨海学校へ行った。

あの人は機転が利くので、いつも臨機応変の対応ができる。

る

0896 累 累積した赤字を累計すると、膨大な額に累増していることがわかった。

累代の係累が一堂に会すと、累々とした思い出がよみがえってくる。

いたずらをして、友達に累を及ぼした。

0897 罌 一罌に出罌した。すぐに盗罌したら、罌審にアウトを宣告された。

離れ島の孤罌を見物に行きましたが、罌壁が崩れていて、見る影もありませんでした。

れ

0898 励 ぼくたち野球部員はお互いに励まし合い、練習に励んだ。

ピアノの発表会の当日、おばあちゃんから、激励の電報が送られ、感激しました。

町民にスポーツを奨励する町長は公営のテニス場や公園のクリケット場などのスポ

ーツ設備の充実に力を入れている。

0899 鈴 予鈴がなると、みんな一斉に走って席につきます。

お店の中に入ると、呼び鈴が自動的に鳴ってお店の人が奥から出てきました。

0900 霊 霊場の霊域に立ち入ると、霊気に打たれる。

母は祖母の霊前にぬかずき、死者の霊魂を慰霊に努めました。

霊妙な音楽の調べに、靈感を受けた。

0901 隸 一八六三年、アメリカの大統領リンカーンは奴隷解放宣言をした。

歴史の本を読むと、弱い国が、大国に隸属した話ができます。

0902 麗 カニングの現状を発見した先生は「きみたちの麗しい友情には感動の涙が出るよ」

い
と 言 っ て、苦 笑 した。

び じ れ い く な ら た ぶ ん し ょ う ち せ つ こ こ ろ ぶ ん し ょ う ひ と こ こ ろ
□ 美 辞 麗 句 を 並 べ 立 て た 文 章 よ り も、稚 拙 で も 心 の も っ た 文 章 の ほ う が、人 の 心 を ゆ さ
ぶ る。

お ど こ い し ょ う か れ い ひ ろ う
□ 踊 り 子 は 麗 々 しい 衣 装 で、華 麗 な ダ ン ス を 披 露 した。

0903 曆 □ 現 在 の カ レ ン ダ ー に は 太 陽 曆 が 用 い ら れ て い ま す が、日 本 で は 昔 は 太 陰 曆 を 使 用 し て い
ま した。

0904 劣 □ 人 と 優 劣 を 競 お う と す る か ら、劣 等 感 に さ い な ま れ る ん だ。

あ つ と う て き れ つ せ い ぼ ん か い か
□ 圧 倒 的 な 劣 勢 を 挽 回 し て 勝 っ た。

0905 烈 □ 球 場 の 観 客 た ち は 応 援 す る チ ー ム に 熱 烈 な 声 援 を 送 っ た。

れ つ し ん く ず い え こ わ じ わ お つ よ じ し ん し ん ど ろ く あ
□ 烈 震 は が け が 崩 れ、家 が 壊 れ、地 割 れ が 起 き る く ら い の 強 い 地 震 の こ と で、震 度 六 に 当 た
り ま す。

0906 裂 □ 目 の 前 で 風 船 が 破 裂 し た の で、わ た し は 驚 い て 思 わ ず 叫 び 声 を あ げ て し ま っ た。

て つ ぼ う お あ し れ つ し ょ う お
□ 鉄 棒 か ら 落 ち て、脚 に 裂 傷 を 負 っ た。

0907 廉 □ 母 は 家 具 の 在 庫 処 分 セ ン タ ー で、在 庫 品 を 廉 売 し て い た の で、応 接 セ ッ ト を 廉 価 で 買 っ た。

□ ぼ く は 政 治 家 は 贈 賄 な ど 破 廉 恥 な 行 い を し な い で、清 廉 潔 白 な 政 治 を 目 差 し て ほ し い と
お も
思 う。

か れ れ ん ち ゅ く ひ と が ら か が つ き ゆ う い い ん す い せ ん
□ 彼 は 廉 直 な 人 柄 が 買 わ れ て、学 級 委 員 に 推 薦 さ れ ま っ た。

0908 鍊 □ 鍊 金 術 は 近 世 初 期 ま で ヨ ー ロ ッ パ で 盛 ん で し た。

□ わ た し た ち は 鉾 山 の ふ も と の 製 鍊 所 を 見 学 し ま っ た。

ろ

0909 炉 □ いろ り の ある 古 い 家 を 訪 ね、炉 端 で ご 飯 を 食 べ ま っ た。

□きょうはとても寒さむかったので、使い捨つかすての懐炉かいろうを持って学校がっこうへ行いきました。

0910 露 □早起はやおきをして散歩さんぽした。朝顔あさがおにぬれた草花くさばながとてもきれいでした。

□ぼくの家いえではいつも、近くちかで採とれる露地栽培ろじさいばいの野菜やさいを食たべています。

0911 郎 □式場しきじょうに、白しろいタキシードの新郎しんろうとウエディングドレスの新婦しんぶとが初々しゅじゅしく入場にゅうじょうしてき
ました。

□叔父おじはこともの数かずを聞きかれると、「野郎やろうばかり三人さんにんもいるんだよ」と笑わらって答こたえる。

0912 朗 □明朗めいろうな彼女かのじょは朗読ろうどくがとつても得意とくいです。

□ぼくはいとこが泊とまりに来くるといふ朗報ろうほうを聞きいて、うれしくなつた。

□カルタをとりで、読よみ手の祖父そふが朗々ろうろうと百人一首ひやくにんいっしゅを朗詠ろうえいした。

0913 楼 □ニュー YORK に行おこなつたら、なんといつても摩天楼まてんろうにのぼつてみたいです。

□参道さんどうの奥おくの楼門ろうもんをくぐると、ふるい大おおきな楼閣ろうかくが立たっていました。

0914 漏 □漏斗ろうとに穴あながあいていて、そころすいから漏水ろうすいしてしまつた。

□遺漏いろのないようにサクラ名簿めいぼを作成さくせいしましたが、肝心かんじんの先生せんせいが脱漏だつろうしてしまいました。

□火事かじの原因げんいんは漏電ろうでんだつたと、町会まちかい長ちやうが漏もらしました。

わ

0915 賄 □高校こうこう生の兄あには賄まかないつきの寮りやうで生活せいかつしている。

□賄賂わいろを送おくることは贈賄ぞうわい、受け取ることは収賄しゅうわいと呼ばれ、どちらも罪つみになる。

0916 惑 □一匹いっぴきの飼かい犬いぬが逃にげ出だし、近所きんじよの人ひとたちは迷惑めいわくしたそうだ。

□初はじめて行おこなつた街まちで道みちに迷まよい、ぼくは当惑とうわくしてしまいました。

0917 枠 □P T A の会則かいそくの枠内わくないで活動計画かつどうけいかくを立て、予算よさんの枠組わくぐみを作つくつてみた。

みずいろ かべ しろ まどわく
□水色の壁に白い窓枠のレストランが、遠くに見えてきた。